VIANO
取扱説明書

Mercedes-Benz

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をお使いになる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。

  スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオに関しては、別冊の「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- オプションや仕様により異なる装備には＊マークがついています。
- 関連する内容が他のページにもある場合は、該当ページを（**3-50**）のようなかたちで示しています。
- 操作手順などは、文頭に▶を記しています。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店または指定サービス工場におたずねください。

ダイムラー・クライスラー日本株式会社

表記と記載内容について

警　告

重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。

注　意　！

けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。

知　識

知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。

環　境

環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

環境保護について

ダイムラー・クライスラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- 指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

警　告

車両には警告ラベルが貼付されています。これらの警告ラベルには危険な状況を回避するための情報をはじめ、車を安全に使用するための情報が記されています。

警告ラベルは絶対にはがさないでください。

環　境

ダイムラー・クライスラー社は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

1. 安全のために

2. 安全装備

3. 運転する前に

4. 運転するとき

5. 快適・室内装備

6. 万一のとき

7. 点検と整備

8. サービスデータ

9. こんなときは

10. さくいん

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンを始動したとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートの安全確認

- 走行を開始する前に、セカンドシートとサードシートが正しく固定されていることを確認してください。正しく固定されていないと、急ブレーキや急ハンドルなどのときにセカンドシートやサードシートが動いたり、外れたりして、乗員が重大なけがをするおそれがあります。
- セカンドシートを前方に折りたたんだときは、サードシートに人を乗せて走行しないでください。走行中に、前方に折りたたんだセカンドシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に異物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

走行する前に

燃料の給油

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 目的地まで余裕を持って走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。
- セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
  - ◇ エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じる
  - ◇ 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なう
  - ◇ 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去する
  - ◇ 作業中は車内に戻らない（帯電するおそれがあります）
  - ◇ キャップの開閉（3-98）は確実に行ない、火気を近づけないようにする
  - ◇ ガソリンを垂らさないように注意する（塗装面を損傷するおそれがあります）
  - ◇ 気化した燃料を吸い込まないように注意する
  - ◇ 給油作業をする人以外は燃料給油口に近づかない
  - ◇ ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守る

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積み込んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバー＊の上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のある物は、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

燃える物は積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（2-15）を使用することが法律で義務付けられています。

子供はセカンドシートまたはサードシートに

- 子供はできるだけセカンドシートまたはサードシート（左側席を除く）に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、できるだけセカンドシートまたはサードシート（左側席を除く）に装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着して、助手席シートを最後部に移動してください。
- 子供を助手席に座らせるときは、シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- スライディングドアとテールゲートのチャイルドプルーフロック（3-56、59）やリアスライディングルーフ＊とベンチレーションウインドウのセーフティスイッチ（3-82）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ＊から身体を出さない

子供がウインドウやルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

慣らし運転

慣らし運転

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

知　識

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと臭いはなくなります。

最初の1,500kmまでは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ティップシフト位置 3 、 2 、 1 は山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

- エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。
- **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。
- **エンジンブレーキ**：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッション、駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

知　識

エンジンブレーキ：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

走行するとき

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。

なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。安全な場所に停車してから使用してください。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキは効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進し、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いたあとでもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。

それでも警告灯が消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。

漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすい物がある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、フロントウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動きだし、事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になるおそれがあります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分にとってください。

- 濡れた路面では、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行したときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」もあわせてお読みください(4-9)。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーが P 、N 以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込み、踏みしろや踏み込んだときにペダルが一定のところで停止することを確認してください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P に入っていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- セレクターレバーを D 、R に入れるときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- 走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルの踏み具合により停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 車が停車する前に、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P に入れ、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退した後は、すぐにセレクターレバーを P か N に戻すように心がけてください。R に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだあとは絶対に運転しないでください。
- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。
- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをし、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。

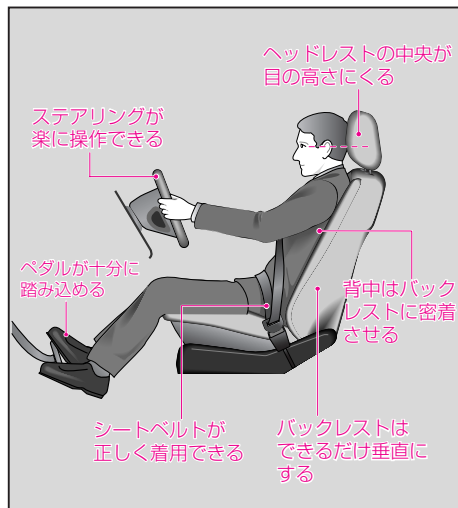
  定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルの添加剤などは一切使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場におたずねください。

ナビゲーションシステムは走行中に操作しない

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

警　告

- 運転席の乗員は、必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意　!

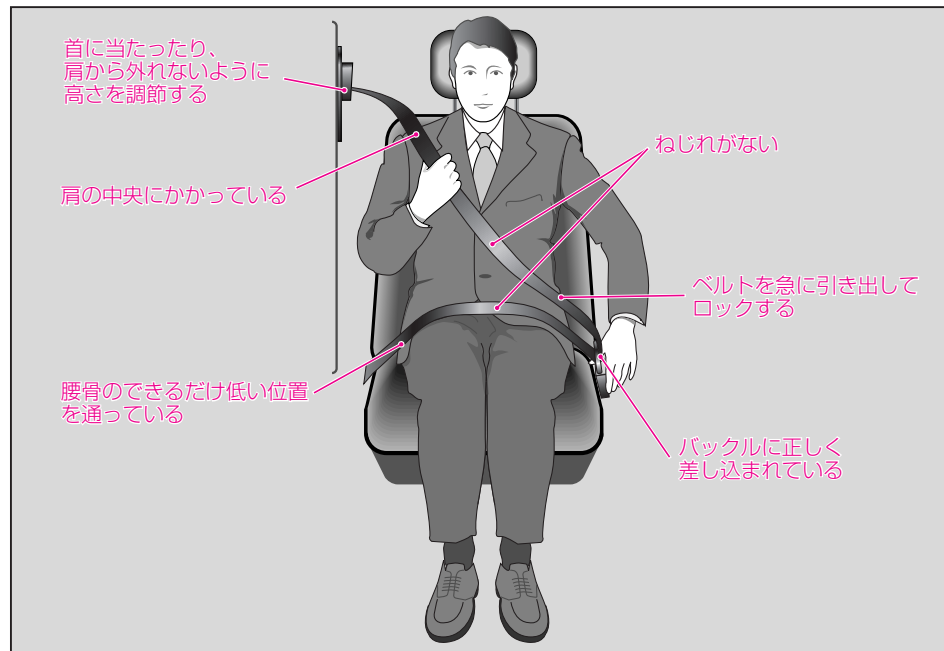
- シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- シートの一部が身体や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- 子供を乗せているときは十分注意してください。誤ってドアのシート調整スイッチ＊に触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。
- セカンドシートとサードシートが確実に固定されていることを確認してください。

※シートの形状などは車種や仕様により異なります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を軽減させる乗員保護装置であり、急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。

シートベルトの効果を十分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。

※シートの形状などは車種や仕様により異なります。

シートベルトの着用

① プレート
② バックル
③ 解除ボタン

シートベルトを着用する

▶ プレート①を持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

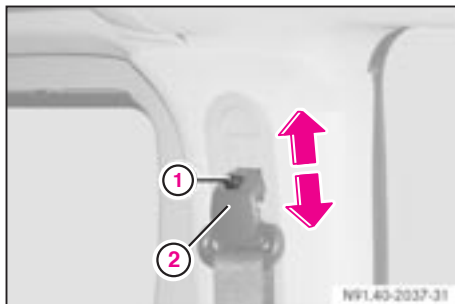
▶ シートベルトにねじれがないことを確認し、プレート①の先端をバックル②に差し込みます。

▶ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。

▶ 肩を通るベルトが肩の中央を通ることを確認します。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート①を持ち、バックル②の解除ボタン③を押し、シートベルトをゆっくりと巻き取らせます。

フロントシートベルトの高さ調整

① ロック解除ボタン
② アンカー

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

高さは4段階に調整できます。

フロントシートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、アンカー②を持ちそのまま押し上げます。

▶ 下げるときはロック解除ボタン①を押しながら下げます。

調整後は確実にロックしていることを確認してください。

警　告

- 全員がシートベルトを着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトの乗員保護機能が発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。
  - ◇ バックレストを大きく傾けないでください。
  - ◇ コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
  - ◇ シートに深く腰かけてください。
  - ◇ 肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、衝突したときなどに頭や首、肋骨や腹部に衝撃を受けます。
  - ◇ 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなどに腹部が強く圧迫されます。
  - ◇ シートベルトがねじれた状態で着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。
  - ◇ 1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
  - ◇ シートベルトクリップなどを使ってシートベルトにたるみをつけないでください。
  - ◇ 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
  - ◇ 着用前に、シートベルトに損傷がないか確認してください。

注　意　!

- シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。
  - ◇ ドアに挟んだり、鋭利な部分に当てない
  - ◇ たばこの火や熱いものを近づけない
  - ◇ バックル部分に異物を入れない
  - ◇ 着用時は胸ポケットにペンや眼鏡などを入れない
  - ◇ 分解や改造などをしない
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。

- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトテンショナー

フロントシートベルトにはシートベルトテンショナーが装備されています。

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

ベルトフォースリミッター

フロントシートベルトにはベルトフォースリミッターが装備されています。

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を軽減します。

注　意　！

- シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。
- シートベルトに強く締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実につかみながらバックルの解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により、解除したプレートが跳ね返り、けがをするおそれがあります。
- バックル部分に作動の妨げになるようなものがないことを確認してください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。

知 識

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアウインドウやドアを開いて換気を行なってください。
- シートベルトテンショナーの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- シートベルトテンショナーが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- 助手席シートに重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。
- 未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

シートベルト警告灯

エンジンを始動すると点灯し、数秒後に消灯します。点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

シートベルト警告音

運転者がシートベルトを着用せずにエンジンを始動すると、マルチファンクションディスプレイに "ｳﾝﾃﾝｾｷ ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ ｦ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!" と表示されるとともに、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグ

エアバッグは、シートベルトの効果を補助する装置です。

エアバッグの効果を発揮させるためには、シートベルトの正しい着用が条件になります。

衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されているエアバッグが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減します。

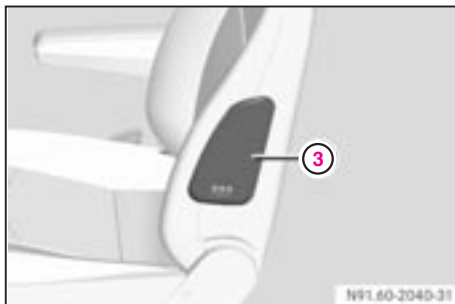
衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

知　識

SRSはSupplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

運転席 / 助手席エアバッグ

① 運転席エアバッグ
　ステアリングパッド部
② 助手席エアバッグ
　助手席ダッシュボードパネル部

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

ソラックスサイドバッグ

③ ソラックスサイドバッグ（前席）
運転席シートと助手席シートのバックレスト側面

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のソラックスサイドバッグが作動し、上体への衝撃を軽減します。

SRS エアバッグシステム警告灯

エンジンスイッチを**1**の位置にすると数秒間点灯します。また、**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないとき、走行中に点灯したときは、エアバッグシステムやシートベルトテンショナー、チャイルドセーフティシート検知システムの故障です。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

エンジンスイッチが**1**の位置のときに、警告灯が一瞬消灯することがありますが、故障ではありません。

警　告

- エンジン始動後もエアバッグシステム警告灯が点灯するときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないことがあります。また、不意に作動することもあります。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後方に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。
- ステアリングのパット部やエアバッグ収納部に、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼り付けたり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。
- フロントシートにカバーをするときは、必ず専用のシートカバーを使用してください。市販のシートカバーを使用すると、ソラックスサイドバックの作動が妨げられるおそれがあります。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。また、動物などがいないことを確認してください。
- 膝の上に物を抱えるなど、エアバッグと乗員との間に物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。

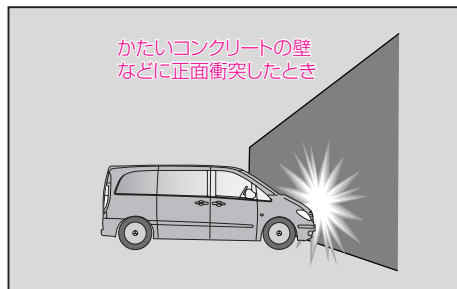
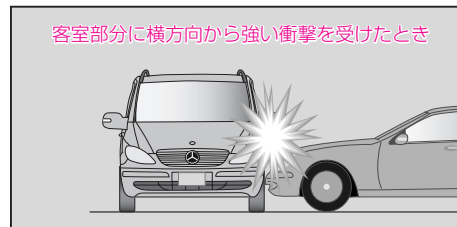
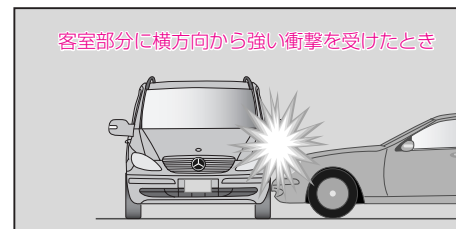
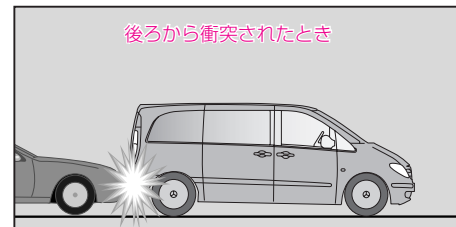
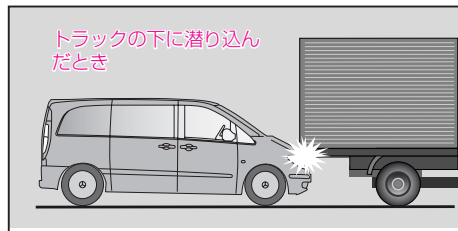
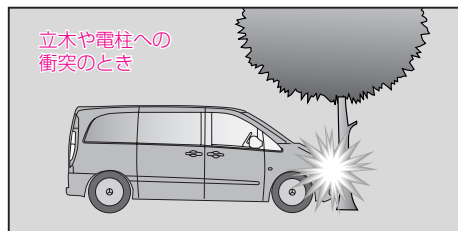
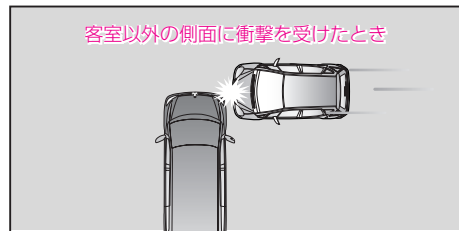
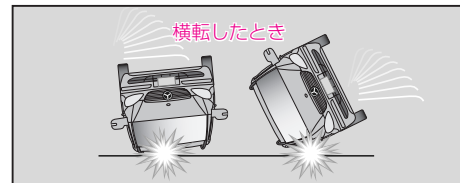
注　意　!

- エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。
- エアバッグの作動後はエアバッグや関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

知　識

- 前席の乗員がシートベルトを着用していないときは、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。
- 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。
- 助手席シートに重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席エアバッグが作動することがあります。
- エアバッグが作動すると、エアバッグシステム警告灯が点灯します。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を解除するときは、非常点滅灯スイッチを押します。
- エアバッグの作動時にわずかながら白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  また、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアウインドウやドアを開いて換気を行なってください。
- エアバッグの作動時に爆発音が聞こえますが、通常では聴力への影響はありません。
- ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。
- 未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

運転席 / 助手席エアバッグが作動するとき

ソラックスサイドバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグが作動しない場合があるとき

ソラックスサイドバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

チャイルドセーフティシート

シートベルトは身長150cm以上の人が着用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや取り付け方法については、製品に添付されている「取扱説明書」をお読みください。

警　告

- 6歳未満の子供を乗せるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない体格の子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長150cm未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- チャイルドセーフティシートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時などに身体を車外に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

  子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは、セカンドシートまたはサードシート（左側席を除く）に装着してください。
- サードシートの左側席には、チャイルドセーフティシートを装着しないでください。
- セカンドシートまたはサードシートにチャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストを起こして確実にロックしてください。
- やむを得ず助手席に装着するときは、前向きに装着し、助手席をもっとも後ろの位置にしてください。

- 助手席には、後向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらずチャイルドセーフティシートを後向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側のサンバイザーに貼付されています。

- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実にシートに装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

純正チャイルドセーフティシート

ダイムラー・クライスラー社の純正チャイルドセーフティシートには、助手席に装着すると、助手席エアバッグの作動を解除する、センサー付きシート（ベビーセーフ、デュオ、キッド）があります。

純正チャイルドセーフティシートには、以下のタイプがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフ	10kg以下	生後9ヵ月位まで
デュオ	9～18kg	生後8ヵ月～4歳位
キッド	15～36kg	4歳～12歳位

※チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の発信 / 受信を行ない、チャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

警　告

後向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ずセンサー付き純正チャイルドセーフティシートのみを使用してください。

センサーが付いていないタイプのチャイルドセーフティシートを使用すると、エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

注　意 ！

助手席のシート座面とセンサー付き純正チャイルドセーフティシートの間に物を入れないでください。チャイルドセーフティシートを検知できなくなるおそれがあります。

知　識

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しても、ソラックスサイドバッグとシートベルトテンショナーの機能は解除されません。
- 純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席エアバッグオフ表示灯

① 助手席エアバッグオフ表示灯

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着しているときにエンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯①が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。

点灯しないときは、チャイルドセーフティシート検知システムが故障しています。助手席でチャイルドセーフティシートを使用せずに、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

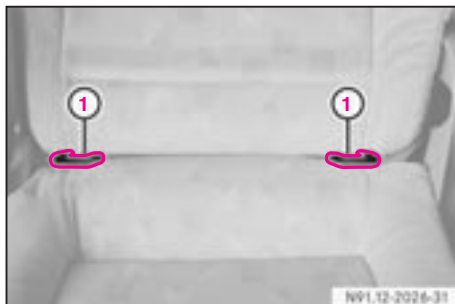
警　告

- センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。純正チャイルドセーフティシートはセカンドシートまたはサードシート（左側席を除く）に装着してください。また、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
- 助手席のシート座面に、電源の入ったパソコンや携帯電話などの電子機器、または磁気カードやICカードなどを置かないでください。チャイルドセーフティシート検知システムが誤作動し、事故のときに助手席エアバッグが作動しないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプの純正チャイルドセーフティシートは必ずセカンドシートまたはサードシート（左側席を除く）に装着してください。やむを得ずチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず前向きに装着し、助手席シートの位置をもっとも後ろの位置にしてください。

注　意　！

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを助手席に装着していないときは、エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にすると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときや点灯後に消灯しないときは、システムの故障です。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート固定装置

① 固定装置

セカンドシートと、サードシートの中央席 / 右側席に、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定装置①を装備しています。

チャイルドセーフティシートを固定装置に装着する

▶ バックレストをもっとも後方の位置まで倒します。

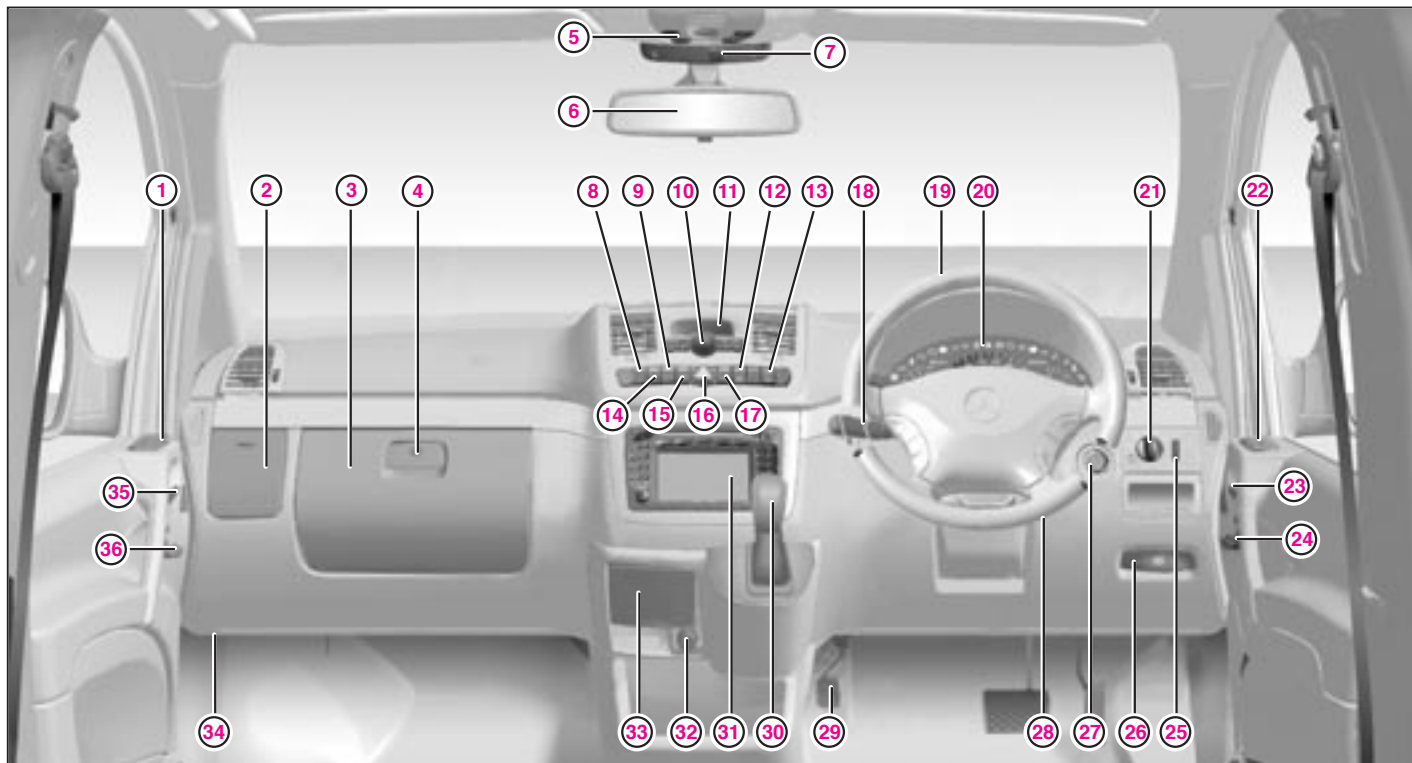
▶ 固定装置①にチャイルドセーフティシートを装着します。

▶ バックレストをもっとも起こした角度にします。

警　告

- この固定装置は、体重22kg以下の子供を乗せるときに使用してください。
- チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着のしかたを誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、バックレストをもっとも起こした角度でロックされていることを確認してください。
- チャイルドセーフティシートとシート座面の間に物を入れないでください。
- チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、指定サービス工場で新品に交換してください。

インストルメントパネル

インストルメントパネル

※装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置や形状が実際の車両と違うことがあります。

	名称	ページ
①	ドアウインドウスイッチ（助手席ドア）	3-78
②	カップホルダー	5-28
③	グローブボックス	5-25
④	グローブボックスハンドル グローブボックスキーシリンダー	5-25
⑤	フロントルームランプ リーディングランプ スライディングルーフ＊操作部	5-17 3-84
⑥	ルームミラー	3-91
⑦	サングラスケース	5-27

	名称	ページ
⑧	シートヒータースイッチ＊（助手席）	3-24
⑨	リアワイパースイッチ テールゲートウォッシャー噴射スイッチ	4-26 4-26
⑩	エアコンディショナーコントロールパネル	5-3～5-13
⑪	エアコンディショナーディスプレイ	5-3
⑫	リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ リアルームランプ / ラゲッジルームランプ自動点灯モードスイッチ	5-18 5-18

	名称	ページ
⑬	シートヒータースイッチ＊（運転席）	3-24
⑭	リアデフォッガースイッチ	5-13
⑮	ASRオフスイッチ	4-36
⑯	非常点滅灯スイッチ	4-22
⑰	ドアロックスイッチ	3-60
⑱	コンビネーションスイッチ • ヘッドランプ • 方向指示 • ワイパー	 4-19 4-21 4-23

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

インストルメントパネル

	名称	ページ
⑲	ステアリング	3-94
⑳	メーターパネル	3-102
㉑	ランプスイッチ	4-15
㉒	ドアミラー格納 / 展開スイッチ ドアミラー調整スイッチ ドアウインドウ / ベンチレーションウインドウ開閉スイッチ セーフティスイッチ	3-93 3-92 3-78 3-80 3-82
㉓	ドアレバー （運転席ドア）	3-50 3-53
㉔	シート調整スイッチ（運転席）＊ シートポジションメモリースイッチ（運転席）＊	3-15 3-19

	名称	ページ
㉕	ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル＊	4-18
㉖	パーキングブレーキ解除ハンドル	4-28
㉗	エンジンスイッチ ステアリングロック	4-2 4-2
㉘	ステアリングロック解除レバー	3-94
㉙	パーキングブレーキペダル	4-28
㉚	セレクターレバー	4-6 4-7
㉛	マルチファンクションコントローラー	別冊

	名称	ページ
㉜	ライター	5-24
㉝	カップホルダー 灰皿	5-28 5-22
㉞	ボンネットロック解除レバー	3-95
㉟	ドアレバー （助手席ドア）	3-50 3-53
㊱	シート調整スイッチ（助手席）＊ シートポジションメモリースイッチ（助手席）＊	3-15 3-19

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

キー

リモコン機能付きのキーが2本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

リモコン機能では、以下の操作をすることができます。

- フロントドアとスライディングドア、テールゲートの解錠 / 施錠
- スライディングドアとテールゲートの解錠 / 施錠
- ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフ＊の開閉

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

警　告

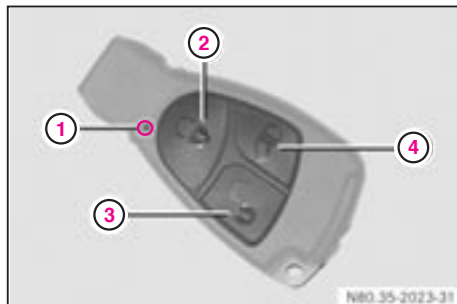
- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- キーに重い物や必要以上に大きなキーホルダーなどを取り付けないでください。走行中にキーホルダー自体の重みでキーがまわったり、キーが抜けてしまい、エンジンが停止すると、事故を起こすおそれがあります。

知　識

新たにキーをつくる場合は、指定サービス工場におたずねください。

注　意　！

- キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちに指定サービス工場に連絡してください。
- キーは、強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
- キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生することがあります。
- キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。
- キーの電池が消耗すると、リモコンが使用できなくなります。
- 電池の消耗に備え、必ず予備の電池を車内に保管してください。電池は、子供の手が届かないところに保管してください。

リモコン機能

① 表示灯
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン
④ スライディングドア / テールゲート解錠ボタン

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに、フロントドア、スライディングドア、テールゲートを解錠 / 施錠できます。

操作時に表示灯①が短く点灯します。

解錠する

▶ 解錠ボタン③を押します。

フロントドア、スライディングドア、テールゲートが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

施錠する

▶ 施錠ボタン②を押します。

フロントドア、スライディングドア、テールゲートが施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

スライディングドア / テールゲートを解錠する

▶ スライディングドア / テールゲート解錠ボタン④を押します。

スライディングドアとテールゲートが解錠され、非常点滅灯が1回点滅します。

注 意 !

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が3回点滅したこと、フロントドアやスライディングドア、テールゲートが確実に施錠されていることを確認してください。
- リモコン操作で車が解錠 / 施錠できないときはリモコンの電池が消耗しているか、リモコンシステムが同期していません。電池を交換（3-12）するか、リモコンシステムを同期させてください。それでも解錠 / 施錠できないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

知　識

- 解錠ボタン③を押して解錠したときは、以下の操作をしないと、約40秒後に再び自動的に施錠されます。
    - ◇ フロントドアを開く
    - ◇ スライディングドアを開く
    - ◇ テールゲートを開く
    - ◇ エンジンスイッチにキーを差し込む
    - ◇ ドアロックスイッチを押す
- 解錠 / 施錠時に非常点滅灯が点滅しますが、非常点滅灯スイッチは点滅しません。

リモコン機能が働かないとき

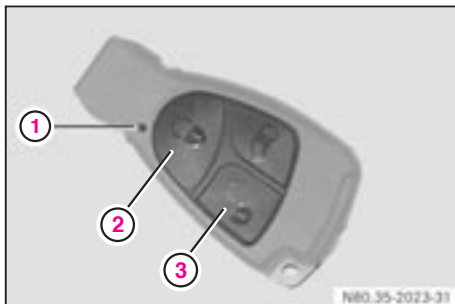
電池の交換時などに長い時間電池を外しておくと、リモコン操作で解錠 / 施錠ができなくなることがあります。この場合はリモコンシステムの同期が必要です。

リモコンシステムを同期する

▶ 運転席ドアのドアハンドルに向けて施錠ボタン②か解錠ボタン③を続けて2回押します。

▶ 30秒以内にエンジンスイッチにキーを差し込み、**2**の位置にします。

▶ リモコン操作で解錠 / 施錠ができることを確認します。

リモコン機能の設定を切り替える

① 表示灯
② 施錠ボタン
③ 解錠ボタン

リモコン機能の設定を切り替えることにより、解錠ボタン③による1回目の解錠操作で運転席ドアだけを解錠し、2回目の解錠操作で助手席ドアおよびスライディングドアとテールゲートが解錠できます。

設定の切り替え方法

▶ 解錠ボタン③と施錠ボタン②を同時に約6秒間押します。

表示灯①が2回点滅して、設定が切り替わります。

元の設定（3-6）に戻すときは、再度同じ操作を行ないます。

知　識

設定したモードを確認するときは、解錠操作を行ない、作動を確認してください。

ドアの解錠 / 施錠

解錠

▶ 解錠ボタン③を押します。

運転席ドアが解錠し、非常点滅灯が1回点滅します。

▶ 続けて約40秒以内に解錠ボタン③を押すと、さらに助手席ドアおよびスライディングドアとテールゲートが解錠し、非常点滅灯が1回点滅します。

知　識

約40秒以内に解錠ボタン③を再度押さないと、運転席ドアは施錠されます。

施錠

▶ 施錠ボタン②を押します。

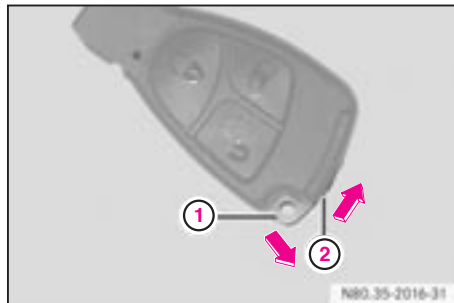
設定に関係なく一度にすべてのドアとテールゲートが施錠され、非常点滅灯が3回点滅します。

ロケイターライティング

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。

点灯したランプは、運転席ドアを開いたとき、または約40秒後に消灯します。

この機能の設定と解除については**（3-125）**をご覧ください。

エマージェンシーキー

①エマージェンシーキー
②ストッパー

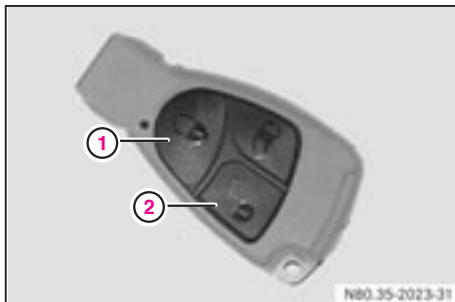
エマージェンシーキーはキーに収納されています。

グローブボックスを施錠 / 解錠する**（5-26）**ときや、リモコンが作動しないときに助手席ドアを解錠 / 施錠するときに使用します**（3-55）**。

エマージェンシーキーを使用する

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を抜きます。

収納するときは元の位置に差し込みます。

リモコン操作でドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフ＊を開閉する

①閉じる
②開く

リモコン操作でドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフを開閉できます。

開く

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けて［開錠ボタン］を押し続けます。

ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが開きます。

［開錠ボタン］から手を放すと、作動中のドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

閉じる

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けて［施錠ボタン］を押し続けます。

ドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフが閉じます。

［施錠ボタン］から手を放すと、作動中のドアウインドウとベンチレーションウインドウ、スライディングルーフはその位置で停止します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

注　意　!

- 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。
- リモコン操作でウインドウやスライディングルーフを閉じているときに身体が挟まれそうになったときは、ただちに 🔒 から手を放し、🔓 を押し続けて、ウインドウとスライディングルーフを開いてください。
- リモコン操作でフロントドアウインドウを開くときは、フロントドアウインドウに身体を寄りかけないでください。フロントドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。
- リモコン操作で施錠したときは、車から離れる前に、すべてのウインドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。

知　識

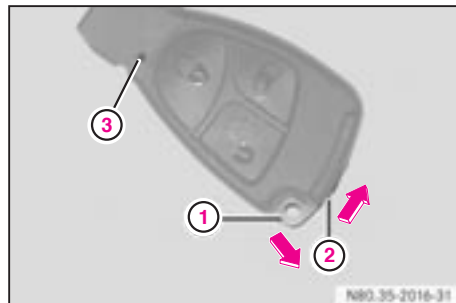
- リモコン操作時は、キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けて操作してください。
- エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

リモコンの電池交換

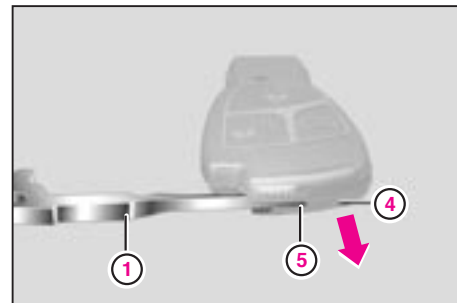
リモコンの作動可能距離が短くなったり、スイッチを押しても作動しない場合は、電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

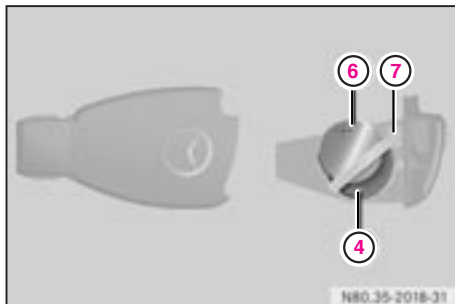
電池の交換は指定サービス工場で行なうことをおすすめします。

知　識

リモコンのスイッチのいずれかを押したときに表示灯③が一度点滅すれば電池は正常です。

① エマージェンシーキー
② ストッパー
③ 表示灯

電池を交換する

▶ ストッパー②を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー①を矢印の方向に抜き取ります。

④ 電池ケース
⑤ 凹部

▶ エマージェンシーキー①で凹部⑤を押してロックを外しながら、電池ケース④を矢印の方向にゆっくり引いて取り出します。

④ 電池ケース
⑥ 電池
⑦ 電極板

▶ 電池⑥を外し、新しい電池と交換します。

電池は2個とも⊕を上にして、電極板⑦の間に取り付けます。

▶ 電池ケース④を本体の溝に合わせ、押し込んでロックします。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

警　告

電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。

もし電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

知　識

- リチウム電池（CR2025）を2個使用しています。
- 電池を交換するときは2個同時に交換してください。
- 電池の表面に、汚れや脂分などが付着していないことを確認してください。

環　境

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、使用済み電池のお買い求めになった販売店で処分をお願いしてください。

メモリー付フロントパワーシート＊

正しい運転姿勢がとれるように、以下の点に注意してフロントシートの位置を調整してください。

- ステアリングが楽に操作できる
- ペダル類が十分に踏み込める
- シートベルトが正しく着用できる（2-3）
- バックレストはできるだけ垂直に起こし、背中がバックレストに密着する
- ヘッドレストの中央が目の高さにくる

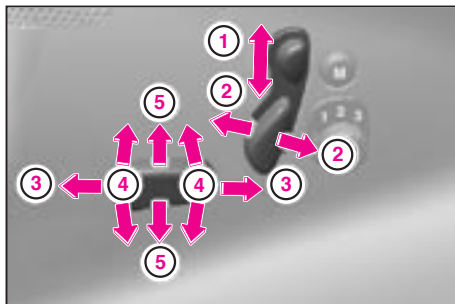
警　告

- 必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。事故のとき、身体がシートベルトの下を抜けてベルトが腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意　！

- シートの位置を調整しているときは、シートの下や横に身体を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- セカンドシートを前方に移動したときや、折りたたんだとき、または後方に向けて取り付けているときに、フロントシートを後方に移動したり、バックレストを傾けると、フロントシートとセカンドシートが接触して、損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

フロントシートの調整

右側前席のスイッチ
① ヘッドレストの高さ
② バックレストの傾き
③ シートの前後位置
④ シートクッションの角度
⑤ シートの高さ

スイッチは左右のフロントドアにあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または調整する側のフロントドアが開いているときに調整できます。

シートの前後位置を調整する

▶ 矢印③の方向にスイッチを操作します。

バックレストの角度を調整する

▶ 矢印②の方向にスイッチを操作します。

シートの高さを調整する

▶ 矢印⑤の方向にスイッチを操作します。

シートクッションの角度を調整する

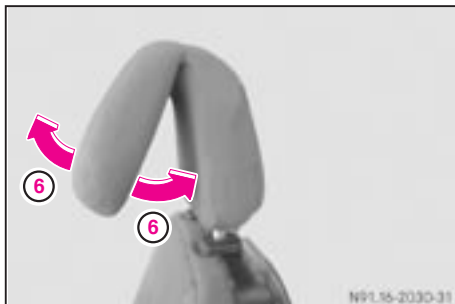
▶ 矢印④の方向にスイッチを操作します。

脚が軽く支えられるように調整します。

ヘッドレストの高さを調整する

▶ 矢印①の方向にスイッチを操作します。

ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整します。

メモリー付フロントパワーシート

⑥ ヘッドレストの傾き

ヘッドレストの傾きを調整する

▶ ヘッドレストの下端を持ち、矢印⑥の方向に動かします。

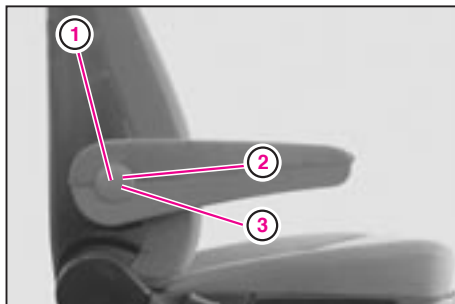
ヘッドレストを取り外す

▶ スイッチでヘッドレストをいっぱいに上げてから（**3-15**）、ヘッドレストの支柱を持ち、ヘッドレストを引き上げて取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込み、押し込みます。

警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

アームレスト

アームレストの角度を調整する

▶ 一度①の位置まで上げた後、③の位置まで下げ、上げながら角度を調整します。

②と③の間の角度で固定することができます。

アームレストを使用しないときは、①の位置まで上げてください。

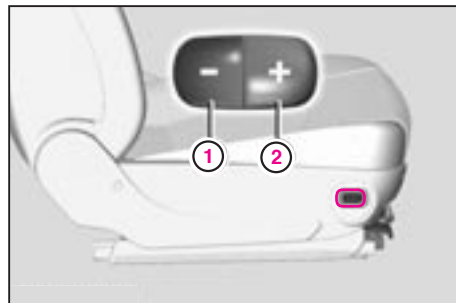
注 意 !

アームレストの上に座ったり、重い物を置かないでください。

ランバーサポートの調整

背中を正しく支えるようにバックレストの形状を調整することができます。

スイッチは左右のシートクッションの横にあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

右側フロントシート
① サポート減
② サポート増

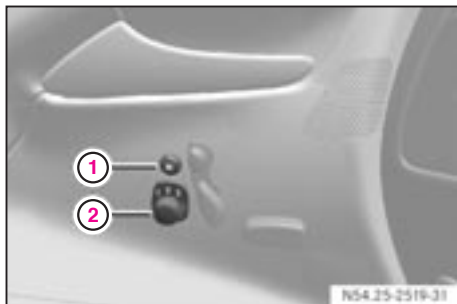
ランバーサポートの増減を調整する

▶ スイッチの＋②または－①を押します。

バックレストの形状が変化し、サポートが増減します。

知　識

- ランバーサポートを正しく調整することにより、走行中の背中への負担が軽減します。
- ランバーサポートを調整するときは、バックレストに背中を軽く当ててください。

メモリー機能

左側前席のスイッチ
① メモリーボタン
② ポジションスイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、または記憶させるシート側のフロントドアが開いているときに、記憶と記憶させた位置の呼び出しができます。

シート位置を記憶させる

▶ 正しいシート位置に調整します。

▶ ポジションスイッチ②を**1**から**3**のいずれかの位置に合わせます。

▶ メモリーボタン①を押します。

▶ 3秒以内にポジションスイッチ②を押します。

そのポジションスイッチの位置にシート位置が記憶されます。

他のポジションにも同様の方法でシート位置を記憶させることができます。

記憶させたシート位置を呼び出す

▶ ポジションスイッチ②を呼び出したい位置（**1**〜**3**）に合わせ、押し続けます。

シートが動きはじめ、記憶させた位置になると停止します。

知 識

- 記憶させたシート位置を呼び出しているときにポジションスイッチから手を放すと、シートの動きが停止します。
- キーごとに異なるシート位置を記憶させることができます。詳しくは（**3-128**）をご覧ください。

注 意 ！

- バックレストを大きく後ろに傾けた位置にしているときは、バックレストに荷重をかけないでください。バックレストが作動しないことがあります。
- 走行中に運転席のメモリー機能を使用しないでください。事故を起こすおそれがあります。

フロントシート＊

正しい運転姿勢がとれるように、以下の点に注意してフロントシートの位置を調整してください。

- ステアリングが楽に操作できる
- ペダル類が十分に踏み込める
- シートベルトが正しく着用できる (2-3)
- バックレストはできるだけ垂直に起こし、背中がバックレストに密着する
- ヘッドレストの中央が目の高さにくる

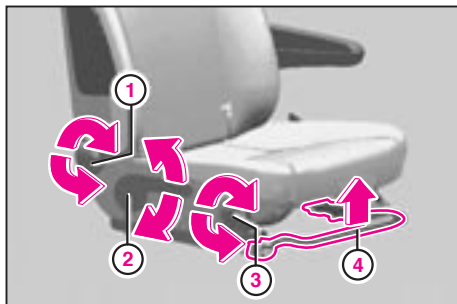
警　告

- 必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- シートのバックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。事故のとき、身体がシートベルトの下を抜けてベルトが腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意　!

- シートの位置を調整しているときは、シートの下や横に身体を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- セカンドシートを前方に移動したときや、折りたたんだとき、または後方に向けて取り付けているときに、フロントシートを後方に移動したり、バックレストを傾けると、フロントシートとセカンドシートが接触して、損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

フロントシートの調整

右側前席
① バックレストの角度
② シートの高さ
③ シートクッションの傾き
④ シートの前後位置

シートの前後位置を調整する

▶ ハンドル④を引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

▶ ハンドル④から手を放すと、その位置でロックされます。

注　意　!

シートの前後位置を調整したときは、シートが確実にロックされていることを必ず確認してください。

バックレストの角度を調整する

▶ ダイヤル①をまわして調整します。

シートの高さを調整する

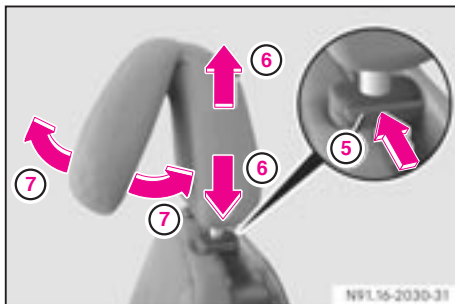
▶ レバー②を繰り返し引き上げます。

シートの高さが上がります。

▶ レバー②を繰り返し押し下げます。

シートの高さが下がります。

シートクッションの角度を調整する

▶ ダイヤル③をまわして調整します。

ヘッドレストを調整する

⑤ ロック解除ボタン
⑥ ヘッドレストの高さ
⑦ ヘッドレストの傾き

ヘッドレストを上げる

▶ ヘッドレストを持って引き上げます。

ヘッドレストを下げる

▶ ロック解除ボタン⑤を押しながら、ヘッドレストを下げます。

ヘッドレストの傾きを調整する

▶ ヘッドレストの前部下端を持って⑦の方向に動かします。

ヘッドレストを取り外す

▶ ヘッドレストをいっぱいに引き上げます。

▶ ロック解除ボタン⑤を押しながら、ヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ 切り欠きのある支柱が左側にくるようにヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込み、ロック解除ボタン⑤を押しながら、ヘッドレストを取り付けます。

警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

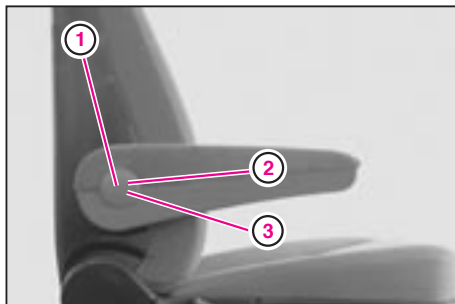
アームレスト

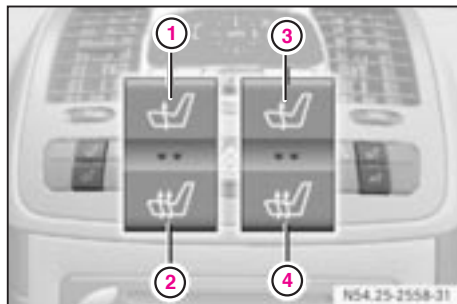
アームレストの角度を調整する

▶ 一度①の位置まで上げた後、③の位置まで下げ、上げながら角度を調整します。

②と③の間の角度で固定することができます。

アームレストを使用しないときは、①の位置まで上げてください。

注 意 ！

アームレストの上に座ったり、重い物を置かないでください。

シートヒーター＊

① シートヒーター弱スイッチ（左側前席）
② シートヒーター強スイッチ（左側前席）
③ シートヒーター弱スイッチ（右側前席）
④ シートヒーター強スイッチ（右側前席）

スイッチはセンターコンソールにあります。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに使用できます。

シートヒーターを弱で使用する

▶ シートヒータースイッチの上側①または③を押します。

表示灯が1つ点灯します。

シートヒーターを強で使用する

▶ シートヒータースイッチの下側②または④を押します。

表示灯が2つ点灯します。

シートヒーターを停止する

▶ 表示灯が1つ点灯しているときは、スイッチの上側①または③を押します。

▶ 表示灯が2つ点灯しているときは、スイッチの下側②または④を押します。

または、

スイッチの上側①または③を2回押します。

点灯している表示灯の数	作動内容
2	シートヒーターが強で作動します。 約5分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。
0	停止しています。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

注　意　！

- コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用したり、シートヒーターを連続して使用しないでください。異常過熱により低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こしたり、シートヒーターが故障するおそれがあります。
- 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
  - ◇ 乳幼児、高齢者、病人、体が不自由な方
  - ◇ 皮膚が弱い方
  - ◇ 疲労の激しい方
  - ◇ 眠気をさそう薬を服用した方
  - ◇ 飲酒した方

- シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

知　識

多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

セカンドシート

セカンドシートには、左右独立式のシートが装備されています。

左右独立で調整したり(3-27)、脱着(3-34)することができます。

セカンドシートは、取り付け位置や取り付け方向を変更することができます。詳しくは(3-48)をご覧ください。

注 意 !

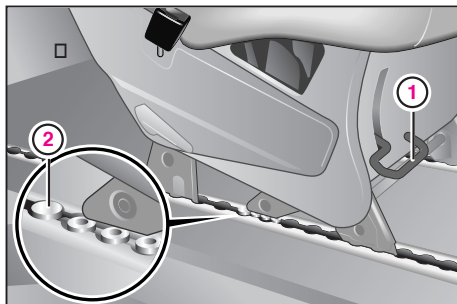
セカンドシートを調整したり脱着するときは、シートの下や横に身体を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

警 告

- セカンドシートに乗車するときは、以下の内容を必ず守ってください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
  - ◇ シートおよびバックレストが確実にロックされていることを確認してください。
  - ◇ ヘッドレストを取り付け、ヘッドレストの中央が目の高さにくるようにしてください。
  - ◇ シートベルトを正しく着用してください。
- 走行中はセカンドシートの折りたたみや脱着をしないでください。けがをするおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

警 告

フロントシートの下に足を入れないでください。フロントシートをスライドさせると、けがをするおそれがあります。

セカンドシートを調整する

① ロック解除レバー
② ストッパー

シートの前後位置を調整する

▶ ロック解除レバー①を引いたまま、シートを前後に動かします。

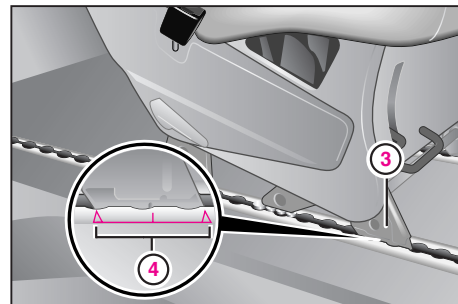
▶ 好みの位置になったら、ロック解除レバー①を離します。

"カチッ" という音がして、左右のストッパー②がシートレールの穴にしっかり固定されていることを確認してください。

その位置でロックされます。

正しく固定されていないときは、シートをその位置で前後に押して正しく固定します。

注 意 !

セカンドシートの前後位置を調整したり脱着するときは、シートの下や横に身体を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

③ シートレッグ
④ シート標準位置範囲

セカンドシート

警　告

- セカンドシートに乗車するときは、シートレッグ③がシート標準位置範囲④内になっていることを確認してください。ブレーキ時などにシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。
- 左右のストッパー②がシートレールの穴に、確実に固定されていることを確認してください。ブレーキ時などにシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。
- シート位置の調整は、停車しているときに行なってください。

セカンドシートを前後に移動し、ラゲッジスペースを広げる

セカンドシートを前後に移動することにより、ラゲッジスペースを広げることができます。

▶ ロック解除レバー（**3-27**）を引いたまま、シートを希望の位置まで移動します。

▶ ロック解除レバーを離します。

その位置でロックされます。

警　告

シートレッグがシート標準位置範囲内になっていないときは、セカンドシートに乗車しないでください。ブレーキ時などにシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります（**3-27**）。

注　意　！

左右のストッパー（**3-27**）がシートレールの穴に確実に固定されていることを確認してください。ブレーキ時などにシートが動き、荷物を損傷するおそれがあります。

⑥ バックレスト調整レバー（前部）
⑦ バックレスト調整レバー（後部）

バックレストの角度を調整する

▶ バックレスト調整レバー⑥または⑦を引きながら、バックレストの角度を調整します。

バックレストを前方に倒す

▶ バックレスト調整レバー⑥または⑦を引きながら、バックレストを前方に倒します。

いっぱいに倒した位置でバックレストはロックされます。

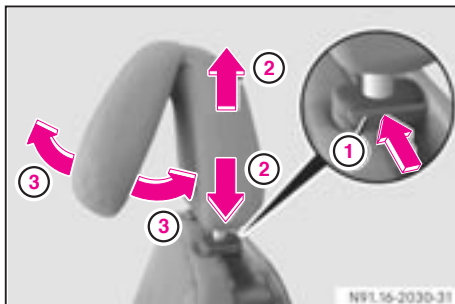
倒したバックレストを立てる

▶ バックレスト調整レバー⑥または⑦を引きながら、バックレストを起こします。

起こした位置でバックレストはロックされます。

警　告

- バックレストが確実にロックされていることを確認してください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- シート位置の調整は、停車しているときに行なってください。
- 前方に倒したバックレストの背面をテーブルとして使用するのは、停車しているときだけにしてください。

  走行中にテーブルとして使用すると、載せている物を損傷したり、乗員がけがをするおそれがあります。

ヘッドレストを調整する

① ロック解除ボタン
② ヘッドレストの高さ
③ ヘッドレストの傾き

ヘッドレストを上げる

▶ ヘッドレストを持って引き上げます。

ヘッドレストを下げる

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを下げます。

ヘッドレストの傾きを調整する

▶ ヘッドレストの前部下端を持って③の方向に動かします。

ヘッドレストを取り外す

▶ ヘッドレストをいっぱいに引き上げます。

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

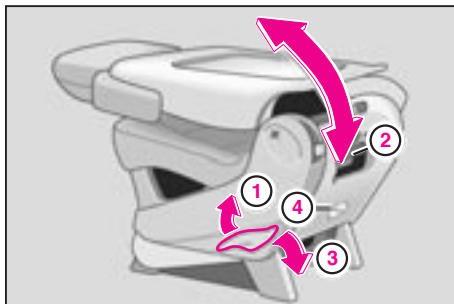
▶ 切り欠きのある支柱が左側にくるようにヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込み、ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを取り付けます。

警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

セカンドシートを折りたたむ

警　告

サードシートに乗車するときは、セカンドシートを折りたたまないでください。急ブレーキなどで折りたたまれていたセカンドシートが元に戻り、けがをするおそれがあります（セカンドシート下部に警告ラベル④が貼付されています）。

① ロック解除レバー（引き上げ方向）
② ハンドル
③ ロック解除レバー （踏み下げ方向）
④ 警告ラベル

セカンドシートを折りたたむ

▶ ヘッドレストを下げます。

▶ バックレストを前方に倒します（3-29）。

▶ ロック解除レバーを①の方向に引き上げるか、③の方向に踏み下げて、ロックを解除します。

▶ ハンドル②を持ち、シートを前方に引き起こして折りたたみます。

知　識

バックレストが前方に倒れていないときは、セカンドシートを折りたたむことができません。

セカンドシート

警　告

セカンドシートを折りたたむときは決してシートの下に手をかけないでください。手を挟まれて、けがをするおそれがあります。

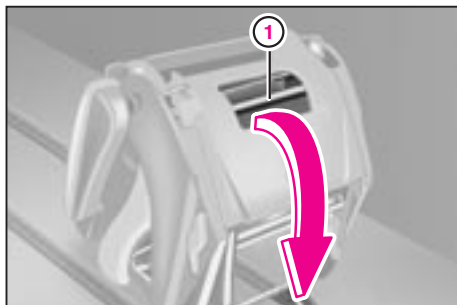
シートの折りたたみは必ず取扱説明書の手順に従い、注意事項を守って行なってください。

警　告

- 走行中にセカンドシートを折りたたまないでください。けがをするおそれがあります。
- セカンドシートを折りたたんで荷物を積むときは、必ず荷物を固定してください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意！

- セカンドシートを折りたたむときは、身体や物を挟まないように注意してください。
- セカンドシートを折りたたむときは、アームレストをバックレストと平行になる位置に上げてください。

折りたたんだセカンドシートを元に戻す

① ハンドル

▶ ハンドル①を持ち、シートを後方に倒して元の位置に戻します。

警　告

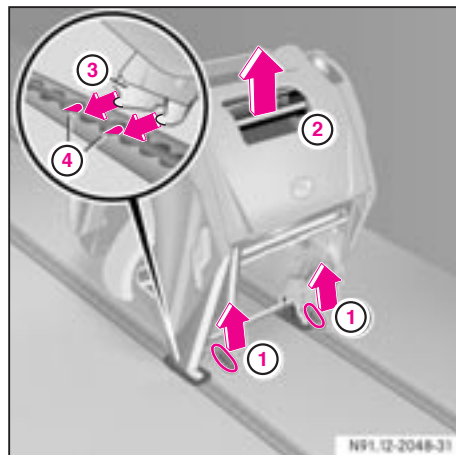
セカンドシートが確実にロックされていることを確認してください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

注　意　!

- 折りたたんだセカンドシートを元の位置に戻すときは、身体や物を挟まないように注意してください。
- 折りたたんだセカンドシートを元の位置に戻すときは、シートレールの溝に異物が挟まっていないことを確認してください。シートやシートレールを損傷するおそれがあります。

セカンドシートを取り外す

注 意 !

セカンドシートを取り外すときは大人2人以上で作業してください。セカンドシートは重いため、腰を痛めたり、セカンドシートを足の上に落としてけがをするおそれがあります。

① ロック解除レバー
② ハンドル
③ 前部シートレッグ
④ シートレッグ固定部

セカンドシートを取り外す

▶ セカンドシートを折りたたみます**(3-31)**。

▶ 2ヶ所のロック解除レバー①を完全に引き上げます。

▶ ハンドル②を持ち、セカンドシートを前方に傾けて、持ち上げて取り外します。

注 意 !

セカンドシートを取り外すときは、シートレッグがシート標準範囲内にあることを確認してください**(3-27)**。シートレッグがシート標準範囲内にない状態で取り外すと、シートを取り付けるときにシートと内張りが接触して損傷するおそれがあります。

セカンドシートを取り付ける

▶ ハンドル②を持ち、左右の前部シートレッグ③をそれぞれ、左右のシートレッグ固定部④に差し込みます。

▶ シートを少し後方に傾けて、2ヶ所のロック解除レバー①を完全に押し下げます。

取り付けたセカンドシートを元に戻すときは（**3-33**）をご覧ください。

注　意　!

- 取り外したセカンドシートを車から出し入れするときは、車やシートなどを損傷しないように注意してください。
- 取り外した状態でセカンドシートの調整を行なわないでください。取り付けができなくなる場合があります。
- 取り外したセカンドシートに座ったり、重い物を載せないでください。シートを損傷するおそれがあります。
- シートレールに埃やゴミが入らないようにしてください。
- セカンドシートを取り付けるときは、身体や物などを挟まないように注意してください。

警　告

セカンドシートを取り付けたときは、確実に固定されていることを確認してください。走行中に外れて、乗員がけがをするおそれがあります。

サードシート

サードシートには、左右分割式のベンチシートが装備されています。

左右独立で調整したり **(3-39)**、脱着する **(3-44、45)** ことができます。

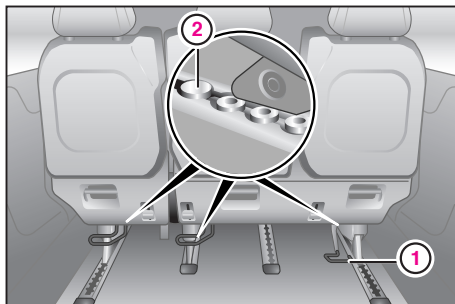
サードシートは取り付け位置を変更したり、取り外すことができます。詳しくは **(3-48)** をご覧ください。

警　告

- サードシートに乗車するときは、以下の内容を必ず守ってください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
  - ◇ シートおよびバックレストが確実にロックされていることを確認してください。
  - ◇ ヘッドレストを取り付け、ヘッドレストの中央が目の高さにくるようにしてください。
  - ◇ シートベルトを正しく着用してください。
- 走行中はサードシートの折りたたみや脱着をしないでください。けがをするおそれがあります。
- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

注　意　!

サードシートの前後位置を調整したり脱着するときは、シートの下や横に身体を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

サードシートを調整する

① ロック解除レバー
② ストッパー

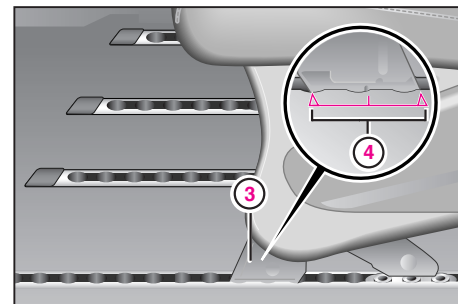
シートの前後位置を調整する

▶ ロック解除レバー①を引いたまま、シートを前後に動かします。

▶ 好みの位置になったら、ロック解除レバー①を離します。

"カチッ" という音がして、3ヶ所のストッパー②がシートレールの穴にしっかり固定されていることを確認してください。

その位置でロックされます。

正しく固定されていないときは、シートをその位置で前後に押して、正しく固定します。

③ シートレッグ
④ シート標準位置範囲

警　告

- サードシートに乗車するときは、シートレッグ③がシート標準位置範囲④内になっていることを確認してください。ブレーキ時などにシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。
- 3ヶ所のストッパー②がシートレールの穴に、確実に固定されていることを確認してください。ブレーキ時などにシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。
- シート位置の調整は、停車しているときに行なってください。

知　識

サードシートのバックレストが前方に倒れているときは、レバー①を引くと、シートが前方に起き上がります。

サードシートを前後に移動し、ラゲッジスペースを広げる

サードシートを前後に移動することにより、ラゲッジスペースを広げることができます。

▶ ロック解除レバー（**3-37**）を引いたまま、シートを希望の位置まで移動します。

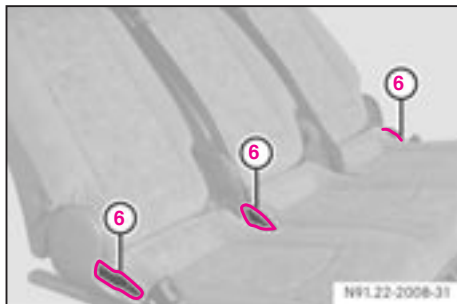
▶ ロック解除レバーを離します。

その位置でロックされます。

注　意　！

3ヶ所のストッパー（**3-37**）がシートレールの穴にしっかり固定されていることを確認してください。ブレーキ時などにシートが動き、荷物を損傷するおそれがあります。

警　告

シートレッグがシート標準位置範囲内になっていないときは、セカンドシートに乗員を乗せないでください。ブレーキ時などにシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります（**3-37**）。

⑥ バックレスト調整レバー

⑦ バックレスト調整レバー

バックレストの角度を調整する

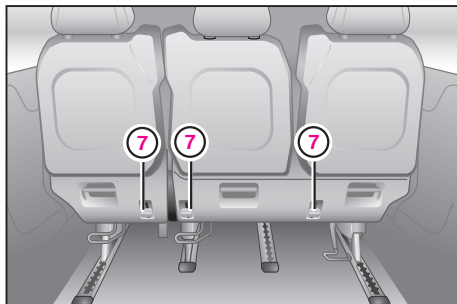
▶ バックレスト調整レバー⑥または⑦を引きながら、バックレストの角度を調整します。

バックレストを前方に倒す

▶ 調整レバー⑥または⑦を引きながら、バックレストを前方に倒します。

いっぱいに倒した位置でバックレストはロックされます。

倒したバックレストを立てる

▶ 調整レバー⑥または⑦を引きながら、バックレストを起こします。

起こした位置でバックレストはロックされます。

警　告

- バックレストが確実にロックされていることを確認してください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- シート位置の調整は、停車しているときに行なってください。

ヘッドレストを調整する

① ロック解除ボタン
② ヘッドレストの高さ
③ ヘッドレストの傾き

ヘッドレストを上げる

▶ ヘッドレストを持って引き上げます。

ヘッドレストを下げる

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを下げます。

ヘッドレストの傾きを調整する

▶ ヘッドレストの前部下端を持って③の方向に動かします。

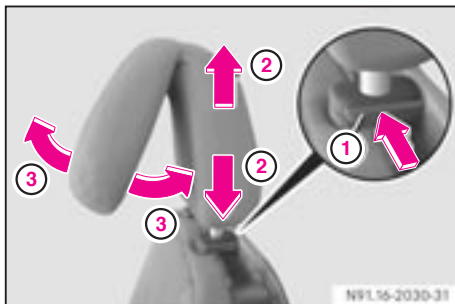
ヘッドレストを取り外す

▶ ヘッドレストをいっぱいに引き上げます。

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

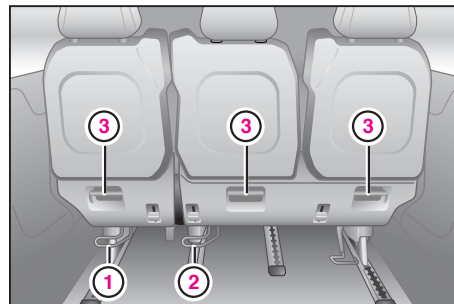
▶ 切り欠きのある支柱が左側にくるようにヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込み、ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを取り付けます。

警　告

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

サードシートを折りたたむ

左側サードシートのみ、またはサードシート全体を折りたたむことができます。

知　識

- 左側サードシートが折りたたまれていないときは、右側サードシートを折りたたむことはできません。
- バックレストが前方に倒れていないときは、サードシートを折りたたむことができません。

① 左側サードシート ロック解除レバー
② 右側サードシート ロック解除レバー
③ ハンドル

左側サードシートを折りたたむ

▶ ヘッドレストを下げます。

▶ バックレストを前方に倒します(3-39)。

▶ ロック解除レバー①を引き上げて、ロックを解除します。

▶ ハンドル③を持ち、シートを前方に引き起こして折りたたみます。

注　意　！

- サードシートを折りたたむときは、セカンドシートと接触しないように、シートの前後位置を調整してください。
- 左側サードシートだけを前方に折りたたんだ状態で、右側サードシートを前後に動かさないでください。折りたたんだ左側サードシートを元の位置に戻せなくなります。

右側サードシートを折りたたむ

▶ ヘッドレストを下げます。

▶ バックレストを前方に倒します（3-39）。

▶ ロック解除レバー②を引き上げて、ロックを解除します。

▶ ハンドル③を持ち、シートを前方に引き起こして折りたたみます。

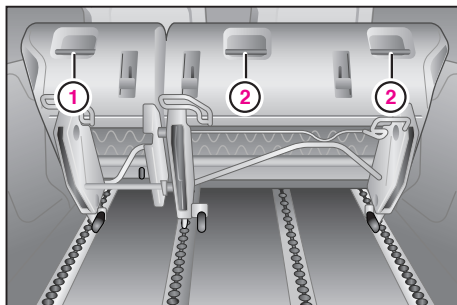
警　告

- サードシートを折りたたむときは決してシートの下に手をかけないでください。手を挟まれて、けがをするおそれがあります。

  シートの折りたたみは必ず取扱説明書の手順に従い、注意事項を守って行なってください。
- 走行中にサードシートを折りたたまないでください。けがをするおそれがあります。
- サードシートを折りたたんで荷物を積むときは、必ず荷物を固定してください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意　！

サードシートを折りたたむときは、身体や物を挟まないように注意してください。

折りたたんだサードシートを元の位置に戻す

① ハンドル（左側サードシート）
② ハンドル（右側サードシート）

▶ ハンドル②を持ち、右側サードシートを後方に倒して、元の位置に戻します。

▶ ハンドル①を持ち、左側サードシートを後方に倒して、元の位置に戻します。

警　告

サードシートが確実にロックされていることを確認してください。事故のとき、けがをするおそれがあります。

注　意　！

- 折りたたんだサードシートを元の位置に戻すときは、身体や物を挟まないように注意してください。
- 折りたたんだサードシートを元の位置に戻すときは、シートレールの溝に異物が挟まっていないことを確認してください。シートやシートレールを損傷するおそれがあります。

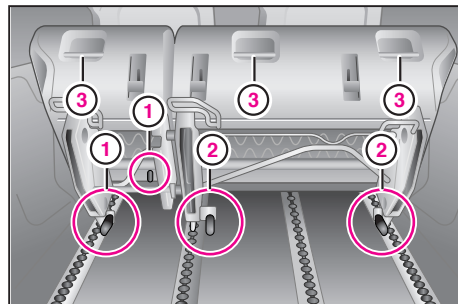
サードシートを取り外す

左側サードシートのみ、またはサードシート全体を取り外すことができます。

知　識

左側サードシートが取り外されていないときは、右側サードシートを取り外すことはできません。

注　意　！

サードシートを取り外すときは大人2人以上で作業してください。サードシートは重いため、腰を痛めたり、サードシートを足の上に落としてけがをするおそれがあります。

① 左側サードシート ロック解除レバー
② 右側サードシート ロック解除レバー
③ ハンドル

左側サードシートを取り外す

▶ 左側サードシートを折りたたみます（3-41）。

▶ 2ヶ所のロック解除レバー①を完全に引き上げます。

▶ ハンドル③を持ち、左側サードシートを前方に傾けて、持ち上げて取り外します。

右側サードシートを取り外す

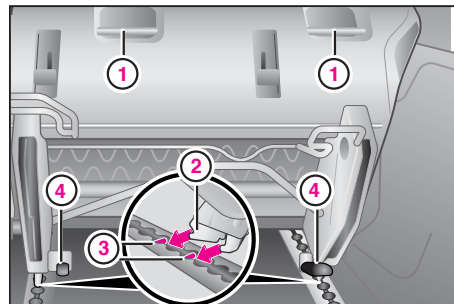
▶ 右側サードシートを折りたたみます（3-42）。

▶ 2ヶ所のロック解除レバー②を完全に引き上げます。

▶ ハンドル③を持ち、右側サードシートを前方に傾けて、持ち上げて取り外します。

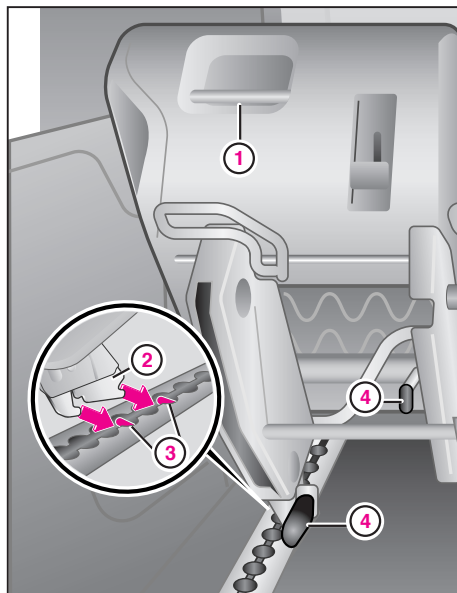
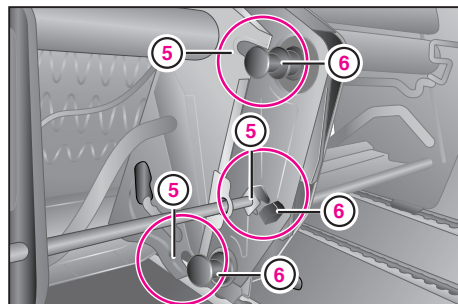
サードシートを取り付ける

知　識

右側サードシートが取り付けられていないときは、左側サードシートを取り付けることはできません。

右側サードシート
① ハンドル
② 前部シートレッグ
③ シートレッグ固定部
④ ロック解除レバー

右側サードシートを取り付ける

▶ ハンドル①を持ち、左右の前部シートレッグ②をそれぞれ、左右のシートレッグ固定部③に差し込みます。

▶ シートを少し後方に傾けて、2ヶ所のロック解除レバー④を完全に押し下げます。

左側サードシート
① ハンドル
② 前部シートレッグ
③ シートレッグ固定部
④ ロック解除レバー

右側サードシートが折りたたまれている状態
⑤ 左側サードシート固定部
⑥ 右側サードシート固定部

左側サードシートを取り付ける

▶ ハンドル①を持ち、前部シートレッグ②をシートレッグ固定部③に合わせます。

▶ シートを後方に傾けながら3ヶ所の左側サードシート固定部⑤を、それぞれ3ヶ所の右側サードシート固定部⑥に合わせます。

▶ 2ヶ所のロック解除レバー④を完全に押し下げます。

知　識

右側サードシートが前方に折りたたまれた状態で、左側サードシートを取り付けてください。

警　告

サードシートを取り付けたときは、確実に固定されていることを確認してください。走行中に外れて、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意 !

- 取り外したサードシートを車から出し入れするときは、車やシートなどを損傷しないように注意してください。
- 取り外した状態でサードシートの調整を行なわないでください。取り付けができなくなる場合があります。
- 取り外したサードシートに座ったり重い物を載せないでください。シートを損傷するおそれがあります。
- シートレールに埃やゴミが入らないようにしてください。
- サードシートを取り付けるときは、身体や物を挟まないように注意してください。

セカンドシート / サードシートの配置

セカンドシート / サードシートの配置

セカンドシートとサードシートは配置を変更することができます。

警　告

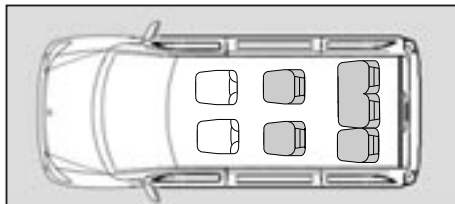
- シートの配置を変更したり、シートを取り外したときでも、荷物を積むときは、荷物を確実に固定してください。急ブレーキや事故のときに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- シートに乗車するときは、シートレッグがシート標準位置マークから前後約5cm以上の位置にならないようにしてください。ブレーキ時などにシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります（3-27、37）。
- シートの取り付け部やシートレールなどを改造しないでください。

注　意！

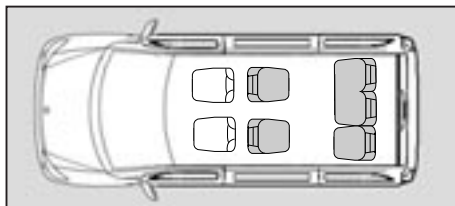
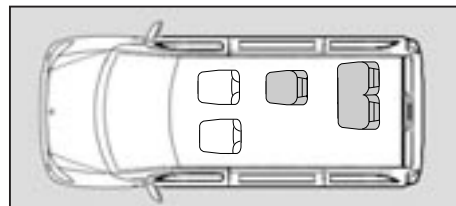
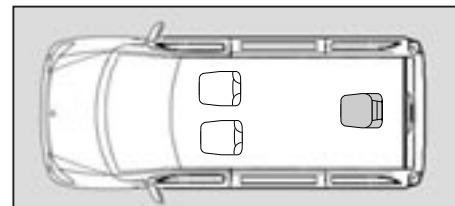
- シートを脱着するときは大人2人以上で作業してください。シートは重いため、腰を痛めたり、シートを足の上に落としてけがをするおそれがあります。
- シートを取り付けているときに他のシートや内張りと干渉したときは、取り付け作業を中止してください。無理に取り付けると、シートや内張りを損傷するおそれがあります。

知　識

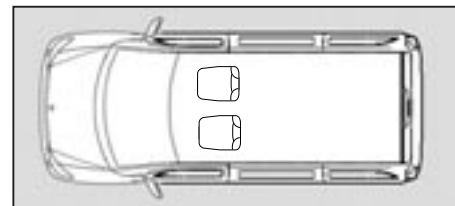
- サードシートは後ろ向きに配置することができません。
- シートの取り付け位置によっては、他のシートと接触するため、バックレストの調整範囲が限られる場合があります。
- チャイルドセーフティシートを装着するときはチャイルドセーフティシートの取扱説明書に従ってください。チャイルドセーフティシートについては（2-15）をご覧ください。

セカンド / サードシート配置の例

① セカンドシート：前向き
サードシート：3列目に取り付け

④ セカンドシート：取り外し
サードシート：3列目に取り付け

⑦ セカンドシート：取り外し
サードシート：2列目に取り付け

② セカンドシート：後ろ向き
サードシート：3列目に取り付け

⑤ セカンドシート：一つだけ2列目に前向き
サードシート：右側シートだけ

⑧ セカンドシート：一つだけ3列目に前向き
サードシート：取り外し

③ セカンドシート：後ろ向き
サードシート：取り外し

⑥ セカンドシート：一つだけ2列目に前向き
サードシート：取り外し

⑨ セカンドシート：取り外し
サードシート：取り外し

ドア

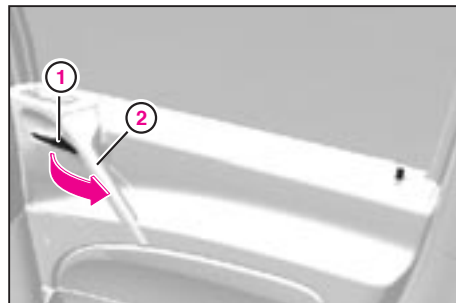
フロントドアを開閉する

運転席ドア
① ドアハンドル

車外から開く

▶ ドアハンドル①を引きます。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル①を持って確実に閉じます。

運転席ドア
① ドアレバー
② インナーグリップ

車内から開く

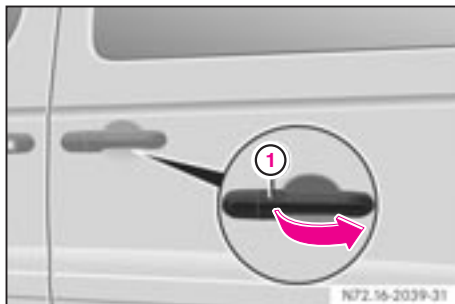
▶ ドアレバー①を矢印の方向に引きます。

車内から閉じる

▶ インナーグリップ②を持って確実に閉じます。

警　告

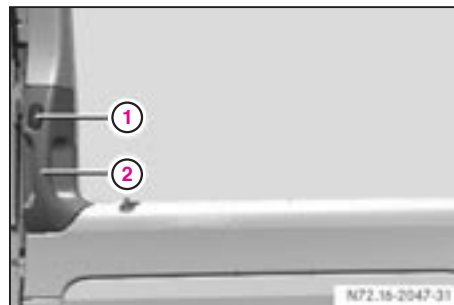
燃料給油中は助手席ドアを開閉しないでください。助手席ドアと給油ノズルが接触し、給油ノズルが外れると火災が発生するおそれがあります。

スライディングドアを開閉する

左側スライディングドア
① ドアハンドル

車外から開く

▶ ドアハンドル①を引き、後方に止まるまでスライドします。

車外から閉じる

▶ ドアハンドル①を持って前方にスライドし、確実に閉じます。

右側スライディングドア
① ドアロック解除ボタン
② インナーグリップ

車内から開く

▶ ドアロック解除ボタン①を押し、インナーグリップ②を持って後方に止まるまでスライドします。

車内から閉じる

▶ インナーグリップ②を持って前方にスライドし、確実に閉じます。

警　告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じかたが不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

注　意　！

- 車から離れるときは、エンジンを停止して、必ず施錠してください。
- スライディングドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
- スライディングドアを開閉するときは、スライディングドアの動きに十分注意してください。
- スライディングドアは完全に閉じていない状態または完全に開いていない状態で手を放すと、自動的に動きます。身体を挟まれないように注意してください。特に坂道では、スライディングドアのドアハンドルやインナーグリップを確実に持って開閉してください。
- 降雨時や洗車時など、靴やサイドステップが濡れているときは、ステップで足を滑らせないように注意してください。

フロントドアを解錠 / 施錠する

運転席ドア
① ドアレバー
② ロックノブ

解錠する

▶ ドアレバー①を矢印の方向に引きます。

このとき、フロントドアが開きます。

施錠する

▶ ロックノブ②を押し込みます。

ドアロックスイッチで解錠 / 施錠する

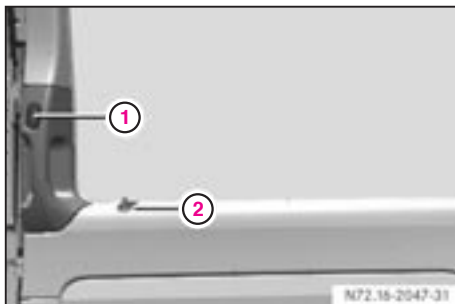
センターコンソールにあるドアロックスイッチで解錠 / 施錠することができます（3-60）。

注 意 !

- 施錠後は、ロックノブ②が完全に下がっていることを確認してください。
- ロックノブ②が完全に下がっていないときは、ドアを確実に閉じてから、再度ロックノブ②を押し込んでください。

知 識

ドアが車速感応ドアロック（3-62）で施錠されているときに、車内のドアレバー①でフロントドアを解錠すると、他のドア、テールゲートも解錠されます。

スライディングドアを解錠 / 施錠する

右側スライディングドア
① ロック解除ボタン
② ロックノブ

解錠する

▶ ロック解除ボタン①を押します。

このとき、スライディングドアが開きます。

施錠する

▶ ロックノブ②を押し込みます。

ドアロックスイッチで施錠 / 解錠する

センターコンソールにあるドアロックスイッチで解錠 / 施錠することができます（3-60）。

注　意　！

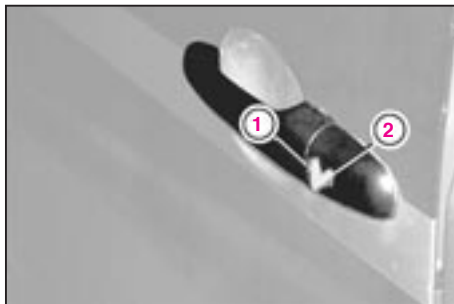
- 施錠後は、ロックノブ②が完全に下がっていることを確認してください。
- ロックノブ②が完全に下がっていないときは、ドアを確実に閉じてから、再度ロックノブ②を押し込んでください。
- 助手席のドアとスライディングドアは、ロックノブが押された状態で閉じると施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

知　識

ドアが車速感応ドアロック（3-62）で施錠されているときに、車内のロック解除ボタン①でスライディングドアを解錠すると、他のドア、テールゲートも解錠されます。

リモコン操作で解錠 / 施錠する

車の周囲からリモコン操作で車を解錠 / 施錠することができます（3-6）。

エマージェンシーキーで助手席ドアを解錠 / 施錠する

助手席ドア
① 解錠
② 施錠

助手席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキー（3-9）を差し込み、解錠 / 施錠します。

知　識

運転席のドアにはキーシリンダーはありません。

解錠する

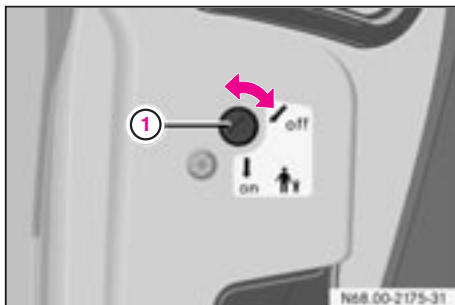
▶ 助手席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、前方①にまわします。

施錠する

▶ 助手席ドアのドアハンドルのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込み、後方②にまわします。

注　意　！

- エマージェンシーキーで助手席ドアを解錠 / 施錠しても、他のドア、テールゲートは解錠 / 施錠されません。
- 盗難防止警報システム装備車は、リモコン操作で施錠した後に、エマージェンシーキーで助手席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーのかを押します。

チャイルドプルーフロック（スライディングドア）

左側スライディングドア
① ロックダイヤル

スライディングドア後部にチャイルドプルーフロックが装備されています。

チャイルドプルーフロックを設定すると、スライディングドアの車内のロック解除ボタンを押してもスライディングドアが開かなくなります。

子供を乗せるときなどに使用してください。

チャイルドプルーフロックを設定する

- ▶ エマージェンシーキーなどをロックダイヤル①の溝に差し込んで、溝の方向が "on" の矢印の方向に合うようにまわします。
- ▶ 車内のロック解除ボタン**（3-54）**を押して、スライディングドアが開かないことを確認します。

チャイルドプルーフロックを解除する

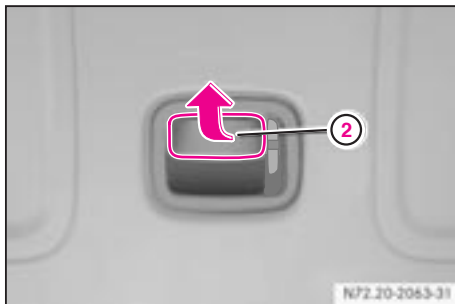
- ▶ エマージェンシーキーなどをロックダイヤル①の溝に差し込んで、溝の方向が "off" の矢印の方向に合うようにまわします。

テールゲート

テールゲートを開閉する

① ハンドル

車外からテールゲートを開く

▶ ハンドル①を引き、テールゲートを開きます。

② テールゲートレバー

車内からテールゲートを開く

▶ テールゲートレバー②を引き、テールゲートを開きます。

注 意 ！

盗難防止警報システム装備車は、リモコン操作で施錠した後に、テールゲートのロックノブで解錠してテールゲートを開くと、盗難防止警報が作動します。警報を停止するには、キーをエンジンスイッチに差し込むか、キーの[解錠]か[施錠]を押します。

③ ストラップ

テールゲートを閉じる

▶ ストラップ③に手をかけ、テールゲートを下げてから、確実に押して閉じます。

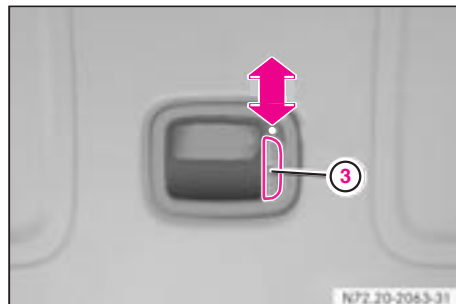
テールゲート

警　告

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

注　意　!

- テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。
- テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

テールゲートを解錠 / 施錠する

③ ロックノブ

内側からテールゲートを解錠する

▶ ロックノブ③を上方向にスライドさせます。

が見えなくなります。

内側からテールゲートを施錠する

▶ ロックノブ③を下方向にスライドさせます。

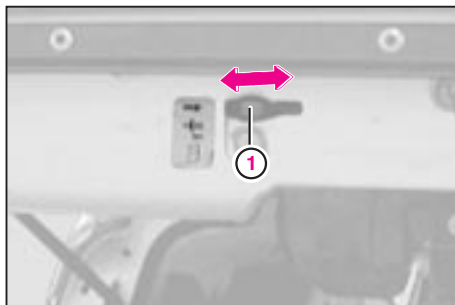
が見えるようになります。

ドアロックスイッチで解錠 / 施錠する

センターコンソールにあるドアロックスイッチで解錠 / 施錠することができます（3-60）。

注　意　!

- テールゲートのロックノブを施錠の位置にしてテールゲートを閉じると施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。
- 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。

チャイルドプルーフロック（テールゲート）

① ロックレバー

テールゲートにチャイルドプルーフロックが装備されています。

チャイルドプルーフロックを設定すると、テールゲートの車内のテールゲートレバーを引いてもテールゲートが開かなくなります。

子供を乗せるときなどに使用してください。

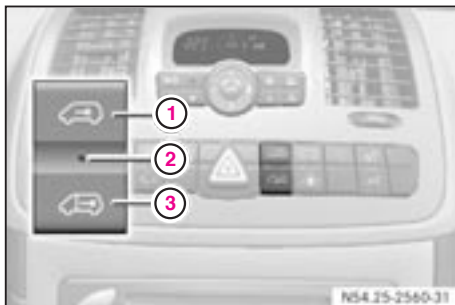
チャイルドプルーフロックを設定する

▶ ロックレバー①を右側にスライドさせます。

▶ 車内のテールゲートレバーを引いて、テールゲートが開かないことを確認します。

チャイルドプルーフロックを解除する

▶ ロックレバー①を左側にスライドさせます。

ドアロックスイッチ

① すべてのドアとテールゲートの施錠 / 解錠
② 表示灯
③ スライディングドアとテールゲートの施錠 / 解錠

警　告

ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引いたり、スライディングドアのロック解除ボタンを押すと、ドアは開きます。子供を乗せたときは特に注意してください。走行中に子供が不意にドアを開き、事故を起こすおそれがあります。

ドアロックスイッチでは以下のことができます。

- 車内からのすべてのドアとテールゲートの施錠 / 解錠
- 車内からのスライディングドアとテールゲートの施錠 / 解錠

知　識

リモコン操作で施錠しているときや、施錠しようとしているドアやテールゲートが開いているときは、ドアロックスイッチで施錠 / 解錠することはできません。

すべてのドアとテールゲートの施錠 / 解錠

すべてのドアとテールゲートを施錠する

▶ ドアロックスイッチの上側①を押します。

表示灯②が点灯して、すべてのドアとテールゲートが施錠されます。

知　識

エンジンスイッチが**0**の位置のとき、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、すべてのドアとテールゲートを施錠して点灯した表示灯は約5秒後に消灯します。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときは、表示灯は点灯したままになります。

すべてのドアとテールゲートを解錠する

▶ 表示灯②が点灯しているときに、ドアロックスイッチの上側①を押します。

表示灯②が消灯して、すべてのドアとテールゲートが解錠されます。

知　識

エンジンスイッチが0の位置のとき、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときに、すべてのドアとテールゲートを解錠するときは、一度ドアロックスイッチの上側①を押してください。約5秒間表示灯が点灯して、その間に再度ドアロックスイッチの上側①を押すと、すべてのドアとテールゲートを解錠 / 施錠することができます。

スライディングドアとテールゲートの施錠 / 解錠

スライディングドアとテールゲートを施錠する

▶ ドアロックスイッチの下側③を押します。

表示灯②が点灯して、スライディングドアとテールゲートが施錠されます。

知　識

エンジンスイッチが0の位置のとき、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、スライディングドアとテールゲートを施錠して点灯した表示灯は約5秒後に消灯します。

エンジンスイッチが1か2の位置のときは、表示灯は点灯したままになります。

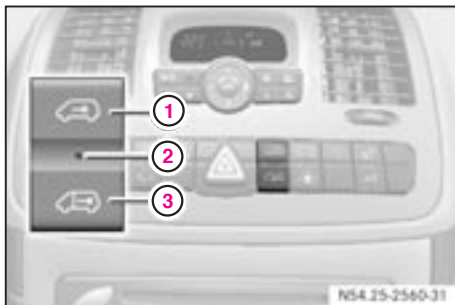
スライディングドアとテールゲートを解錠する

▶ 表示灯②が点灯しているときに、ドアロックスイッチの下側③を押します。

表示灯②が消灯して、スライディングドアとテールゲートが解錠されます。

知　識

エンジンスイッチが0の位置のとき、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときに、スライディングドアとテールゲートを解錠するときは、一度ドアロックスイッチの下側③を押してください。約5秒間表示灯が点灯して、その間に再度ドアロックスイッチの下側③を押すと、スライディングドアとテールゲートを解錠 / 施錠することができます。

車速感応ドアロック

① すべてのドアとテールゲートの設定 / 解除
② 表示灯
③ スライディングドアとテールゲートの設定 / 解除

走行速度が約15km/h以上になったときに、

- すべてのドアとテールゲートの施錠

または

- スライディングドアとテールゲートの施錠

をすることができます。

エンジンスイッチが**2**の位置で、すべてのドアとテールゲートが閉じているときに、ドアロックスイッチで設定 / 解除を行ないます。

注 意 !

- タイヤ交換をするときやけん引されるときは、車速感応ドアロックを解除するか、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 車速感応ドアロックで施錠された後にドアロックスイッチで解錠すると､ドアなどを開くか、エンジンを再始動するまで､車速感応ドアロックは作動しません。

すべてのドアとテールゲートの設定 / 解除

設定する

▶ ドアロックスイッチの上側①を約5秒間押します。

表示灯②が4回点滅します。

解除する

▶ ドアロックスイッチの上側①を約5秒間押します。

表示灯②が2回点滅します。

スライディングドアとテールゲートの設定 / 解除

設定する

▶ ドアロックスイッチの下側③を約5秒間押します。

表示灯②が4回点滅します。

解除する

▶ ドアロックスイッチの下側③を約5秒間押します。

表示灯②が2回点滅します。

知　識

すべてのドアとテールゲートに車速感応ドアロックを設定しているときに、スライディングドアとテールゲートの車速感応ドアロックの設定を行なうと、フロントドアの車速感応ドアロックが解除されます。

ラゲッジルーム

ラゲッジルームランプ

テールゲートを開くと点灯し、閉じると消灯します。

知　識

エンジンスイッチが0の位置のときにテールゲートを開いたままにすると、ラゲッジルームランプは一定時間経過後に消灯します。

ラゲッジネット

① ラゲッジネット
② 固定部（上側）
③ 固定部（下側）

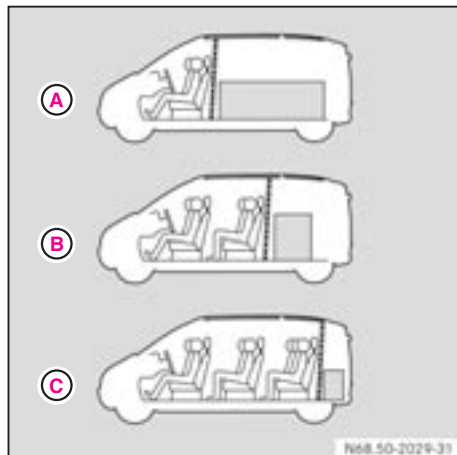
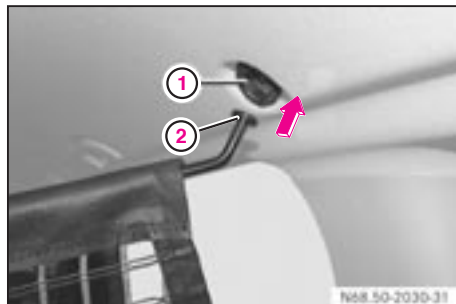
軽い荷物を収納するときに使用してください。

ラゲッジネット①のフックを固定部②と固定部③にかけて使用します。

警　告

- 荷物を積むときは、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをしないよう、必ずラゲッジネットを使用してください。
- ラゲッジネットには軽い物だけを収納してください。ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を入れないでください。
- ラゲッジネットを使用するときでも、荷物は必ず固定してください。

セーフティネット＊

セーフティネットは、以下の位置に取り付けることができます。

Ⓐ フロントシート後方に取り付け
Ⓑ セカンドシート後方に取り付け
Ⓒ サードシート後方に取り付け

上部固定部
① 上部固定部（フロントシート左右上部）
② フック

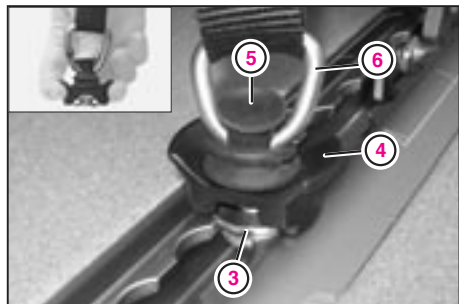
セーフティネットを取り付ける

▶ ストラップが後方を向くようにして、セーフティネットのフック②を上部固定部①にかけます。

知　識

上部固定部は、セカンドシート左右上部、サードシート左右上部にもあります。

＊販売店オプションとなります。

ラゲッジルーム

下部装着部をシートレールの穴に差し込んでスライドさせた状態。（左上）下部装着部の持ちかた

③ ロック
④ ストッパー
⑤ ボタン
⑥ フック

▶ 下部装着部のボタン⑤を押して、ストッパー④の両端をつまみます。

▶ ストッパー④がシートレールに対して横になった状態で、ロック③をシートレールの穴に差し込み、穴と穴の間の位置にスライドさせます。

▶ フック⑥を持って、穴と穴の中間の位置になるように調整します。

知　識

- 下部装着部が動きにくいときは、フック⑥を持って、全体をまわすようにしながら動かします。
- シートレールやロック③に潤滑剤などを少量塗布すると下部装着部が動かしやすくなります。

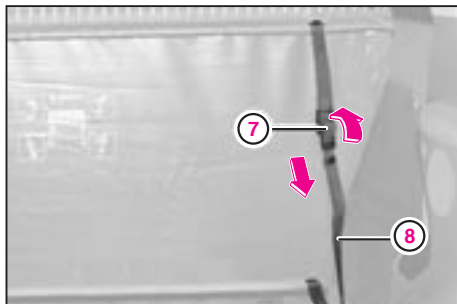
ストッパーを90度まわして、下部装着部をシートレールに固定した状態

▶ ストッパー④を90度まわします。

ストッパー④がシートレールの穴に入ります。

下部装着部が確実にシートレールに固定されていることを確認してください。

知　識

下部装着部の位置が穴と穴の中間になっていないとストッパー④がシートレールの穴に入りません。

⑦ バックル
⑧ ストラップ

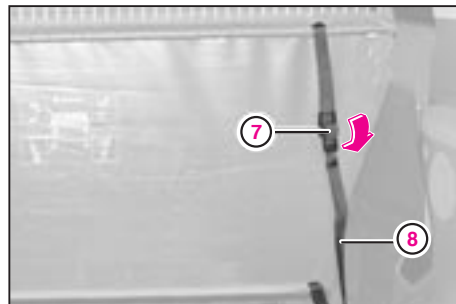
▶ セーフティネットのストラップ⑧を強く引きます。

▶ バックル⑦を倒して、ストラップを固定します。

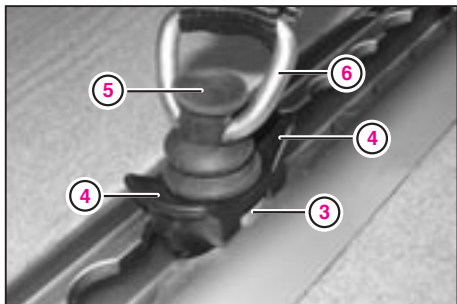
注 意 !

少し走行した後で、セーフティネットが十分に張っていることを確認してください。

警 告

- セーフティネットは必ず張りを持たせて使用してください。走行中にセーフティネットが外れると、荷物が放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- セーフティネットは補助的なもので、急ブレーキや事故のときなどに重い荷物が飛び出すのを防ぐことはできません。セーフティネットを使用するときでも、荷物は必ず固定してください。
- セーフティネットを取り付けたときは、セーフティネットより後ろのシートに乗車しないでください。

⑦ バックル
⑧ ストラップ

セーフティネットを取り外す

▶ バックル⑦を起こして、ストラップ⑧をゆるめます。

下部装着部

③ ロック

④ ストッパー

⑤ ボタン

⑥ フック

▶ 下部装着部のストッパー④の両端をつまみながら、ストッパー④を90度まわします。

▶ ロック③がシートレールの穴のところにくるように下部装着部をスライドさせます。

知　識

- 下部装着部が動きにくいときは、フック⑥を持って、全体をまわすようにしながら動かします。
- シートレールやロック③に潤滑剤などを少量塗布すると下部装着部が動かしやすくなります。

▶ 下部装着部を取り外します。

▶ セーフティネットを上部の装着部から外します。

セーフティネットを取り付けた状態でフロントシートを調整する

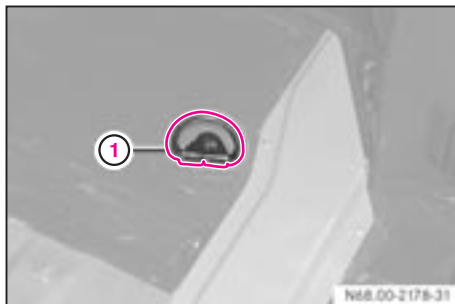
フロントシートを調整するとセーフティネットに接触するときは、以下の手順でセーフティネットを張り直してください。

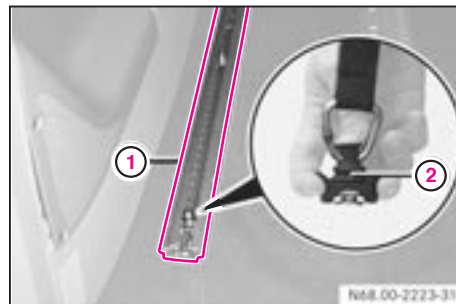
▶ ストラップのバックル⑦を起こして、ストラップ⑧をゆるめます。

▶ フロントシートを調整します（3-15､21）。

▶ セーフティネットのストラップ⑧を強く引きます。

▶ ストラップ⑧がゆるまないように、バックル⑦を倒して、ストラップを固定します。

荷物固定用リング

① 荷物固定用リング
（フロントシート後方左右足元）

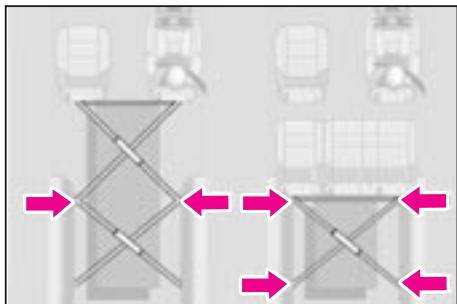
脱着式荷物固定用リング＊

固定ボルトにストラップがついている状態
① シートレール
② 固定ボルト

シートレールに荷物固定用リングを取り付けることができます。

脱着式荷物固定用リングは、セーフティネットの下部固定部と同じ方法で脱着を行ないます。

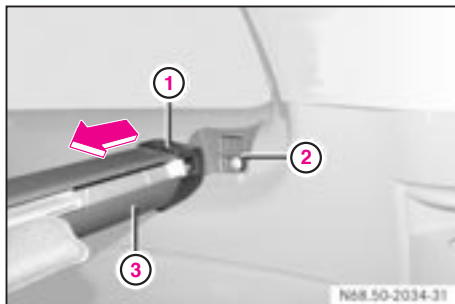
詳しくは（3-66～3-68）をご覧ください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ラゲッジルーム

ストラップを利用して荷物を固定する例

注 意！

- ラゲッジネットは重い荷物を固定することはできません。重い荷物を積むときはロープやストラップで正しく固定してください（3-69）。
- 荷物は必ず固定してください。荷物を固定しないと、急ブレーキや急ハンドルまたは事故のとき、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 荷物の固定には擦れに強く丈夫なロープを使用して、荷物固定用リングに通して確実に結んでください。
- 荷物固定用リングに均等に力がかかるようにしてください。
- 伸縮性のあるロープやネットで重い荷物を固定しないでください。事故のとき、荷物を支えきれず、乗員がけがをするおそれがあります。
- 固定するロープやネットが荷物の角にかからないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- ストラップで荷物を締め付けるときは、荷物の上で交差するようにかけ、荷物の重量が各荷物固定用リングに均等にかかるようにします。特に締め付け具を使用する場合は、荷物固定用リングに過大な力がかからないように注意してください。
- 荷物を締め付けるときに使用するストラップは、少なくとも張力400kg以上のものを使用してください。

ラゲッジルームカバー＊

サードシートの後方に取り付けた例

① リールエンド
② リール取り付け部
③ リール

セカンドシートまたはサードシート後方に取り付けることができます。

ラゲッジルームカバーを取り付ける

▶ リール③の左端を左側のリール取り付け部にはめ込みます。

▶ リールエンド①を左側に引きながら、右側のリール取り付け部②に合わせます。

▶ リールエンド①を右側にずらし、リール取り付け部②に固定します。

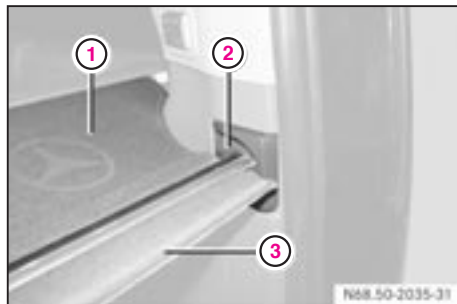
知 識

リール取り付け部は、セカンドシートのバックレスト後方左右、サードシートのバックレスト後方左右にあります。

ラゲッジルームカバーを取り外す

▶ ラゲッジルームカバーをリール③に収納します。

▶ リール③の右端のリールエンド①を左側に引いて、リール取り付け部②から取り外します。

＊販売店オプションとなります。

ラゲッジルーム

サードシートの後方に取り付けた例

① ラゲッジルームカバー
② フック
③ フラップ

ラゲッジルームカバーを使用する

▶ フラップ③を持ち、ラゲッジルームカバーをリールから引き出します。

▶ フラップ③左右のロッドをフック②に差し込みます。

警　告

ラゲッジルームカバーの上に荷物などを置かないでください。荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

ラゲッジルームカバーを収納する

▶ ラゲッジルームカバーのフラップ③を後ろに引いて、左右のロッドをフック②から外します。

▶ フラップ③を持ち、ラゲッジルームカバーをリールに収納します。

注　意！

ラゲッジルームカバーをリールに収納するときは、フラップを持って、ゆっくりと収納させます。手を放すと、身体や物を挟んだり、カバーなどを損傷するおそれがあります。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけ乗車していないシートの後方に積んでください。
- 荷物をバックレストより高く積み上げないでください。
- ウインドウに荷物が当たらないように注意してください。ウインドウを損傷したり、リアデフォッガーの熱線を断線するおそれがあります。
- 荷物を積むときは、ラゲッジネットの使用をおすすめします。
- 大きな荷物を積まないときは、セカンドシートとサードシートにヘッドレストを取り付け、バックレストを確実に起こしてください。
- 極端に重い荷物を積まないでください。ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル＊を使用しても、ヘッドランプの照射角度が正しい角度に保てなくなります。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。
- 荷物は重量が均等になるように積み、一部に偏らないようにしてください。荷物の積みかたは走行安定性に大きく影響します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

12V電源ソケット

サードシート左右と、ラゲッジルームに12V電源ソケットを装備しています。電気製品などの電源として使用します。

使用するときはカバーを上方に開きます。

※車種や仕様により、サードシート右側に12V電源ソケットは装備されません。

注　意　！

- 必ずDC12V、最大消費電流15A（最大消費電力180W以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の電気製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。
- 12V電源ソケットにライターを差し込まないでください。
- ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。
- エンジンがかかっていないときは12V電源ソケットを長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- 12V電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障やショートの原因になることがあります。

ENR＊

ENR（エレクトロニック・レベル・コントロール）は、車の積載重量に応じて車高を適切に保ちます。

ENRの利点

◇ 走行安定性を高めます。

◇ 乗り心地を安定させせます。

◇ 停車中に車高を調整することで、荷物の積み降ろしを容易にします。

警　告

ENRに故障が発生すると、メーターパネルの表示灯が点灯します。そのまま走行を続けるとサスペンションを損傷したり、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。指定サービス工場に連絡してください。

＊オプションや仕様により装備が異なります。

ENRは以下の3つのモードに設定できます。

自動調整モード

走行中および停車中ともに、現在の車高が保たれるように自動的に調整します。

注　意　！

極端に重い荷物を積載したときは、車高は自動的に調整されません。

手動調整モード

停車中に車高を調整することができます。

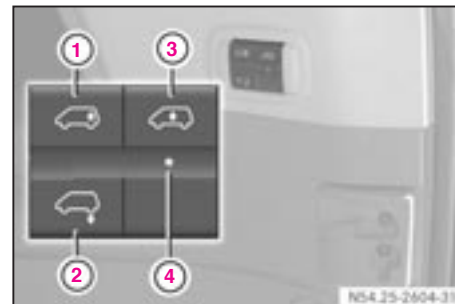
自動調整停止モード

積載重量などが変わっても、車高は自動的に調整されません。

ジャッキアップやリフトアップするときなどに使用します。

知　識

ENRが故障したときは、自動調整停止モードになることがあります。

ENRスイッチ

① 手動調整モード
（車高を上げる）
② 手動調整モード
（車高を下げる）
③ 手動調整モード解除
／自動調整停止モード設定・解除
④ 表示灯

スイッチ①②とスイッチ③は左右反対に装着されていることがあります。

ENRスイッチは、ラゲッジルーム右側にあります。

3

手動調整モード

停車中で、表示灯④とメーターパネルの が消灯しているときに作動します。

手動で車高を上げる

▶ スイッチ①を押します。

車高が上がり、表示灯④が点滅します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときは、メーターパネルの が点滅します。

上昇している車高を停止するときは、スイッチ②を押します。

手動で車高を下げる

▶ スイッチ②を押し続けます。

押している間、車高が下がり、表示灯④が点滅します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときは、メーターパネルの が点滅します。

自動調整モードに戻す

▶ スイッチ③を押します。

表示灯④とメーターパネル内の が消灯します。

知　識

手動調整モードで走り出したときは、走行速度が約3km/hを超えると、自動調整モードに戻ります。

警　告

メーターパネルの が点滅または点灯している状態で走行すると、サスペンションを損傷したり、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。メーターパネルの が消灯するまでは、十分注意して走行してください。消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。

注　意　!

手動調整モードのまま、長時間停車しないでください。サスペンションなどを損傷するおそれがあります。

自動調整停止モード

自動調整モードを停止する

▶ スイッチ③を約2秒間押します。

表示灯④が点灯します。

エンジンスイッチが**2**の位置のときは、メーターパネルの が点灯します。

注　意　！

ジャッキアップやリフトアップをするときは、必ず自動調整停止モードにしてください。自動調整モードのままだと、そのタイヤのサスペンションが伸び、タイヤ交換ができないことがあります。また、車をジャッキダウンした後にENRが誤作動し、正常な車高を保てなくなります。

自動調整モードに戻す

▶ スイッチ③を約2秒間押します。

表示灯④とメーターパネル内の が消灯します。

知　識

自動調整停止モードで走り出したときは、走行速度が約3km/hを超えると自動調整モードに戻ります。

警　告

メーターパネルの が点滅または点灯している状態で走行すると、サスペンションを損傷したり、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。メーターパネルの が消灯するまでは、十分注意して走行してください。消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。

ENRの解除

以下のときは、ENRは一時的に解除されます。

▶ バッテリー電圧が低下したとき

▶ 車高の上げ下げを繰り返したとき

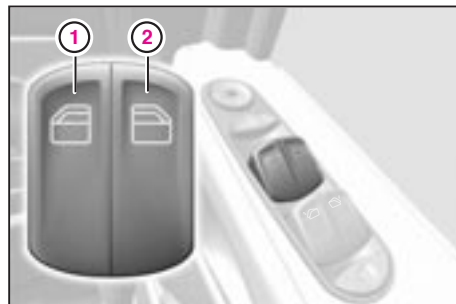
ENRはエンジンがかかっていないときでも作動しますが、作動しなくなったときは、エンジンを始動してください。

パワーウインドウ

パワーウインドウ

パワーウインドウには、フロントドアウインドウとベンチレーションウインドウがあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウとベンチレーションウインドウを開閉するスイッチがあります。

フロントドアウインドウスイッチ

運転席ドアのスイッチ

① 左側フロントドアウインドウスイッチ
② 右側フロントドアウインドウスイッチ

助手席ドアのスイッチ

③ 左側フロントドアウインドウスイッチ

スイッチは左右フロントドアにあります。

エンジンスイッチが1か2の位置のときに開閉できます。

フロントドアウインドウを開く

▶ スイッチ①、②、③を軽く押します。押している間だけ開きます。

スイッチを深く押すと、自動で開きます。

途中で停止するときは、スイッチをいずれかの方向に操作します。

フロントドアウインドウを閉じる

▶ スイッチ①、②、③を軽く引きます。引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいに引くと、自動で閉じます。

途中で停止するときは、スイッチをいずれかの方向に操作します。

注　意　！

- 走行中はフロントドアウインドウから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車のときは、すべてのウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- フロントドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。

  挟まれそうになったときは、ただちにフロントドアウインドウスイッチでフロントドアウインドウを開いてください。
- フロントドアウインドウを開くときは、フロントドアウインドウに身体を寄りかけないでください。フロントドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- 挟み込み防止機能には、挟み込みを感知しない範囲があります。フロントドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。

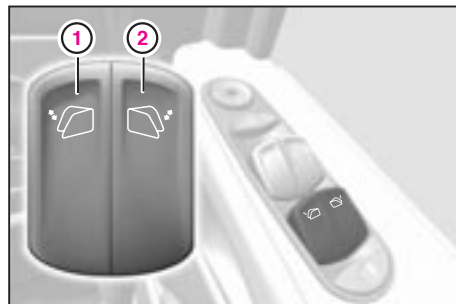
知　識

- フロントドアウインドウには挟み込み防止機能があります。フロントドアウインドウが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、フロントドアウインドウがただちに停止し、その位置から少し下降します。
- フロントドアウインドウは、車外からリモコン操作で開閉することができます（3-10）。

フロントドアウインドウが自動で開閉しないとき

バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源を断たれたときは、フロントドアウインドウが自動で開閉しなくなることがあります。このときは、スイッチを軽く引き続けて全閉にし、そのまま2秒以上保持してください。この操作を各フロントドアウインドウで行なってください。再びフロントドアウインドウが自動で開閉するようになります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

ベンチレーションウインドウスイッチ

運転席ドアのスイッチ

① 左側ベンチレーションウインドウスイッチ
② 右側ベンチレーションウインドウスイッチ

スイッチは運転席ドアと、サードシートの左右にあります。

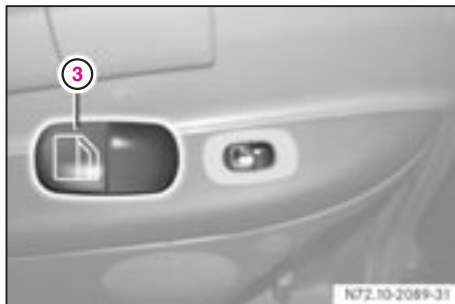
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに開閉できます。

運転席ドアのスイッチでベンチレーションウインドウを開く

▶ スイッチ①、②を軽く押します。押している間だけ、ベンチレーションウインドウが外側に開きます。

スイッチを深く押すと、自動で外側に開きます。

運転席ドアのスイッチでベンチレーションウインドウを閉じる

▶ スイッチ①、②を引きます。引いている間だけ、ベンチレーションウインドウが閉じます。

サードシート左側のスイッチ
③ ベンチレーションウインドウスイッチ

サードシート左右のスイッチでベンチレーションウインドウを開く

▶ スイッチ③を軽く押します。押している間だけ、ベンチレーションウインドウが外側に開きます。

スイッチを深く押すと、自動で外側に開きます。

サードシート左右のスイッチでベンチレーションウインドウを閉じる

▶ スイッチ③を引きます。引いている間だけ、ベンチレーションウインドウが閉じます。

注 意 !

ベンチレーションウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。

セーフティスイッチ

サードシート左右のベンチレーションウインドウスイッチによるベンチレーションウインドウの開閉操作と、サードシート上方のリアスライディングルーフスイッチによるリアスライディングルーフ＊の開閉操作をできないようにするスイッチです。

子供をセカンドシートやサードシートに乗せるときに使用してください。

セーフティスイッチは運転席ドアにあります。

運転席ドア
① セーフティスイッチ

セーフティスイッチを設定する

▶ スイッチ①を押して、スイッチ①が押された状態にします。

セーフティスイッチを解除する

▶ 再度、スイッチ①を押して、スイッチ①が押されていない状態にします。

知　識

セーフティスイッチの設定 / 解除にかかわらず、運転席のスイッチでは、ベンチレーションウインドウとリアスライディングルーフの開閉操作ができます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

スライディングルーフ＊

フロントシートとセカンドシートの上方にスライディングルーフが装備されています。

知　識

サードシート上方のガラスルーフは開閉することができません。

ブラインド＊

フロントスライディングルーフ
① グリップ

フロントスライディングルーフ、リアスライディングルーフ、サードシート上方のガラスルーフには、それぞれブラインドが装備されています。

ブラインドを開く

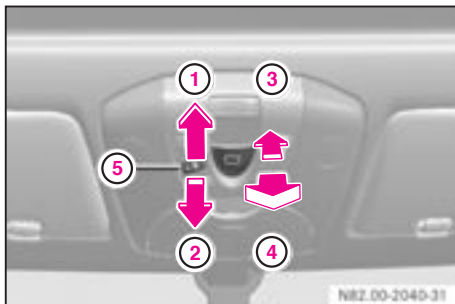
▶ グリップ①を上方に押してロックを外し、グリップを持ちながら開きます。

ブラインドを閉じる

▶ グリップ①を持って閉じ、確実にロックします。

注　意　！

ブラインドを開くときは、グリップを持って、ゆっくりと巻き取らせます。手を放すとブラインドなどを損傷するおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

フロントスライディングルーフ

① 開く
② 閉じる
③ チルトアップする
④ チルトダウンする
⑤ フロント / リア切り替えスイッチ

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに、フロントスライディングルーフを操作できます。

スイッチはルーフコントロールパネルにあります。

フロントスライディングルーフを操作する

▶ フロント / リア切り替えスイッチ⑤を押します。

スイッチ⑤の表示灯が消灯しているときに、フロントのスライディングルーフを操作できます。

フロントスライディングルーフをチルトアップする

▶ ③の方向に軽く押します。押している間だけチルトアップします。

③の方向に強く押すと、自動でチルトアップします。

フロントスライディングルーフを開く

▶ ①の方向に軽く操作します。操作している間だけ開きます。

①の方向に強く操作すると、自動で開きます。

フロントスライディングルーフを閉じる

▶ ②の方向に軽く操作します。操作している間だけ閉じます。

②の方向に強く操作すると、自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

または、

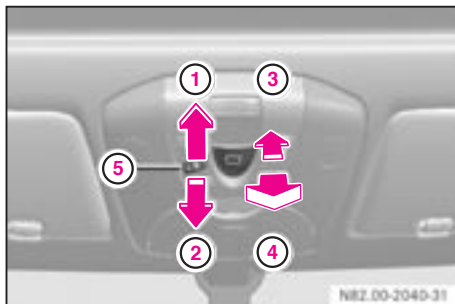
▶ ④の方向に軽く引きます。引いている間だけ閉じます。

④の方向に強く引くと、自動で閉じます。

フロントスライディングルーフをチルトダウンする

▶ ②の方向に軽く操作するか、④の方向に軽く引きます。引いている間だけチルトダウンします。

②の方向に強く操作するか、④の方向に強く引くと、自動でチルトダウンします。

リアスライディングルーフ（前席からの操作）

前席スイッチ
① 開く
② 閉じる
③ 少し開く
④ 閉じる
⑤ フロント / リア切り替えスイッチ

エンジンスイッチが1か2の位置のときに、リアスライディングルーフを操作できます。

前席のスイッチはルーフコントロールパネルにあります。

リアスライディングルーフを操作する

▶ フロント / リア切り替えスイッチ⑤を押します。

スイッチ⑤の表示灯が点灯しているときに、リアのスライディングルーフを操作できます。

リアスライディングルーフを開く

▶ ①の方向に軽く操作します。操作している間だけ開きます。

①の方向に強く操作すると、自動で開きます。

リアスライディングルーフを閉じる

▶ ②の方向に軽く操作します。操作している間だけ閉じます。

②の方向に強く操作すると、自動で閉じ、少し開いた状態で止まります。

または、

▶ ④の方向に軽く引きます。引いている間だけ閉じます。

④の方向に強く引くと、自動で閉じます。

知　識

リアスライディングルーフが閉じているとき、または開いているときにスイッチを③の方向に押すと、リアスライディングルーフが作動し、少し開いた状態で停止します。

スイッチを③の方向に強く押したときは自動で作動します。

リアスライディングルーフ（後席からの操作）

後席スイッチ
① 少し開く / 全開する
② 少し閉じる / 全閉する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに、リアスライディングルーフを操作できます。

後席のスイッチはリアスライディングルーフ後方にあります。

リアスライディングルーフを開く

▶ ①の方向に軽く押します。押している間だけ開きます。

①の方向に強く押すと、自動で開きます。

知　識

リアスライディングルーフが閉じているときに、①の方向に強く押すと、自動で開き、少し開いた状態で停止します。

リアスライディングルーフを閉じる

▶ ②の方向に軽く引きます。引いている間だけ閉じます。

②の方向に強く引くと、自動で閉じます。

注 意 !

- 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。
- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。
- スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車のときは、ウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- スライディングルーフのシール部を損傷しないように注意してください。車内に水や雨などが漏れるおそれがあります。
- 雨や雪が降った後でスライディングルーフを操作するときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。
- ルーフラックを取り付けているときは、スライディングルーフを開かないでください。ルーフラックに当たり、スライディングルーフやルーフラックを損傷するおそれがあります。

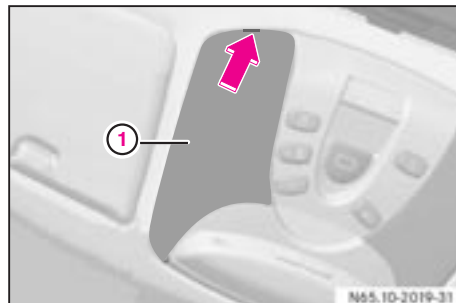
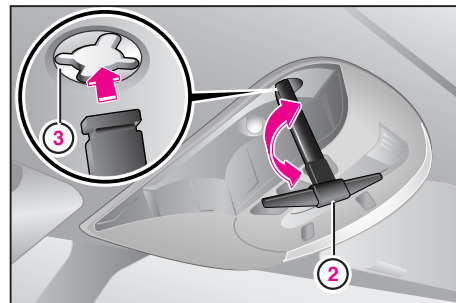
知 識

- スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかウインドウを少し開くと、解消することがあります。
- スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。スライディングルーフが自動で閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。

スイッチで開閉できないとき（フロントスライディングルーフ）

バッテリーあがりを起こしたり、スライディングルーフの故障でスイッチでの開閉ができないときは、手動で閉じることができます。

注　意　！

手動で閉じるときは、スライディングルーフスイッチに触れないでください。万一、スライディングルーフが動き出すとけがをするおそれがあります。

① カバー

② 専用レンチ
③ 手動駆動部

スライディングルーフを閉じる / チルトダウンする

- ▶ 車載工具（**6-4**）の専用レンチ②とドライバーなどを用意します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ カバー①の矢印の位置にドライバーなどを差し込み、カバーを取り外します。

知　識

ドライバーなどの先端を布切れなどで覆うと、カバーやスイッチの損傷を防ぐことができます。

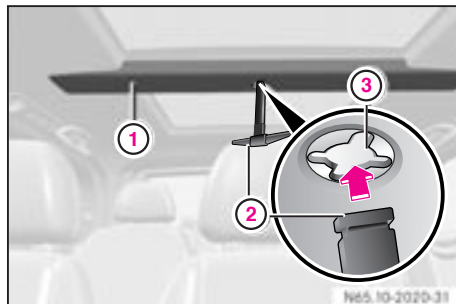
- ▶ 専用レンチ②を手動駆動部③に止まるまで差し込みます。
- ▶ 専用レンチ②を時計回りにまわします。

スライディングルーフを手動で閉じたりチルトダウンした後は、スライディングルーフをリセットしてください（**3-90**）。

スイッチで開閉できないとき（リアスライディングルーフ）

バッテリーあがりを起こしたり、スライディングルーフの故障でスイッチでの開閉ができないときは、手動で閉じることができます。

注　意　！

手動で閉じるときは、スライディングルーフスイッチに触れないでください。万一、スライディングルーフが動き出すとけがをするおそれがあります。

① 内張り
② 専用レンチ
③ 手動駆動部

▶ 車載工具（6-4）の専用レンチ②とドライバーなどを用意します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 内張り①を下方へ取り外します。

知　識

内張りを取り外すときは、ドライバーなどの先端を布切れなどで覆うと、内張りやスイッチの損傷を防ぐことができます。

▶ 専用レンチ②を手動駆動部③に止まるまで差し込んで専用レンチをまわします。

スライディングルーフを閉じる

▶ 時計回りにまわします。

スライディングルーフを手動で閉じた後は、スライディングルーフをリセットしてください。

スライディングルーフのリセット

▶ エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にします。

▶ スイッチを操作して、スライディングルーフを全開にします。

▶ スイッチを操作して、スライディングルーフを全閉にし、そのまま約3秒間スイッチを押し続けます。

注 意 !

- 専用レンチは確実に奥に差し込み、操作時は駆動部に押し付けるようにしながらまわしてください。確実に差し込まれていないと、駆動部を損傷したり、けがをするおそれがあります。
- 専用レンチで容易に駆動部がまわせないときは、スライディングルーフのレール部分に異物がかみ込んでいることがあります。無理に動かさずに異物を取り除いてください。
- スライディングルーフのリセットができないときは、指定サービス工場で作業を行なってください。

ルームミラー

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

① 防眩切り替えノブ

ルームミラーを調整する

▶ 手でミラーの角度を調整します。

▶ 後続車のライトが眩しいときは、防眩切り替えノブ①を前後に切り替えて使用します。

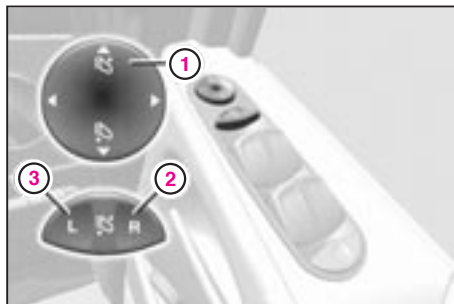
ドアミラー

警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

注　意　!

- ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは、距離感に十分注意してください。
- ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、ルームミラーで後方を確認するだけでなく、必ず肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

ドアミラーの角度調整

① 調整スイッチ
② ドアミラー選択スイッチ（右側）
③ ドアミラー選択スイッチ（左側）

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに調整できます。

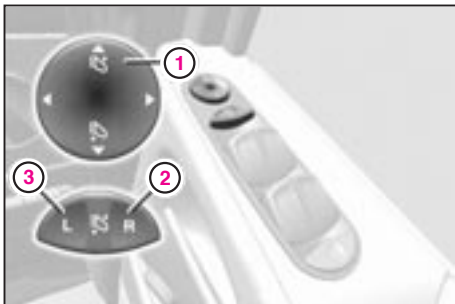
ドアミラーの角度を調整する

▶ ドアミラー選択スイッチを、調整したいミラー側②（右側）または③（左側）に押します。

▶ 調整スイッチ①を操作して、ドアミラーの角度を調整します。

知　識

ドアミラーは、外気温度が下がると自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ドアミラーの格納 / 展開

① 格納 / 展開スイッチ
② ドアミラー選択スイッチ（右側）
③ ドアミラー選択スイッチ（左側）

エンジンスイッチが1か2の位置のときに格納 / 展開できます。

ドアミラーを格納する

▶ ドアミラー選択スイッチを中立の位置にします。

▶ スイッチ①の下側を押し続けます。

ドアミラーを展開する

▶ ドアミラー選択スイッチを中立の位置にします。

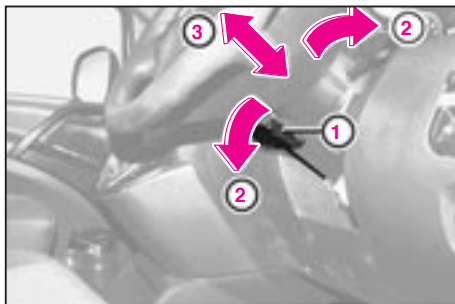
▶ スイッチ①の上側を押し続けます。

注 意 ！

- ドアミラーは、手で格納したり展開したりしないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- 走行するときはドアミラーを展開の位置にしてください。
- ドアミラーの格納 / 展開操作をしているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周囲に子供がいるときは、特に注意してください。
- 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。
- ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのときに注意してください。また、歩行者などに十分注意してください。
- ドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用するときは、必ず指定サービス工場にご相談ください。

知 識

エンジンを停止して停車しているときに歩行者などが当たり、ドアミラーがわずかに曲がった場合、次にエンジンを始動して速度が約25km/hに達すると、ドアミラーが走行時の位置に戻ります。完全に戻らないときは、スイッチ①で戻してください。

ステアリング

① ロック解除レバー
② ステアリング上下の調整位置
③ ステアリング前後の調整位置

ステアリングの位置を調整する

▶ ステアリング下側のロック解除レバー①を下げます。

▶ 上下位置を調整するときは、ステアリングを矢印②の方向に動かします。

▶ 前後位置を調整するときは、ステアリングを矢印③の方向に動かします。

▶ 調整が終わったら、ロック解除レバー①を上げて、ステアリングをロックします。

調整後はステアリングが確実にロックされていることを確認してください。

注　意！

- ステアリングをいっぱいに切った状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引されるときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

警　告

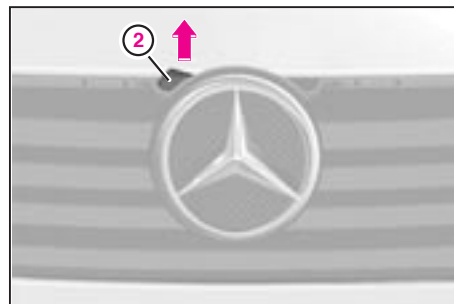
- ステアリングの位置調整は、必ず走行前に行なってください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、バッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

ボンネット

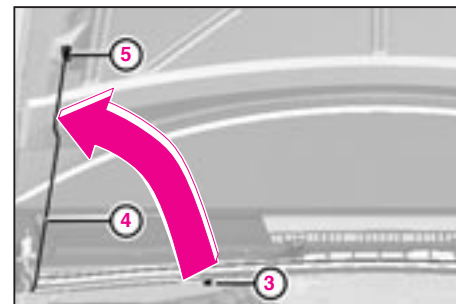
① ボンネットロック解除レバー

ボンネットを開く

▶ 助手席側のインストルメントパネルの下にあるボンネットロック解除レバー①を手前に引きます。

ボンネットのロックが解除されます。

② レバー

▶ ボンネットを少し上げ、ボンネットとグリルのすき間に手を入れ、レバー②を上げます。

▶ ボンネットを持ち上げて保持します。

③ ホルダー
④ アーム
⑤ ボンネット裏側の凹部

▶ アーム④をホルダー③から外し、ボンネット裏側の凹部⑤に差し込みます。

ボンネット

警　告

- ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。
- 走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。
- エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、エンジンスイッチが2の位置のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。
- エンジンスイッチからキーを抜いていても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近づけないでください。

注　意

- ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触し、損傷するおそれがあります。
- 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

  また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。
- ボンネットのアームはエンジンルームの熱で熱くなっていることがあります。触れるときは、布などを使用して、十分に注意してください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを少し上げながら、アーム④をボンネット裏側の凹部⑤から外し、ホルダー③に固定します。

▶ ボンネットを下げ、グリルまでの距離が約30cmになったところで手を放し、自然に落下させます。

▶ ボンネットを軽く引き上げ、確実に閉じているかを確認します。ボンネットが完全に閉じていないときは、再度ボンネットを開き、もう少し高い位置から落下させてください。

警　告

運転する前に、ボンネットが確実に閉じていることを確認してください。運転中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

注　意　!

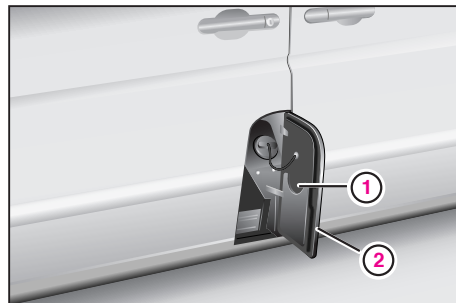
- エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。
- ボンネットを押さえ付けないでください。ボンネットが変形するおそれがあります。
- ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。

燃料給油口

燃料給油口は助手席ドアの下部にあります。

燃料給油口フラップは、助手席ドアが開いているときに、開閉することができます。

注　意！

燃料給油口フラップを閉じる前に助手席ドアを閉じると、燃料給油口フラップを閉じることができません。

① ホルダー
② 燃料給油口フラップ

燃料給油口フラップを開く

▶ 助手席ドアを開きます。

▶ 燃料給油口フラップ②を開きます。

▶ 助手席ドアを閉じます。

警　告

燃料給油中は助手席ドアを開閉しないでください。助手席ドアと給油ノズルが接触し、給油ノズルが外れると火災が発生するおそれがあります。

キャップを取り外す

▶ キャップを反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして、給油口から外します。

▶ キャップを燃料給油口フラップ②の裏側にあるホルダー①に差し込みます。

キャップを取り付ける

▶ キャップを燃料給油口に合わせ、時計回りにまわして閉じます。

キャップが確実に固定されていることを確認してください。

燃料給油口フラップを閉じる

▶ 助手席ドアを開きます。

▶ 燃料給油口フラップ②を閉じます。

▶ 助手席ドアを閉じます。

警　告

- エンジンをかけたまま給油しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 周囲にガソリンがあるときやガソリンの匂いがするときは、決して火気を近づけないでください。火災が発生するおそれがあります。

注　意！

- 燃料は無鉛プレミアムガソリン(8-12)を使用してください。
- 給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

  燃料を入れすぎるとエンジンが不調になったり、停止することがあります。
- 燃料をこぼさないようにしてください。燃料が車の塗装面に垂れたときは、すぐに拭き取ってください。塗装面を損傷するおそれがあります。

知　識

燃料給油口フラップを開いた車体側にタイヤ空気圧ラベルが貼付されています。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては(7-16)をご覧ください。

盗難防止警報システム＊

① 表示灯

盗難防止警報システムが待機状態のときに、ドアやテールゲートが開けられたり、ボンネットのロックが解除されると警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作で施錠します。

表示灯①が点滅します。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

知　識

リモコン操作で施錠した後、エマージェンシーキーで助手席ドアを解錠して開いたり、テールゲート裏のロック解除ノブでテールゲートを解錠して開くと警報が作動します。

注　意　！

- システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にしたときは、ボンネットが開けられても警報は作動しません。
- システムが待機状態のときに車内からドアやテールゲートを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。
- 盗難防止警報システムを待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。指定サービス工場で点検を受けてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作で解錠します。

待機状態は解除されます。

警報の作動

システムが待機状態のとき、以下のような状況を感知すると警報が作動します。

- ドアが開けられたとき
- テールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

警報が作動すると、サイレンが約30秒間鳴り、非常点滅灯が通常の約2倍の速さで数分点滅します。

また、ルームランプなども点灯します。

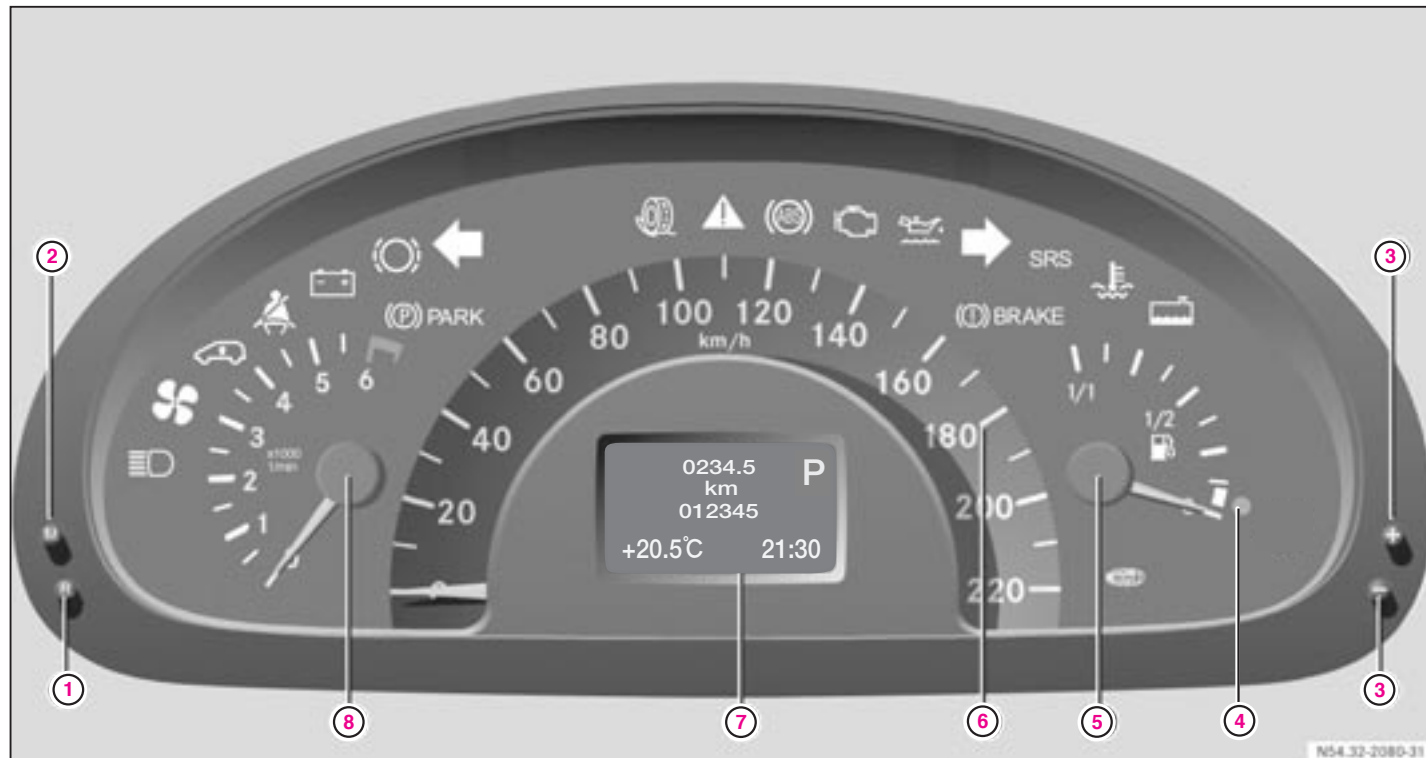
警報が作動したときの解除方法

▶ キーの🔓か🔒を押すか、エンジンスイッチにキーを差します。

知　識

ドアやテールゲートが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は解除されません。

メーター

メーター

100
120
80
140
60
160
40
180
20
200
220
km/h
1
2
3
4
5
6
PARK
BRAKE
SRS
1/1
1/2
0234.5
km
012345
P
+20.5℃
21:30
N54.32-2080-31

① リセットボタン

オドメーターや各種設定項目をリセットするときに使用します。

② ディスプレイボタン

マルチファンクションディスプレイ⑦を表示させるときに使用します。

③ メーター照度調節ボタン

周囲が暗いときに明るさを調整できます。

明るさを調節する

▶ 明るくするときは、ボタン⊕を押します。

▶ 暗くするときは、ボタン⊖を押します。

④ 燃料残量警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

点灯後に消灯しないときは燃料の残量が少なくなっています。

警告灯が点灯したときの残量は約9リットルです。

知　識

走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

⑤ 燃料計

燃料の残量を示します。

燃料タンク容量は約75リットルです。

注　意　！

給油のときはエンジンを停止してください。

メーター

⑥ スピードメーター

車の走行速度を表示します。

⑦ マルチファンクションディスプレイ

各種設定画面や故障 / 警告メッセージなどを表示します。

マルチファンクションディスプレイは以下のときに表示されます。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約30秒後に消灯）
- Ⓜ、Ⓡ、⊕、⊖のいずれかのボタンを押したとき（約30秒後に消灯）
- エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にしたとき
- 車外ランプを点灯させたとき

詳しくは**（3-106～）**をご覧ください。

⑧ タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

表示灯と警告灯

ハイビーム表示灯
（4-19）

方向指示表示灯
（4-21）

ESP表示灯
（4-34）

電装品ボックス冷却用ファン警告灯（9-12）

ENR表示灯＊
（3-75）

シートベルト警告灯
（2-8）

充電警告灯
（6-32）

ブレーキパッド摩耗警告灯
（4-29）

BAS / ESP警告灯
（4-33、4-34）

ABS警告灯
（4-31）

エンジン警告灯
（4-3）

エンジンオイル量警告灯
（7-7）

エアバッグシステム警告灯
（2-10）

冷却水量 / 冷却水温度警告灯
（7-5）

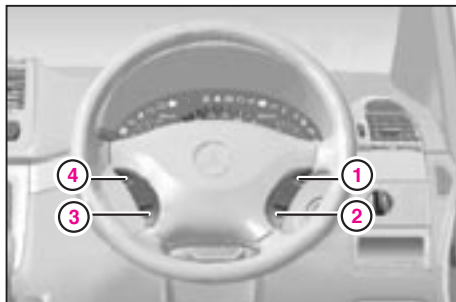
冷却水量警告灯
（9-13）

パーキングブレーキ表示灯（4-28）

ブレーキ警告灯
（4-29、7-10）

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

マルチファンクションディスプレイ

ステアリングスイッチ

	スイッチの名称
①	設定スイッチ / 音量スイッチ ＋ − サブ画面表示中に、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。 各メイン画面とオーディオ画面表示中に操作すると、音量を調節できます。
②	通話開始 / 終了スイッチ（電話） 電話を受信 / 切断することができます。
③	表示切り替えスイッチ メイン画面を選択します。
④	スクロールスイッチ 選択したメイン画面内のサブ画面を切り替えます。

注　意　！

走行中にステアリングスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながらスイッチを操作すると、事故を起こすおそれがあります。

電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

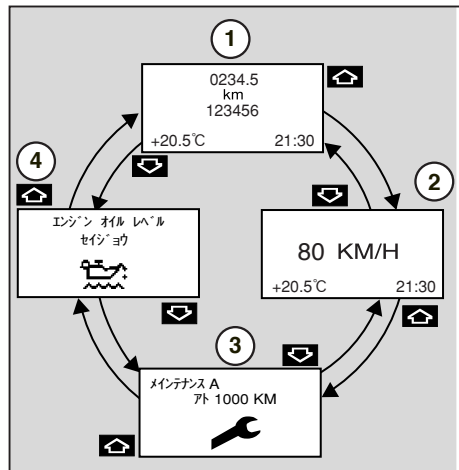
マルチファンクションディスプレイ

メイン画面一覧

※ マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージや表記などは、仕様・装備により異なることがあります。また、予告なく変更される場合があります。

マルチファンクションディスプレイでは、車の情報や故障の表示および各種の設定をすることができます。

以下のように主要な機能が7種類あります。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

車両情報

①	車両情報メイン画面	3-108
②	走行速度表示画面	3-109
③	メンテナンスインジケーター画面	3-110
④	エンジンオイル量点検画面	3-113

車両情報メイン画面

① トリップメーター
② オドメーター
③ シフト位置 / ギアレンジ表示
④ 時計
⑤ 外気温度 / 走行速度表示

トリップメーター

トリップメーター①は、リセット後の走行距離を表示します。

オドメーター

オドメーター②は、これまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーターをリセットする（0に戻す）

▶ リセットボタン（3-103）を、表示が0になるまで押し続けます。

シフト位置 / ギアレンジ表示

シフト位置 / ギアレンジ表示③は、オートマチックトランスミッションのシフト位置、またはギアレンジを表示します（4-6、4-7）。

知 識

シフト位置 / ギアレンジ表示は、エンジンスイッチが**2**の位置のときに表示されます。

時計

時計④の時刻は、マルチファンクションコントローラーに連動して自動的に調整されます。

手動で調整することはできません。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

外気温度 / 走行速度表示

外気温度 / 走行速度表示⑤は、外気温度または走行中の速度を表示します。

表示の切り替えは各種設定の "インストゥルメント パネル" の "ディスプレイ下段の表示設定画面"**(3-122)**で行ないます。

警　告

温度表示が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

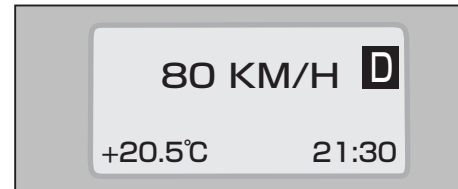
注　意　!

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

知　識

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

走行速度表示画面

80 KM/H D
+20.5℃ 21:30

走行中の速度を表示します。

表示させる

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

▶ または を押して、走行速度表示画面を表示させせます。

知　識

走行速度の表示単位をKM/H表示またはMPH表示に切り替えることができます**(3-121)**。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

手動で確認する

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに表示することができます。

▶ ▭または▭を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ ⇧または⇩を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備実施日の約10日前か約1,000km前になると、エンジンスイッチを**2**の位置にしたときや走行中に、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。

- **点検実施前の表示例**
  "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX ﾆﾁ"
  "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX ﾆﾁ"
  "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A ｱﾄ XX KM"
  "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B ｱﾄ XX KM"
- **点検実施時期になったときの表示例**
  "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A ｼﾞｯｺｳｼﾏｽ!"
  "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B ｼﾞｯｺｳｼﾏｽ!"

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

点検実施時期を過ぎたとき

実施時期を過ぎたときは、表示メッセージの距離または日数の前に–（マイナス）が付き、エンジンスイッチを**2**の位置にしたときに、その表示が約10秒間点滅します。

注 意 ！

- メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量の警告表示やエンジンオイル量表示ではありません。
- メーカー指定点検整備を期限までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

知 識

- "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ A" または "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ B" は、次回のメーカー指定点検整備の内容を示すもので、どちらが表示されるかは日頃の運転スタイルや走行距離などにより異なります。
- メンテナンスインジケーターが自動的に表示される時期は一定ではなく、運転スタイルや走行距離などにより変わります。

  エンジン回転数を適度に保ち、短距離短時間の運転を避けると、次のメーカー指定点検整備の実施時期までの走行距離が伸びることがあります。
- バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では15,000km、日数では365日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

メンテナンスインジケーターをリセットする

▶ エンジンスイッチを2の位置にします。

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ または を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

▶ リセットボタン（3-103）を押します。

マルチファンクションディスプレイに "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ ｦ ﾘｾｯﾄ ｼﾏｽｶ? ｼﾞｯｺｳﾊ Rﾎﾞﾀﾝ ｦ ｵｼﾏｽ" と表示されます。

▶ 再度、リセットボタンを押します。

マルチファンクションディスプレイに "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ ﾘｾｯﾄ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

数秒後、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾒｲﾝﾃﾅﾝｽ ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ ｦ ﾘｾｯﾄ ｼﾏｼﾀ" と表示され、リセットされます。

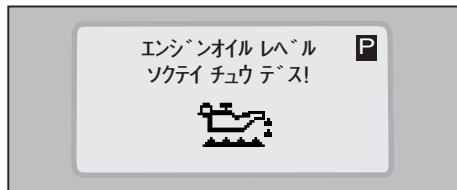
注 意 ！

メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

知 識

- リセット画面が表示されてから約10秒間リセットボタンを押さずにいると、元の画面に戻ります。
- メンテナンスインジケーターを誤ってリセットしたときは、指定サービス工場に連絡してください。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

エンジンオイル量点検画面

エンジンオイルの量を点検し、表示します。

注　意　！

運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイル量の点検

▶ 安全で水平な場所に停車します。

▶ エンジンを始動して、エンジンオイルを温めます。

▶ エンジンを停止して、約5分ほど待ちます。

▶ エンジンスイッチを**2**の位置にします。

知　識

マルチファンクションディスプレイに "ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲﾊ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ!"と表示されたときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしてください。

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させせます。

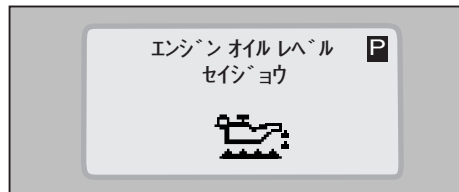
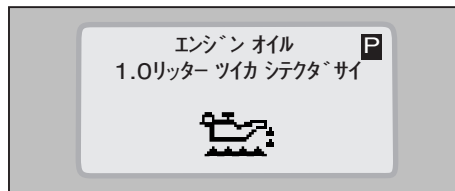
▶ または を押して、エンジンオイル量点検画面を表示させせます。

マルチファンクションディスプレイに "ﾀﾀﾞｼｲ ｿｸﾃｲ ﾊ ｼｬﾘｮｳ ｶﾞ ｽｲﾍｲ ﾉ ﾄｷﾉﾐ ｶﾉｳ ﾃﾞｽ!" と表示され、次に、"ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｿｸﾃｲ ﾁｭｳ ﾃﾞｽ!"と表示されます。

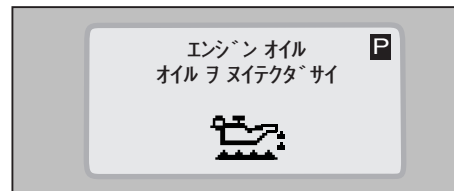
知　識

エンジンを停止してからの待ち時間が足りないときは、マルチファンクションディスプレイに "ｹﾞﾝｻﾞｲ ｿｸﾃｲ ﾊ ﾌｶﾉｳ ﾃﾞｽ!" と表示されます。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

点検結果に応じて、以下のいずれかのメッセージが表示されます。

このときは、エンジンオイル量は適正です。

このときは、エンジンオイルを約1.0リットル補給してください。

知　識

- 補給するエンジンオイル量に応じて、表示される数値が変わります。
- エンジンオイルの補給については（7-8）をご覧ください。

このときは、エンジンオイルが多すぎます。

運転を中止して、エンジンオイルの量を適正にしてください。

注　意　！

エンジンオイルが多すぎると、エンジンや三元触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

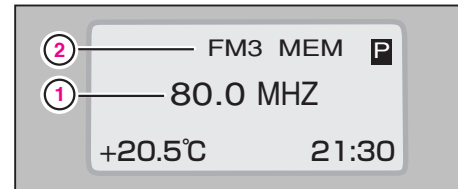
※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

このときは、エンジンオイルレベルが安定していません。約30分ほど待ち、オイルレベルが安定してから点検をやり直してください。

注 意 !

エンジンがかかっているときに、マルチファンクションディスプレイにエンジンオイルに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（9-19、20）をご覧ください。

知 識

エンジンがかかっているときは、エンジンオイル量を点検できません。マルチファンクションディスプレイに "ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙｿｸﾃｲ ﾊ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳ!" と表示されます。

オーディオ

① 選択周波数
② プリセット番号

オーディオ（ラジオ、CDなど）の使用時にそれぞれの情報を表示します。

オーディオのメイン画面表示中に、⇧または⇩を押すと、ラジオの選局、CDの選曲などができます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ナビゲーション

マルチファンクションコントローラーのナビゲーション機能で目的地を設定したときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示することができます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

故障表示

① 故障件数画面

車両に故障や異常が起きたとき、車の状態がメッセージで表示されます。

故障メッセージがないとき

故障がないときは、"ｺｼｮｳｶﾞ 0" と表示されます。

自動表示機能

走行中に故障が起きたときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

画面を切り替えるときは ⇧ または ⇩ を押します。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

故障メッセージを確認する

エンジンスイッチが1か2の位置のときに表示することができます。

▶ または を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

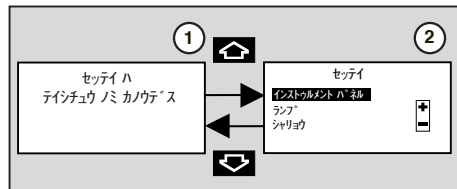
▶ または を押して、故障メッセージ画面を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

リセット

エンジンスイッチを0の位置にすると、重要度の高いメッセージを除き、故障メッセージの表示が消えます。ただし、故障状況が変わらない場合は、次にエンジンを始動したときに再びメッセージが表示されます。

注 意 !

- 表示される故障や不具合は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や不具合の表示は運転者を支援するものです。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
- 表示される故障 / 警告メッセージについては（9-14～）をご覧ください。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

各種設定

① 各種設定メイン画面
② 設定グループ選択画面

注　意　！

走行中でも設定を変更することができますが、安全のため、必ず停車中に操作してください。

知　識

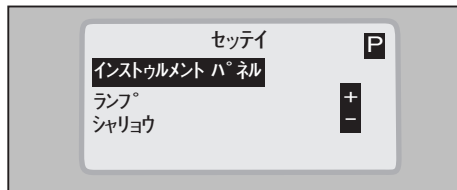
各種設定画面が表示されてから約10秒間何も操作しないと、車両情報メイン画面（3-108）に切り替わります。

各種設定メイン画面

メイン画面を表示させる

▶ またはを押して、各種設定メイン画面を表示させます。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ または を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、 を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

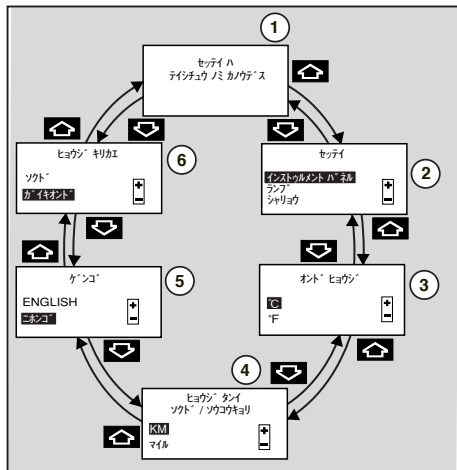
設定項目画面を選択する

選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ または を押すと、次の設定項目画面が表示されます。

▶ または を押すと、次のメイン画面が表示されます。

3

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

インストゥルメントパネル

①	各種設定メイン画面	3-118
②	設定グループ選択画面	3-119
③	温度単位設定画面	3-121
④	スピードメーター単位設定画面	3-121
⑤	ディスプレイ言語設定画面	3-122
⑥	ディスプレイ下段の表示設定画面	3-122

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面を表示させます（3-118）。

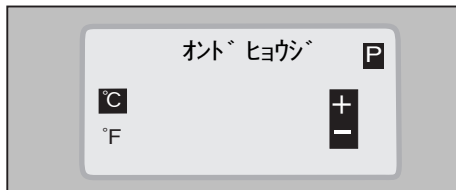
▶ 各種設定メイン画面①表示中に ⇧ を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋ または － を押して、インストゥルメント パネルを選択します。

▶ ⇧ を押します。

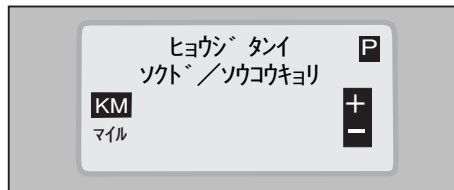
インストゥルメントパネルの最初の設定項目画面が表示されます。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

温度単位設定画面

外気温度の表示単位の設定をすることができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
℃	摂氏表示になります。
°F	華氏表示になります。

スピードメーター単位設定画面

マルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定をすることができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
KM	KM/H表示になります。
ﾏｲﾙ	MPH表示になります。

注　意　！

マルチファンクションディスプレイの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ずKM/H表示を選択してください。

知　識

1マイル（MPH）は約1.6km/hです。マイルを選択するとトリップメーターやトリップコンピューターなどもマイル表示になります。

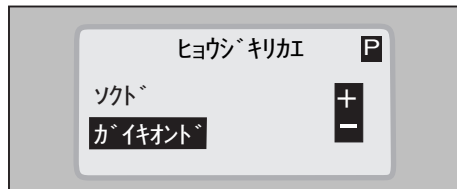
※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定をすることができます。

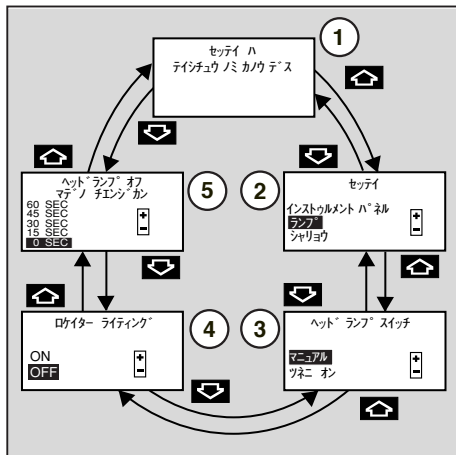
▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ENGLISH	英語表示になります。
ﾆﾎﾝｺﾞ	日本語表示になります。

ディスプレイ下段の表示設定画面

ディスプレイ下段の表示の設定をすることができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ｿｸﾄﾞ	ディスプレイ左下の表示が走行速度になります。
ｶﾞｲｷｵﾝﾄﾞ	ディスプレイ左下の表示が外気温度になります。

ランプ

①	各種設定メイン画面	3-118
②	設定グループ選択画面	3-119
③	ヘッドランプ点灯モード設定画面	3-124
④	ロケイターライティング機能設定画面	3-125
⑤	車外ランプ消灯遅延機能設定画面	3-125

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面を表示させます（3-118）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に ⇧ を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

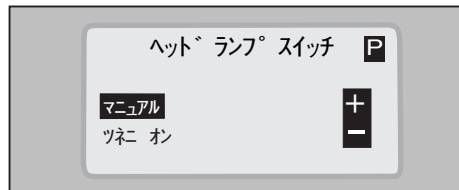
設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、ランプを選択します。

▶ ⇧ を押します。

ランプの最初の設定項目画面が表示されます。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定をすることができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ﾏﾆｭｱﾙ	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。
ﾂﾈﾆ ｵﾝ	常時点灯モードです。 エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。

知　識

- 常時点灯モード（ﾂﾈﾆ ｵﾝ）は、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モード（ﾏﾆｭｱﾙ）に設定して使用してください。
- 常時点灯モード（ﾂﾈﾆ ｵﾝ）で自動的に点灯するランプは、ヘッドランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプです。その他のランプを点灯するときは、各スイッチを操作してください。
- 常時点灯モード（ﾂﾈﾆ ｵﾝ）でランプが点灯しているときに、設定を手動点灯モード（ﾏﾆｭｱﾙ）に変更したときは、ヘッドランプなどは消灯しません。エンジンを再始動したときに手動点灯モードになります。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

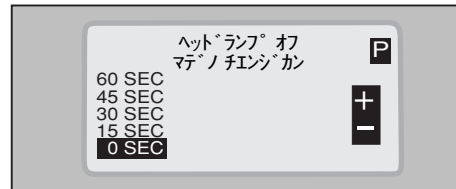
ロケイターライティング機能設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、ランプが点灯する機能の設定をすることができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ON	周囲が暗いときに、リモコン操作で解錠すると、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
OFF	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（3-9）をご覧ください。

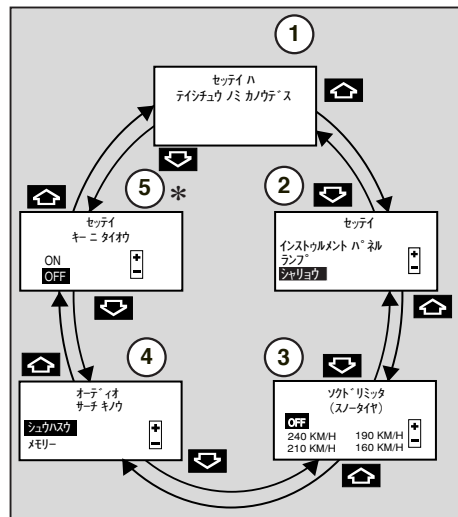
車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、ヘッドランプなどが一定時間点灯する機能の設定をすることができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
60 SEC 45 SEC 30 SEC 15 SEC	ドアまたはテールゲートを閉じてからそれぞれの時間経過後に、車幅灯、フロントフォグランプ、テールランプ、ライセンスランプが消灯します。
0 SEC	車外ランプ消灯遅延機能（4-20）は作動しません。

詳しくは（4-20）をご覧ください。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

シャリョウ

①	各種設定メイン画面	3-118
②	設定グループ選択画面	3-119
③	スノータイヤスピードリミッター設定画面	3-127
④	ラジオの選局方法設定画面	3-127
⑤	設定項目のキー対応設定画面＊	3-128

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面を表示させます（3-118）。

▶ 各種設定メイン画面①表示中に⇧を押して、設定グループ選択画面②を表示させます。

設定グループを選択する

▶ ＋または－を押して、シャリョウを選択します。

▶ ⇧を押します。

シャリョウの最初の設定項目画面が表示されます。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

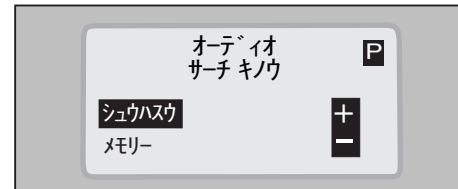
スノータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが法定速度を守って走行してください。

▶ ＋または－を押して、設定内容を選択します。

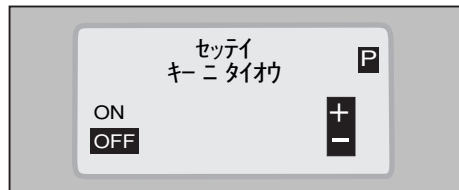
表示	設定内容
160KM/H 190KM/H 210KM/H 240KM/H	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。
OFF	スノータイヤスピードリミッターは作動しません。

ラジオの選局方法設定画面

ラジオの選局方法（受信周波数 / プリセット番号順）の設定をすることができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示を移動します。

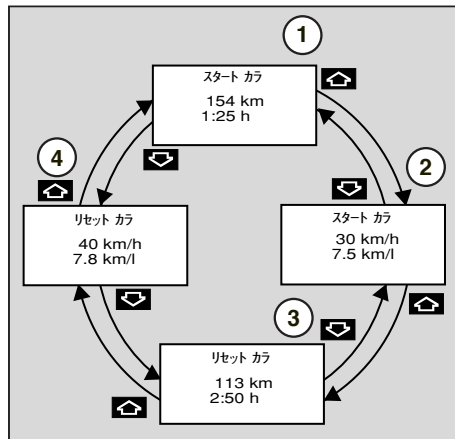
表示	設定内容
ｼｭｳﾊｽｳ	放送局の受信周波数によって順次選局します。
ﾒﾓﾘｰ	プリセットされた放送局を番号順に選局します。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

設定項目のキー対応設定画面＊

記憶したシートの位置を、それぞれのキーごとに対応（記憶）させることができます。

▶ ＋または－を押して、反転表示部分を移動します。

表示	設定内容
ON	差し込んでいるキーに設定を対応（記憶）させます。
OFF	キーにかかわらず設定は変わりません。

トリップコンピューター

①	ショートトリップメーターの走行距離 / 経過時間画面	3-129
②	ショートトリップメーターの平均速度 / 平均燃費画面	3-129
③	ロングトリップメーターの走行距離 / 経過時間画面	3-130
④	ロングトリップメーターの平均速度 / 平均燃費画面	3-130

知 識

トリップコンピューターは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてから、またはキーを抜いてから約4時間経過すると、自動的にリセットされます。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ショートトリップメーター

ショートトリップメーターは、エンジンを始動したときを起点として情報を表示します（"ｽﾀｰﾄ ｶﾗ"）。

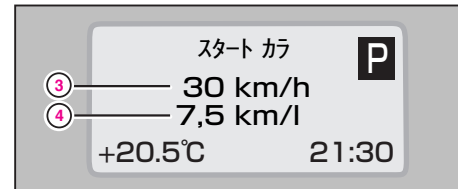
ショートトリップメーターには、走行距離 / 経過時間画面と、平均速度 / 平均燃費画面があります。

走行距離 / 経過時間画面を表示させる

① スタートからの走行距離（km）
② スタートからの経過時間（h）

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ショートトリップメーターの走行距離 / 経過時間画面を表示させます。

ショートトリップメーターの走行距離と経過時間をリセットする

▶ ショートトリップメーターの走行距離 / 経過時間画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（3-103）を押し続けて、表示をリセットします。

平均速度 / 平均燃費画面を表示させる

③ スタートからの平均速度（km/h）
④ スタートからの平均燃費（km/l）

▶ [ボタン]または[ボタン]を押して、ショートトリップメーターの走行距離 / 経過時間画面を表示させます。

▶ [▲]または[▼]を押して、ショートトリップメーターの平均速度 / 平均燃費画面を表示させます。

ショートトリップメーターの平均速度と平均燃費をリセットする

▶ ショートトリップメーターの平均速度 / 平均燃費画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（3-103）を押し続けて、表示をリセットします。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ロングトリップメーター

ロングトリップメーターは、トリップメーターをリセットしたときを起点として情報を表示します（"ﾘｾｯﾄ ｶﾗ"）。

ロングトリップメーターには、走行距離 / 経過時間画面と、平均速度 / 平均燃費画面があります。

走行距離 / 経過時間画面を表示させる

⑤ リセットからの走行距離（km）
⑥ リセットからの経過時間（h）

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーターの走行距離 / 経過時間画面を表示させます。

▶ [▲] または [▼] を押して、ロングトリップメーターの走行距離 / 経過時間画面を表示させます。

ロングトリップメーターの走行距離と経過時間をリセットする

▶ ロングトリップメーターの走行距離 / 経過時間画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（**3-103**）を押し続けて、表示をリセットします。

平均速度 / 平均燃費画面を表示させる

⑦ リセットからの平均速度（km/h）
⑧ リセットからの平均燃費（km/l）

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ショートトリップメーターの走行距離 / 経過時間画面を表示させます。

▶ [▲] または [▼] を押して、ロングトリップメーターの平均速度 / 平均燃費画面を表示させます。

ロングトリップメーターの平均速度と平均燃費をリセットする

▶ ロングトリップメーターの平均速度 / 平均燃費画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（**3-103**）を押し続けて、表示をリセットします。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

電話

通話する（電話を受信する）

▶ 電話がかかってきたときにステアリングの通話開始スイッチ を押します。

電話を受信することができます。

通話を終える（電話を切断する）

▶ ステアリングの通話終了スイッチ を押します。

電話を切断することができます。

メモリー番号による電話の発信

メモリーしてある電話番号に電話をかけることができます。

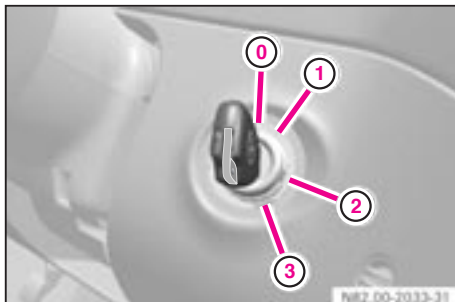
▶ 電話画面表示中に、 または を押して、電話をかける相手先のメモリー番号を選択します。

▶ ステアリングの通話開始スイッチ を押します。

電話をかけることができます。

詳細については、別冊「マルチファンクションコントローラー」の取扱説明書をお読みください。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

エンジンスイッチ

エンジンスイッチ

警　告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

	作動内容
⓪	キーを差し込む / 抜く位置
①	エンジンを停止したまま電気装備の一部を使用するときの位置
②	走行するときの位置 すべての電気装備が使用できます。
③	エンジンを始動する位置 エンジンスイッチを③の位置までまわして手を放せば、自動的にスターターがまわり、エンジンが始動します。

ステアリングロック

エンジンスイッチからキーを抜いたときにステアリングをロックすることができます。

ステアリングをロックする

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

ステアリングロックを解除する

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

注　意　!

- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 車のバッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。
- エンジンスイッチにエマージェンシーキーを差すことはできません。

知　識

- セレクターレバーが P に入っていないときは、エンジンスイッチからキーを抜くことができません。
- エンジンスイッチからキーを抜かずに0の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差してからまわしてください。
- キーの発信部が覆われていたり汚れていると、エンジンを始動できなくなります。
- エンジン始動後に信号音がすることがありますが、異常ではありません。

エンジン警告灯

エンジンスイッチを2の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

消灯しなかったり、走行中に点灯したときはエンジンの制御システムに異常があります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンの始動と停止

エンジンを始動するとき

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチにキーを差し込み、**3** の位置までまわして手を放します。

自動的にスターターがまわり、エンジンが作動します。

注 意 !

- エンジンは、セレクターレバーが N に入っているときも始動できますが、安全のため、必ずセレクターレバーを P に入れ、ブレーキペダルを踏んで始動してください。
- 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知 識

- ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置のスイッチをオフにしておくと始動性が良くなります。
- セレクターレバーが P または N に入っているときは、エンジン回転は約4,000回転以上になりません。

エンジンを始動できないとき

▶ エンジンスイッチを0か1の位置に戻してから再始動してください。

▶ セレクターレバーが P に入っていることを確認してください。

エンジンを始動できないときは、指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを停止するとき

▶ 完全に停車させます。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキペダルを確実に踏み込み、セレクターレバーを P に入れます。

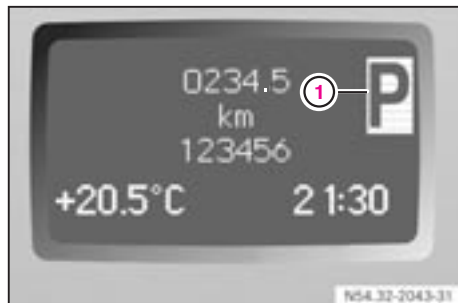
▶ エンジンスイッチを0の位置にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

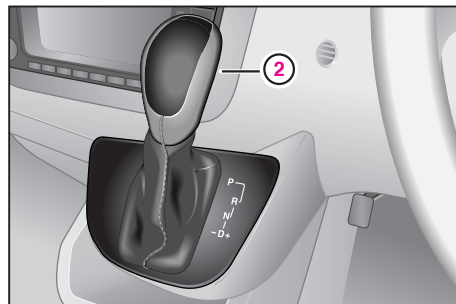
注　意　！

- 仮眠するときは必ずエンジンを停止してください。無意識にセレクターレバーを動かして車が不意に発進したり、アクセルペダルを踏み込んでエンジンやマフラーが異常過熱するなど、事故や火災につながるおそれがあります。
- 冷却水の水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

オートマチックトランスミッション

シフト位置表示

① ディスプレイのシフト位置表示

メーターパネルのディスプレイにシフト位置①が表示されます。また、セレクターレバーの横にもシフト位置表示があります。

セレクターレバー

② セレクターレバー

▶ セレクターレバー②を動かして、シフト位置を選択します。

注　意　！

セレクターレバーを操作するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

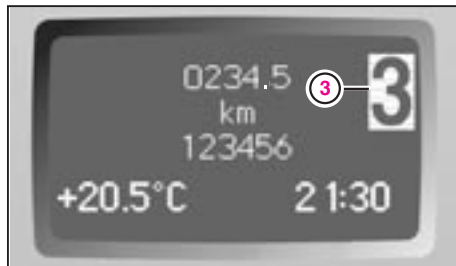
知　識

エンジンスイッチが**2**の位置で、かつブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを**P**から動かすことはできません。

シフト位置	
P **パーキング**	駐車およびエンジン始動 / 停止の位置
R **リバース**	後退するときの位置
N **ニュートラル**	動力が伝わらない位置 押したり、けん引してもらうことで車を移動できます。
D **ドライブ**	走行するときの位置 1速～5速の範囲で自動的に変速します。

ティップシフト

① 低いギアレンジを選択
② 高いギアレンジを選択

ギアレンジを選択することにより、変速の少ないなめらかな走行をしたり、エンジンブレーキの効きを強くして走行することができます。

③ ギアレンジ表示

ギアレンジを選択する

▶ セレクターレバーが D のときに①側へセレクターレバーを動かします。

ギアレンジ 4 が選択され、マルチファンクションディスプレイにギアレンジ③が表示されます。

または

▶ セレクターレバーが D のときに①側へセレクターレバーを動かして保持します。

そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択され、マルチファンクションディスプレイにギアレンジ③が表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ ①側へセレクターレバーを動かします。

低いギアレンジが選択され、マルチファンクションディスプレイにギアレンジ③が表示されます。

高いギアレンジを選択する

▶ ②側へセレクターレバーを動かします。

高いギアレンジが選択され、マルチファンクションディスプレイにギアレンジ③が表示されます。

ティップシフトを解除する

▶ ②側へセレクターレバーを動かして保持します。

ティップシフトが解除され、マルチファンクションディスプレイに D が表示されます。

レンジ	作動内容
D	1速～5速の範囲で自動的に変速します。
4	1速～4速の範囲で自動的に変速します。
3	1速～3速の範囲で自動的に変速します。緩やかな坂道などを走行するときに使用します。
2	1速～2速の範囲で自動的に変速します。急な坂道やエンジンブレーキが必要なときに使用します。
1	1速に固定されます。エンジンブレーキが最大に作用します。

警　告

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させせると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

知　識

- ディスプレイに表示される数字は選択したレンジを示しており、実際のギアを示すものではありません。
- ディスプレイの表示が D のときにセレクターレバーを②側に動かすと、車速やエンジン回転数に応じて、シフトアップされます。
- シフトダウン操作を行なうとエンジンの許容回転数（レッドゾーン）を超えるようなときは、セレクターレバーを動かしてもシフトダウンされません。
- 加速時にエンジンの許容回転数（レッドゾーン）を超えるようなときは、自動的にシフトアップされます。
- ティップシフトの操作と実際に変速が行なわれるタイミングには差があります。

オートマチック車の運転

運転する前にオートマチック車の特性を理解し、正しい操作をしてください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、セレクターレバーがP、N以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

発進する

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを走行位置Dに入れます。

警　告

アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

- ▶ パーキングブレーキを解除します。
- ▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

注　意　！

急な坂道で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで、車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

オートマチック車の運転

通常走行

通常はセレクターレバーを D に入れて走行します。アクセルペダルの踏み加減や車速に応じて、自動的に変速が行なわれます。

警　告

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知　識

エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、触媒がより早く適正温度に達します。

素早く加速したいとき

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンし、素早く加速します。

注　意　！

キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

上り坂を走行するとき

▶ 坂の勾配などに応じて、ティップシフトで低いギアのレンジを選択します。

変速の少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂を走行するとき

下り坂を D で走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、速度が出すぎることがあります。

▶ 坂の勾配などに応じてティップシフトで低いギアのレンジを選択します。

エンジンブレーキの効きが強くなります。

エンジンブレーキ：走行中にアクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低速ギアのときほど効きが強くなります。

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。ブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

滑りやすい路面での走行

急加速や急減速を避けた運転を心がけてください。滑りやすい路面では、車輪に必要以上の駆動力がかかると、車の走行安定性に悪影響をおよぼすことがあります。

警　告

滑りやすい路面では、低いギアレンジを選択することによる急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

注　意　！

エンジンの許容回転数（レッドゾーン）を超えるおそれがある場合は、低いギアレンジを選択することはできません。このときは、ブレーキペダルで減速してから再度操作し、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

オートマチック車の運転

停車するとき

▶ セレクターレバーを D に入れたままブレーキペダルを踏みます。

やむを得ず停車が長くなるときは、パーキングブレーキを確実に効かせて、セレクターレバーを P に入れます。

警　告

停車中は空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが D か R に入ると、車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注　意　！

- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車をアクセルペダルを踏むことにより停車状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏み、クリープ現象で車が動かないようにしてください。
- 完全に停車しないうちに、セレクターレバーを P に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車するとき

▶ 完全に停車して、ブレーキペダルを踏み込んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンスイッチを0の位置にして、キーを抜きます。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

警　告

車から離れるときはセレクターレバーを P に入れ、必ずパーキングブレーキを効かせてください。セレクターレバーを P に入れただけでは十分なブレーキ効果が得られず、坂道などで車が動き出すおそれがあります。

注　意 !

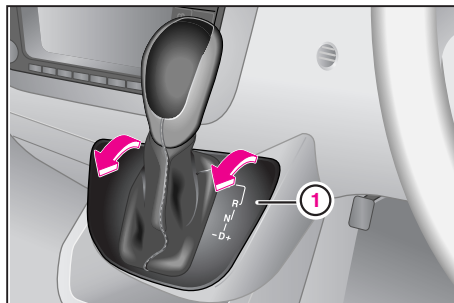
- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをしてください。
- 短時間でも車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ドアウインドウやスライディングルーフ＊を閉じて、施錠してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

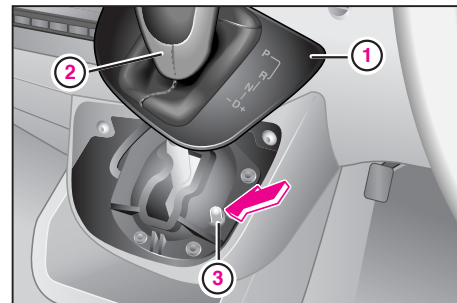
パーキングロックの解除

セレクターレバーを P から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。

この作業は、できるだけ指定サービス工場に依頼してください。

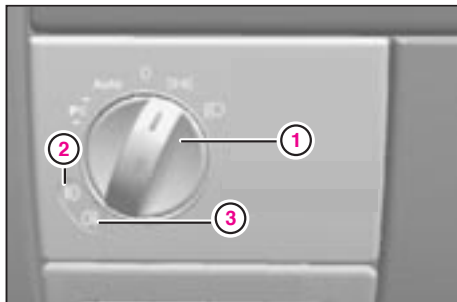
> **注 意 !**
>
> セレクターレバーを動かすことができたときでも、指定サービス工場で点検を受けてください。

① カバー

パーキングロックを解除する

▶ カバー①の上部を手前に引いて、カバーを取り外します。

① カバー
② セレクターレバー
③ ロック解除ボタン

▶ ロック解除ボタン③を押しながら、セレクターレバー②を動かします。

ランプ

ランプスイッチ

① ランプスイッチ
② フロントフォグランプ表示灯
③ リアフォグランプ表示灯

ランプスイッチ①をまわして各位置に合わせます。

位置	作動内容
0	すべてのランプが消灯
Auto	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
(車幅灯マーク)	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯
(ヘッドランプマーク)	車幅灯などに加え、ヘッドランプが点灯

ヘッドランプ

ランプは、手動または自動的に点灯 / 消灯させることができます。

ヘッドランプを手動で点灯する

▶ ランプスイッチを (ヘッドランプマーク) の位置に合わせます。

ヘッドランプを自動的に点灯 / 消灯させる

▶ ランプスイッチを Auto の位置に合わせます。

周囲が暗いとき、エンジンスイッチを **1** の位置にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、メーターパネルの照明などが自動的に点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプも自動的に点灯します。

注　意　！

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- ランプスイッチを Auto の位置に合わせても、状況により、自動的に点灯しないことがあります。このときは、ランプスイッチを か に合わせてランプを点灯してください。
- 対向車のライトなどによりセンサーが正常に働かなくなり、周囲が暗いときでも、ランプが消灯することがあります。
- エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

- ランプが自動的に点灯しているときは、エンジンスイッチを0の位置に戻して運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに"ｵｰﾄﾏﾁｯｸ ﾗﾝﾌﾟ ｵﾝ ｷｰ ｦ ﾇｲﾃ ｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

  このときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。キーを抜かないと、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプなどが点灯したままになり、バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサー（4-23）と同じ位置にあります。

  ステッカーなどを貼ると、自動点灯 / 消灯機能が働かなくなります。
- トンネルなどの暗い場所や夜間の走行、悪天候のときなどに、ランプは自動的に点灯することがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチの位置が[フォグ]または[ヘッドランプ]のとき、ランプスイッチ①を1段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯②が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する

▶ ランプスイッチの位置が[フォグ]または[ヘッドランプ]のとき、ランプスイッチ①を2段引きます。

フロントとリアのフォグランプが点灯し、フロントフォグランプ表示灯②と、リアフォグランプ表示灯③が点灯します。

警　告

霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを[ヘッドランプ]に合わせてヘッドランプを点灯してください。

注　意　!

フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないときに使用してください。対向車や後続車の迷惑になります。

知　識

- ランプスイッチがAutoの位置のときは、フォグランプを点灯することができません。
- ヘッドランプが下向きで点灯していてフロントフォグランプが点灯しているときに、ヘッドランプを上向きにすると、フロントフォグランプが自動的に消灯します。ヘッドランプを下向きにすると、再度フロントフォグランプが点灯します。

パーキングランプ

パーキングランプは、暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯、テールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

▶ エンジンスイッチが0の位置のとき、またはキーを差し込んでいないとき、ランプスイッチをP≤→または←P≤の位置に合わせます。

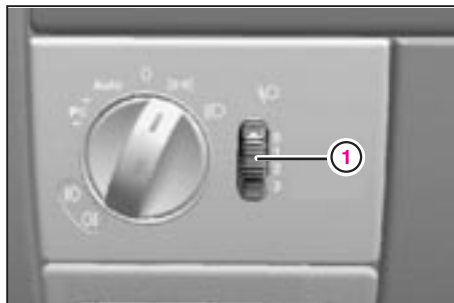
位置	作動内容
P≤→	右側のパーキングランプが点灯
←P≤	左側のパーキングランプが点灯

4

ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル＊

乗員数が増えたり荷物を積載してヘッドランプの照射角度が変わったときには照射角度を調整します。

調整ダイヤルはランプスイッチの横にあります。

エンジンがかかっているときに調整できます。

① ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル

照射角度を調整する

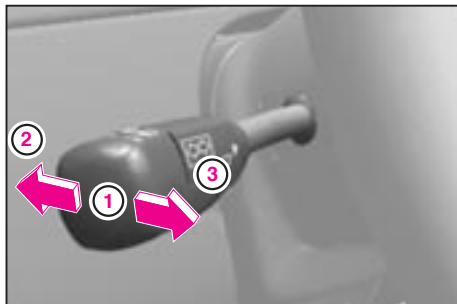
▶ ヘッドランプ照射角度調整ダイヤル①をまわします。

0	1名乗車時（運転席）または2名乗車時（運転席と助手席）。
1〜3	乗員数および荷物の積載量に応じて調整します。

注 意 ！

対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ヘッドランプ 下向き / 上向きの切り替え

① 下向き
② 上向き
③ パッシング

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを①の位置にします。

ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを②の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯が点灯します。

パッシングする

▶ コンビネーションスイッチを③の方向に引きます。

引いている間、ヘッドランプが上向きになり、メーターパネルのハイビーム表示灯が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと①の位置に戻ります。

ハイビーム表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、数秒後に消灯します。ヘッドランプを上向きにしているときに点灯します。

注　意　!

対向車があるときや市街地で走行するときはヘッドランプを上向きにしないでください。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、フロントフォグランプ、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、一定の時間が経過すると消灯します。

消灯するまでの時間は、最長60秒までの範囲で15秒間隔で選択することができます。0秒を選択するとランプは点灯しません。

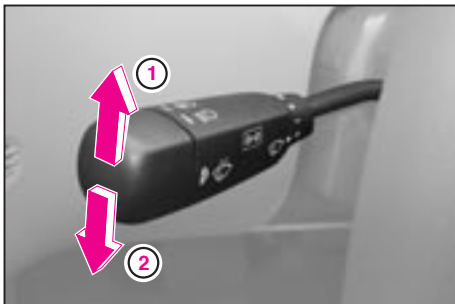
この機能の設定と解除については（3-125）をご覧ください。

知 識

- ランプが消灯するまでの時間は、ドアやテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。
- エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、ドアやテールゲートを開いてそのままにしてから約60秒後に、ランプは消灯します。
- この機能は、エンジンを停止してから約10分以上経過すると働かなくなります。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、エンジンスイッチを**2**の位置にします。

方向指示

① 右側の方向指示灯が点滅
② 左側の方向指示灯が点滅

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを①の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯⇦⇨も点滅します。

⇦⇨ 方向指示表示灯

方向指示灯の点滅と連動して点滅します。方向指示灯（ドアミラーを除く）のいずれかの電球が切れると、表示灯の点滅と音の間隔が短くなります。すみやかに電球を交換してください（**6-39**）。

知　識

- 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が優先されます。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。
- コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が3回点滅します。

非常点滅灯

① 非常点滅灯スイッチ

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。

非常点滅灯スイッチ①とメーターパネルの方向指示表示灯⬅➡も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

注　意　！

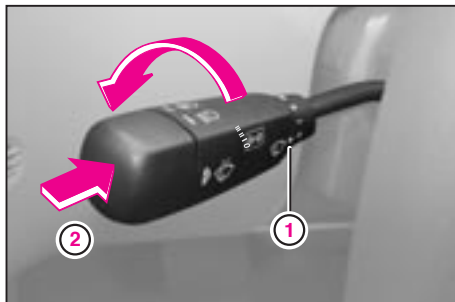
- 非常時以外は使用しないでください。
- エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

- 非常点滅灯を使用しているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。

  方向指示灯を消灯させると、再び非常点滅灯に切り替わります。
- エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ワイパー / ウォッシャー

フロントワイパー

① ワイパー作動モードのマーク
② ティップ機能 / ウォッシャーの噴射

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときにワイパーを作動させたり、ウォッシャーを噴射させることができます。

フロントワイパーを作動させる

▶ コンビネーションスイッチを矢印の方向にまわして、ワイパー作動モードのマーク①を **I**〜**III**の位置に合わせます。

位置	作動内容
0	停止
I	AUTOモード
II	低速モード
III	高速モード

知　識

- AUTOモードでは、フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。
- ワイパー作動モードのマークが**II**、**III**の位置のときも、停車時および徐行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。
- ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ワイパーを1回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを②の方向に軽く押します。

ワイパーが1回だけ作動します（ウォッシャー液は噴射しません）。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

注 意 ！

ティップ機能は、フロントウインドウが雨で濡れているとき以外は使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。

フロントウインドウウォッシャーを噴射する

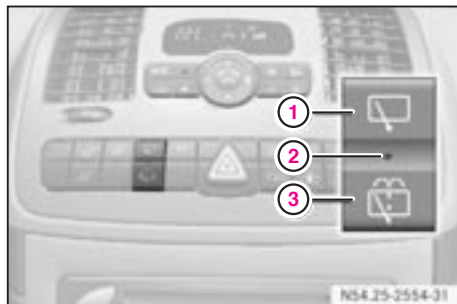
▶ コンビネーションスイッチを②の方向に押し続けます。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

知 識

冬季は、冬用の純正ウォッシャー液を使用し、ウォッシャー液の濃度に注意してください。

注 意 !

- フロントウインドウを拭くときなどは、必ずワイパー作動モードのマークを0（停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
- 停車時にワイパーやウォッシャーを作動させるときは、周囲の歩行者に水しぶきがかからないように注意してください。
- フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。フロントウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。
- エンジンを停止するときは、必ずワイパー作動モードのマークを0の位置に戻してください。ワイパー作動モードのマークがII、IIIの位置のときにエンジンスイッチを1の位置にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、障害となる物を取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、キーを抜いてください。

リアワイパー

リアワイパースイッチ
① リアワイパー作動
② 表示灯
③ テールゲートウインドウウォッシャー液噴射

エンジンスイッチが1か2の位置のときにワイパーを作動させたり、ウォッシャー液を噴射させることができます。

リアワイパーを作動させる

▶ スイッチの上側①を押します。リアワイパーが間欠モードで作動します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

リアワイパーを停止させる

▶ 再度、スイッチの上側①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

知　識

- フロントワイパーのワイパー作動モードのマークが**0**、**I**の位置のとき、リアワイパーは約5秒間隔で間欠作動します。**II**、**III**の位置のときは、フロントワイパーの作動内容により、間欠の間隔を調整します。
- リアワイパーを作動させているときにテールゲートを開くと、リアワイパーは停止します。

  テールゲートを閉じると、リアワイパーは再び作動します。

テールゲートのウインドウウォッシャーを噴射する

▶ スイッチの下側③を押し続けます。その間ウォッシャー液が噴射し、リアワイパーも数回作動します。

後退時のリアワイパーの自動作動

フロントワイパーが作動しているときにセレクターレバーを R に入れると、テールゲートのウインドウウォッシャーが噴射され、リアワイパーは3回作動した後、間欠で作動します。

知　識

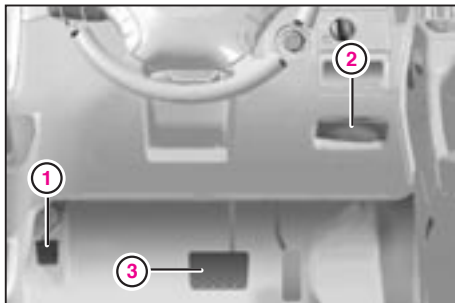
フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量に応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。

セレクターレバーを R 以外の位置に入れると、リアワイパーは停止します。

リアワイパースイッチの上側①が押されているときは、フロントワイパーの作動やセレクターレバーの位置に関係なく、リアワイパーは間欠で作動します。

注　意　!

- テールゲートのウインドウを拭くときなどは、必ずリアワイパーを停止してください。リアワイパーで、けがをするおそれがあります。
- フロントワイパーを作動させているときは、テールゲート付近に人がいないことを確認してからセレクターレバーを R に入れてください。水しぶきがかかったり、リアワイパーで、けがをするおそれがあります。
- 停車時にワイパーやウォッシャーを作動させるときは、周囲の歩行者に水しぶきがかからないように注意してください。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。
- テールゲートのウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。ウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャー液を噴射してから使用してください。
- 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
- 雪などが付着しているときは、障害となる物を取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、キーを抜いてください。

パーキングブレーキ

① パーキングブレーキペダル
② 解除ハンドル
③ ブレーキペダル

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダル③を踏みながら、左足でパーキングブレーキペダル①をいっぱいまで踏み込みます。

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダル③をいっぱいまで踏みながら、解除ハンドル②を手前に引きます。

注 意 !

- パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。
- 急な坂道に駐車するときは、タイヤに輪止めをしてください。さらに前輪を歩道方向に向けてください。

知 識

パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｦ ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!" と表示されます。

(P) PARK パーキングブレーキ表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

パーキングブレーキが効いているときは、点灯したままになります。

警 告

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

ブレーキ

警　告

- 長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。
- ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

(!)BRAKE ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

走行中に点灯する場合は、ブレーキ液の量が不足しています。

すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

ブレーキパッド摩耗警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

消灯しなかったり、ブレーキペダルを踏んだときに点灯したときは、ブレーキパッドが摩耗しています。指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

注 意 !

- ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- 故障などでエンジンを停止してけん引してもらうときは、十分注意してください。通常に比べてブレーキペダルを踏むのに、非常に大きな力が必要になります。

知 識

- 長い急な下り坂では、ティップシフトで低いギアレンジを選択して、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。
- 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、しばらく走行を続けてください。走行風によりブレーキディスクを早く冷やすことができます。
- 高速道路を走行しているときなどブレーキをかけずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは後続車に注意しながら、時々ブレーキを効かせてください。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両の操縦を確保する装置です。

警　告

- ABSはブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ABSが適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなることがあります。

ABS警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

消灯しなかったり、走行中に点灯したときは、ABSが故障しています。

指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

注　意　！

- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABSを装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。
  - ◇ 雪の積もった路面や凍結した路面
  - ◇ 砂利道などの荒れた路面
  - ◇ 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
  - ◇ スノーチェーン装着時
- 軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっています。十分注意して走行してください。
- ABSが故障すると、BAS（**4-33**）とESP（**4-34**）も作動を停止し、ABS警告灯とBAS / ESP警告灯が点灯します。指定サービス工場で点検を受けてください。
- マルチファンクションディスプレイにABSに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（**9-14、15**）をご覧ください。
- ABSに異常があるときは、急ブレーキ時にタイヤがロックしてステアリング操作が効かなくなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

知　識

- ABSは速度が約6km/hを超えると作動できるようになります。
- ABSに異常があり、ABS警告灯が点灯したときでも、通常のブレーキは作動します。

ABSの作動

ABSには以下のような特性があります。

- ABSが作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。
- エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

知　識

バッテリーの電圧が低下すると、警告灯が点灯し、ABSが一時的に作動を停止します。電圧が回復すると警告灯が消灯し、機能も元に戻ります。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BASの操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが感知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BASはブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

BAS / ESP警告灯

BAS警告灯は、ESP警告灯と共用です。エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

消灯しなかったり、走行中に点灯したときはBASかESPが故障しています。

指定サービス工場で点検を受けてください。

警　告

- BASは緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BASが作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意　!

- マルチファンクションディスプレイにBASに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（9-14）**をご覧ください。
- BASに異常があるときも通常のブレーキは作動しますが、急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。

知　識

- BASに異常があり、BAS / ESP警告灯が点灯したときでも、通常のブレーキは作動します。
- BASが作動するとブレーキペダルが少し奥へ引かれ、ペダルに脈動が伝わってくることがあります。これはBASが正常に作動しているときの現象で、異常ではありません。
- バッテリーの電圧が低下すると警告灯が点灯し、BASが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると警告灯が消灯し、機能も元に戻ります。
- ABS警告灯が点灯しているときは、BASも作動しません。

ESP®

ESP（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

警　告

- ESPは車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESPが作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ESP作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESPが作動しています。

BAS / ESP警告灯

ESP警告灯は、BAS警告灯と共用です。エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

消灯しなかったり、走行中に点灯したときはBASかESPが故障しています。

指定サービス工場で点検を受けてください。

警　告

ESP表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。

また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

知　識

- 指定のサイズで、4輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESPが作動することがあります（走行中にESP表示灯が点滅したままになります）。
- バッテリーがあがったり、バッテリーの接続が断たれると、次にバッテリーを接続しても、エンジン始動後に、BAS / ESP警告灯とABS警告灯が点灯することがあります。

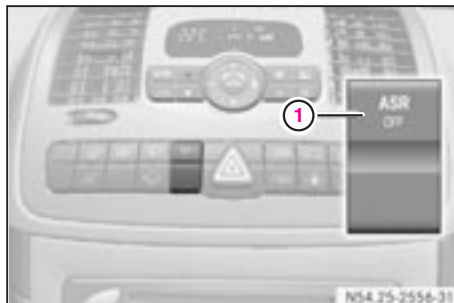
  このときはステアリングを左右どちらかにいっぱいまでまわし、次に反対方向にいっぱいまでまわすと、警告灯が消灯し、機能が回復します。
- ABSに異常があるときは、ESPの機能も解除されます。
- エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、BAS / ESP警告灯がABS警告灯とともに点灯することがあります。このときは安全な場所に停車して、エンジンスイッチを**0**の位置に戻し、エンジンを再始動してください。

注　意　！

- 車輪を上げてけん引されるときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ESPが作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- ESPが故障すると、BAS / ESP警告灯が点灯し、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。
- 雪道や凍結路などの運転では、ウィンタータイヤを装着し、速度を控えめにして、車間距離を十分確保してください。
- マルチファンクションディスプレイにESPに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（9-14）をご覧ください。

ASRオフスイッチ

ASRオフスイッチは、ESPの一部の機能を解除するためのスイッチです。

深い雪や砂、砂利などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときは、ASRの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

① ASRオフスイッチ

警　告

ASRオフスイッチでASRの機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

ASRの機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ASRオフスイッチ①の上側を押します。

メーターパネルのESP表示灯が点灯したままになります。

ASRを待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度、ASRオフスイッチ①の上側を押します。

メーターパネルのESP表示灯が消灯します。

知　識

- ASRの機能を解除しているときに、走行速度が約60km/h以上になるか、または走行状態が不安定になると、ASRは自動的に待機状態になり、ESP表示灯が消灯します。
- エンジンを始動したとき、ASRは常に待機状態になります。

エアコンディショナー

エアコンディショナーは、設定温度や車内温度、外気温度や日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環　境

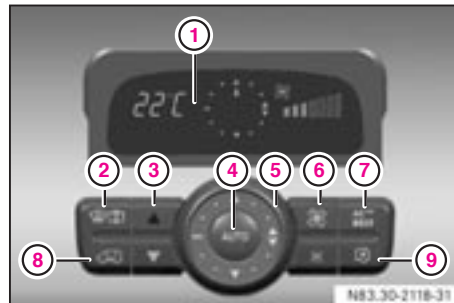
- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場で行なってください。

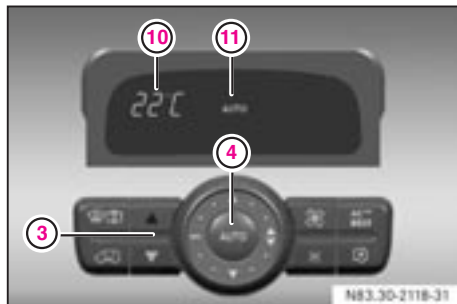
注　意　！

- 送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあります。火傷をするおそれがありますので十分に注意してください。
- 送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近づけると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。
- 皮膚の弱い方は、送風口に身体を近づけすぎないように注意してください。
- 車内が高温になっているときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。
- ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。
- ダッシュボードの上に物を置かないでください。日射センサーを覆ってしまうことがあります。

知　識

- 除湿された水分は車体下方に排水されます。
- ウインドウやスライディングルーフが開いていると、設定温度を維持することができません。
- エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。
- エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。

ディスプレイ / コントロールパネル

①	ディスプレイ	
②	デフロスタースイッチ 除湿スイッチ	5-12 5-13
③	送風温度調整スイッチ	5-4
④	AUTOスイッチ	5-4
⑤	送風口選択ダイヤル	5-6
⑥	送風量調整スイッチ	5-5
⑦	AC OFFスイッチ 余熱ヒータースイッチ	5-8 5-11
⑧	内気循環スイッチ	5-8
⑨	リアエアコンディショナースイッチ	5-14

通常の使いかた（AUTOモード）

AUTOモードのとき
③ 送風温度調整スイッチ
④ AUTOスイッチ
⑩ 送風温度
⑪ AUTOモードマーク

AUTOモードで作動させる

▶ AUTOスイッチ④を押します。

ディスプレイに送風温度⑩とAUTOモードマーク⑪が表示されます。

送風量の調整と送風口の選択が自動的に行なわれます。

知 識

設定した送風温度に関係なく、中央送風口（上部）からは外気が送風されます。

送風温度の調整

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ③の上側▲を押します。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整スイッチ③の下側▼を押します。

設定した送風温度⑩がディスプレイに表示されます。

知 識

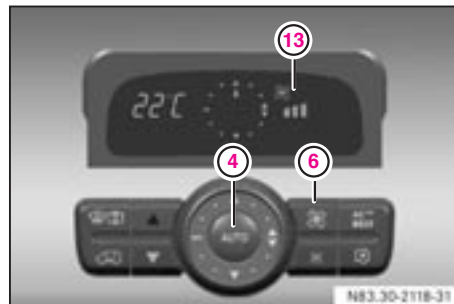
- 送風温度は通常は22℃に設定することをおすすめします。
- エアコンディショナーが最大冷房を行なっているときは、ディスプレイに、"MAX COOL" と表示されることがあります。
- 送風温度を最高に設定したときは、ディスプレイに "HI" と表示されます。
- 送風温度を最低に設定したときは、ディスプレイに "LO" と表示されます。

エアコンディショナーの停止

エアコンディショナーを停止したとき
⑥ 送風量調整スイッチ

エアコンディショナーを停止する

▶ ディスプレイに"0"が表示されるまで、送風量調整スイッチ⑥の下側を繰り返し押します。

送風量の調整

④ AUTOスイッチ
⑥ 送風量調整スイッチ
⑬ 送風量インジケーター

送風量を手動で7段階に調整することができます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ⑥の上側を押します。

送風量インジケーター⑬のマークの数が多くなります。

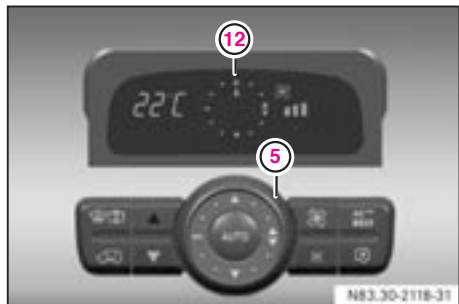
送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ⑥の下側を押します。

送風量インジケーター⑬のマークの数が少なくなります。

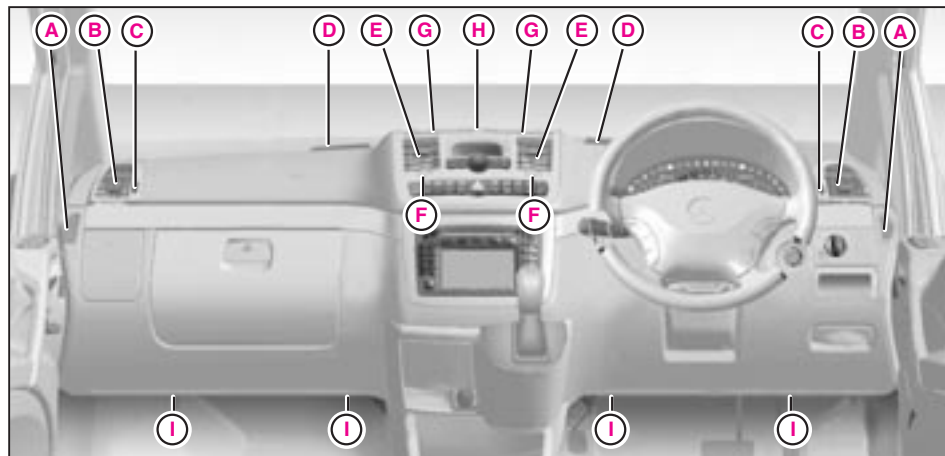
知　識

エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風量調整スイッチ⑥を押すと、AUTOモードは解除されます。

送風口の選択

⑤ 送風口選択ダイヤル
⑫ 送風口インジケーター

送風口を手動で選択することができます。

送風口を選択する

▶ 送風口選択ダイヤル⑤をまわして、送風口インジケーター⑫の▲を好みの送風口表示マークに合わせます。

送風口表示マーク	主に送風される送風口
▲	ドアウインドウ送風口Ⓐ フロントウインドウ送風口Ⓓ 中央送風口（上部）Ⓖ
▲▼	ドアウインドウ送風口Ⓐ サイド送風口Ⓑ フロントウインドウ送風口Ⓓ 中央送風口Ⓔ 足元送風口Ⓘ セカンドシート足元送風口
▼	サイド送風口Ⓑ 中央送風口Ⓔ 足元送風口Ⓘ セカンドシート足元送風口
━	サイド送風口Ⓑ 中央送風口Ⓔ

知　識

- セカンドシートの足元前方に、セカンドシート用の足元送風口があります。
- 送風口表示マークの中間にある•の位置に合わせると、組み合わせた送風口から送風することができます。
- 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。
- エアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風口選択ダイヤル⑤をまわすと、AUTOモードは解除されます。

送風口の調整

送風口を開く

▶ 中央送風口（上部）Ⓖ、サイド送風口Ⓑは、開閉ダイヤルⒽまたはⒸを上にまわします。

左側の中央送風口Ⓔは左側の開閉ダイヤルⒻを左側に、右側の中央送風口Ⓔは右側の開閉ダイヤルⒻを右側にまわします。

送風口を閉じる

▶ 中央送風口（上部）Ⓖ、サイド送風口Ⓑは、開閉ダイヤルⒽまたはⒸを下にまわします。

左側の中央送風口Ⓔは左側の開閉ダイヤルⒻを右側に、右側の中央送風口Ⓔは右側の開閉ダイヤルⒻを左側にまわします。

知　識

送風口開閉ダイヤルを止まるまでまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

送風口の風向を調整する

中央送風口Ⓔとサイド送風口Ⓑは、風向きを調整することができます。

▶ つまみを上下左右に動かします。

知　識

換気を良くするため、中央送風口のつまみは、中央の位置にすることをおすすめします。

AC OFFモード

② デフロスター / 除湿スイッチ
⑦ AC OFFスイッチ
⑭ AC OFFモードマーク

AC OFFモードに設定すると、除湿 / 冷房が行なわれなくなります。

環　境

AC OFFモードに設定すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

AC OFFモードに設定する

▶ AC OFFスイッチ⑦を押します。

ディスプレイにAC OFFモードマーク⑭が表示されます。

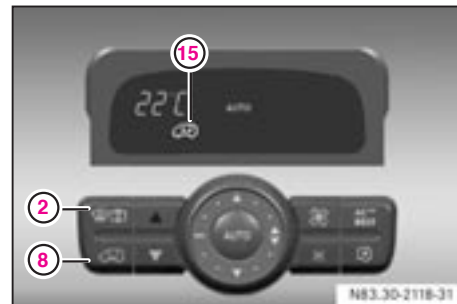
AC OFFモードを解除する

▶ 再度、AC OFFスイッチ⑦を押します。

ディスプレイのAC OFFモードマーク⑭が消えます。

知　識

- 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。
- AC OFFモードに設定するとウインドウが曇りやすくなります。AC OFFモードの使用は短時間にとどめてください。
- デフロスター / 除湿スイッチ②を押したときも、AC OFFモードは解除されます。

内気循環モード

② デフロスター / 除湿スイッチ
⑧ 内気循環スイッチ
⑮ 内気循環モードマーク

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を室内に入れたくないときに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、フロントドアウインドウを開閉することができます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑧を押します。

ディスプレイに内気循環モードマーク⑮が表示されます。

内気循環モードを解除する（外気導入にする）

▶ 再度、内気循環スイッチ⑧を押します。

ディスプレイの内気循環モードマーク⑮が消えます。

知　識

- 内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。
- 内気循環モード中にデフロスター / 除湿スイッチ②を押すと、内気循環モードが解除されます。
- 内気循環モードは、外気温度に応じて、約10〜30分経過すると、自動的に外気導入に切り替わります。

内気循環スイッチでフロントドアウインドウとスライディングルーフ＊を閉じる

▶ 外気導入のときに、内気循環スイッチ⑧を2秒以上押し続けます。

ディスプレイに内気循環モードマーク⑮が表示され、フロントドアウインドウとスライディングルーフが自動で閉じます。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

注　意！

内気循環スイッチ⑧でフロントドアウインドウやスライディングルーフ＊を閉じているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。特に子供には注意してください。

内気循環スイッチでフロントドアウインドウとスライディングルーフ＊を開く

▶ 内気循環モードのときに、内気循環スイッチ⑧を2秒以上押し続けます。

ディスプレイの内気循環モードマーク⑮が消え、フロントドアウインドウとスライディングルーフが元の位置まで開きます。

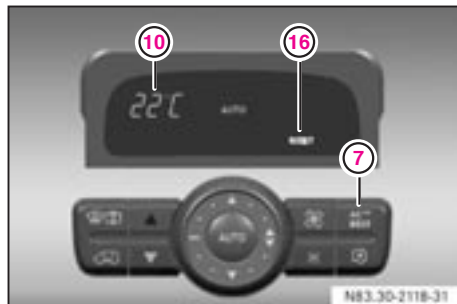
知　識

内気循環スイッチで閉じたフロントドアウインドウやスライディングルーフを別のスイッチで開いた場合、開いたフロントドアウインドウやスライディングルーフを内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

注　意！

内気循環スイッチでフロントドアウインドウを開いているときは、フロントドアウインドウに身体を寄りかけないでください。フロントドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

余熱ヒーター

⑦ 余熱ヒータースイッチ
⑩ 送風温度
⑯ 余熱ヒーターマーク

エンジン停止後に車内を暖房するときに使用します。

余熱ヒーターを使用する

▶ エンジンスイッチを**0**か**1**の位置にするか、キーを抜きます。

▶ 余熱ヒータースイッチ⑦を押します。

ディスプレイに余熱ヒーターマーク⑯とエンジン停止前に設定していた送風温度⑩が表示されます。

送風温度の調整と送風口の選択は手動で行なうことができます。

余熱ヒーターを停止する

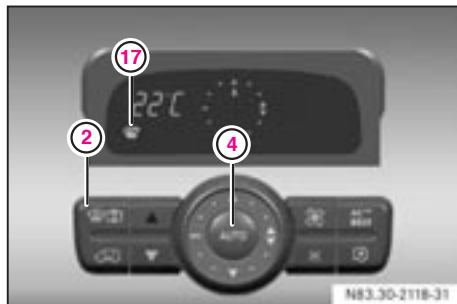
▶ 再度、余熱ヒータースイッチ⑦を押します。

ディスプレイの余熱ヒーターマーク⑯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーターが自動的に停止します。

- 余熱ヒーターを使用してから約30分後
- エンジンスイッチを**2**の位置にしたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

知　識

- バッテリーを保護するために、送風量は弱の設定で一定に保たれます。
- エンジン冷却水の温度が低いときは暖気の送風は行なわれません。

デフロスターモード

デフロスターを使用しているとき
② デフロスター / 除湿スイッチ
④ AUTOスイッチ
⑰ デフロスターモードマーク

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ 中央送風口（上部）を閉じます **(5-7)**。

▶ デフロスター / 除湿スイッチ②を押します。

ディスプレイにデフロスターモードマーク⑰が表示されます。

送風量が最大になり、フロントウインドウとフロントドアウインドウに向けて送風されます。

デフロスターモードを解除する

▶ デフロスター / 除湿スイッチ②を2度押します。

ディスプレイのデフロスターモードマーク⑰が消えます。

または、

▶ AUTOスイッチ④を押します。

ディスプレイのデフロスターモードマーク⑰が消え、AUTOモードマークが表示されます。

知　識

- デフロスターは、曇りが取れたらすみやかに解除してください。
- 内気循環モードやAC OFFモードに設定していたときは、デフロスターモードの解除にあわせてこれらの設定も解除されます。

除湿モード

② デフロスター / 除湿スイッチ
⑱ 除湿モードマーク

ウインドウの曇りを取り、車内を除湿するときに使用します。

除湿モードに設定する

▶ ディスプレイに除湿モードマーク⑱が表示されるまでデフロスター / 除湿スイッチ②を押します。

除湿モードを解除する

▶ ディスプレイの除湿モードマーク⑱が消えるまでデフロスター / 除湿スイッチ②を押します。

リアデフォッガー

⑲ リアデフォッガースイッチ
⑳ 表示灯

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

エンジンがかかっているときに使用できます。

警　告

ウインドウに雪や氷が付いているときは、必ず運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑲を押します。

スイッチの表示灯⑳が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑲を押します。

スイッチの表示灯⑳が消灯します。

注　意　！

消費電力が大きいため、リアウインドウの曇りが取れたら、なるべく早めに停止してください。

知　識

リアデフォッガーは、走行速度や外気温度により最大で約12分間作動した後、自動的に停止します。

リアエアコンディショナー

リアエアコンディショナーの作動 / 停止

① リアエアコンディショナースイッチ
② リアエアコンディショナーマーク

リアエアコンディショナーの作動 / 停止はフロントエアコンディショナーのコントロールパネルで行ないます。

リアエアコンディショナーを作動させる

▶ リアエアコンディショナースイッチ①を押します。

▶ ディスプレイにリアエアコンディショナーマーク②が表示されます。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ 再度、リアエアコンディショナースイッチ①を押します。

▶ ディスプレイのリアエアコンディショナーマーク②が消えます。

リアエアコンディショナーのコントロールパネル

③ 送風量調整ダイヤル
④ 送風温度調整ダイヤル

リアエアコンディショナーの操作パネルはセカンドシート左上方のルーフ部にあります。

送風量を調整する

標準的な送風量にする

▶ 送風量調整ダイヤル③を に合わせます。

送風量を最大にする

▶ 送風量調整ダイヤル③を に合わせます。

送風量を自動調整させる

▶ 送風量調整ダイヤル③を AUTO に合わせます。

知　識

送風量調整ダイヤルを AUTO に合わせたときの送風量は、設定した送風温度により自動的に調整されます。

送風温度を調整する

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整ダイヤル④を右にまわします。

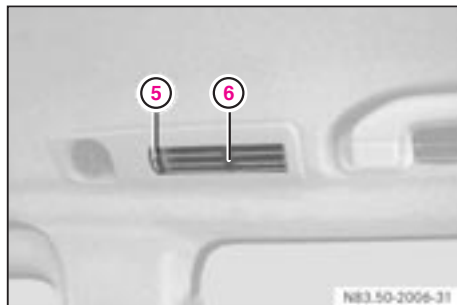
送風温度を下げる

▶ 送風温度調整ダイヤル④を左にまわします。

サードシート足元の足元送風口からは外気または暖気が送風されます。

また、セカンドシート左右上方、およびサードシート左右上方のルーフ送風口からは、外気または冷気が送風されます。

知　識

- フロントエアコンディショナーを一定以上の高い温度、または低い温度に設定すると、リアエアコンディショナーのコントロールパネルでは温度調整ができなくなります。
- セカンドシート足元の送風口の送風温度と送風量は、フロントエアコンディショナーの設定により調整されます。

ルーフ送風口の調整

⑤ ルーフ送風口開閉ダイヤル
⑥ ルーフ送風口

送風口を開く

▶ ルーフ送風口開閉ダイヤル⑤を上にまわします。

送風口を閉じる

▶ ルーフ送風口開閉ダイヤル⑤を下にまわします。

送風口の風向きを調整する

▶ ルーフ送風口⑥のつまみを上下左右に動かして風向きを調整します。

知　識

- 送風口開閉ダイヤルを止まるまで下にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。
- サードシート足元の送風口は、開閉および風向の調整はできません。

ルームランプ

フロントルームランプ

スライディングルーフ装備車
① リーディングランプ（右側）スイッチ
② リーディングランプ（右側）
③ フロントルームランプ
④ 自動点灯モードスイッチ
⑤ フロントルームランプスイッチ
⑥ リーディングランプ（左側）
⑦ リーディングランプ（左側）スイッチ

注 意 ！

車を施錠したときは、ルームランプなどが消灯することを確認してください。

フロントルームランプの点灯モードの切り替え

自動点灯モードにする

▶ 自動点灯モードスイッチ④を押します。

スイッチを押すたびに自動点灯モードが設定 / 解除されます。

自動点灯モードでは、以下のいずれかの操作をすると、フロントルームランプが自動的に点灯します。

- リモコン操作で車を解錠すると点灯し、約40秒後に消灯します。
- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約40秒後に消灯します。
- フロントドアを開くと点灯し、フロントドアを閉じると消灯します。
  - ◇ エンジンスイッチが**0**の位置のときは、ドアを閉じると約15秒後に、ドアを開いたままにすると一定時間経過後に消灯します。
  - ◇ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときは、フロントドアを閉じるとただちに消灯します。

自動点灯モードが解除されているときは、以下のいずれかの操作をしてもフロントルームランプは点灯しません。

- リモコン操作で解錠する
- エンジンスイッチからキーを抜く
- フロントドアを開く

フロントルームランプの手動点灯 / 消灯

手動でフロントルームランプを点灯する

▶ フロントルームランプスイッチ⑤を押します。

フロントルームランプ③が点灯します。

手動でフロントルームランプを消灯する

▶ 再度、フロントルームランプスイッチ⑤を押します。

フロントルームランプ③が消灯します。

フロントリーディングランプの点灯 / 消灯

フロントリーディングランプを点灯する

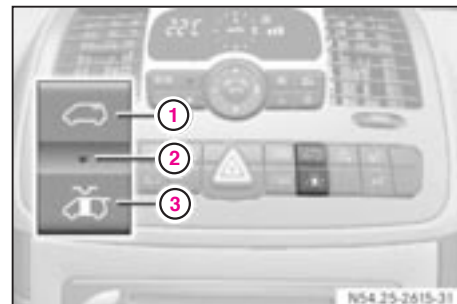
▶ リーディングランプスイッチ①、⑦を押します。

リーディングランプ②、⑥が点灯します。

フロントリーディングランプを消灯する

▶ 再度、リーディングランプスイッチ①、⑦を押します。

リーディングランプ②、⑥が消灯します。

リアルームランプ / ラゲッジルームランプ

① リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ
② 表示灯
③ 自動点灯モードスイッチ

リアルームランプはセカンドシートとサードシートの左右上方にあります。

ラゲッジルームランプはルーフ後方にあります。

注 意 !

車を施錠したときは、ルームランプなどが消灯することを確認してください。

リアルームランプ / ラゲッジルームランプの点灯モードの切り替え

自動点灯モードにする

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、自動点灯モードスイッチ③を押します。

表示灯②が消灯します。

自動点灯モードでは、以下のいずれかの操作をすると、リアルームランプ、ラゲッジルームランプが自動的に点灯します。

- リモコン操作で車を解錠すると点灯し、約40秒後に消灯します。
- スライディングドアまたはテールゲートを開くと点灯し、閉じると消灯します。
  - ◇ エンジンスイッチが**0**の位置のときは、スライディングドア / テールゲートを閉じると約15秒後に、スライディングドア / テールゲートを開いたままにすると一定時間経過後に消灯します。
  - ◇ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときは、スライディングドア / テールゲートを閉じるとただちに消灯します。

自動点灯モードを解除する

▶ エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき、自動点灯モードスイッチ③を押します。

表示灯②が点灯します。

または、

▶ エンジンスイッチが**0**の位置、またはエンジンスイッチからキーが抜いてあるとき、自動点灯モードスイッチ③を押します。

表示灯②が約5秒間点灯してから消灯します。

自動点灯モードが解除されているときは、以下のいずれかの操作をしてもリアルームランプやラゲッジルームランプは点灯しません。

- リモコン操作で解錠する
- スライディングドアまたはテールゲートを開く

リアルームランプ / ラゲッジルームランプの手動点灯 / 消灯（前席からの操作）

リアルームランプ / ラゲッジルームランプを点灯する

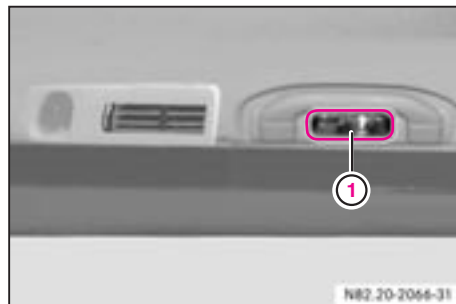
▶ リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ①（5-18）を押します。

リアルームランプとラゲッジルームランプが点灯します。

リアルームランプ / ラゲッジルームランプを消灯する

▶ 再度、リアルームランプ / ラゲッジルームランプスイッチ①（5-18）を押します。

リアルームランプとラゲッジルームランプが消灯します。

リアルームランプの手動点灯 / 消灯（後席からの操作）

① リアルームランプ

リアルームランプを点灯する

▶ リアルームランプ①を押します。

リアルームランプが点灯します。

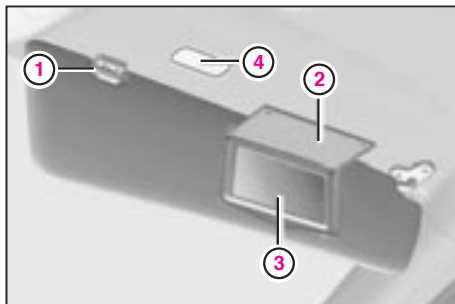
リアルームランプを消灯する

▶ 再度、リアルームランプ①を押します。

リアルームランプが消灯します。

知　識

手動で点灯したリアルームランプは、自動的に消灯しません。

サンバイザー

運転席側サンバイザー
① フック
② バニティミラーカバー
③ バニティミラー
④ 照明

直射日光が眩しいときに使用します。

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック①から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

注　意　！

サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバーを閉じてください。ルーフやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザーを下げます。

▶ バニティミラーカバー②を上方に開きます。

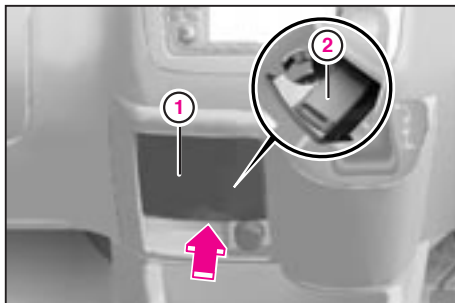
照明④が点灯します。

使用後はバニティミラーカバー②を閉じ、サンバイザーを上げます。

注　意　！

眩惑を防ぐため、走行中はバニティミラーカバーを閉じてください。

灰皿

灰皿（センターコンソール）

① カバー
② 灰皿カバー

灰皿を開く

▶ カバー①の矢印の部分を持って、手前に引きます。

▶ 灰皿カバー②を前方にスライドします。

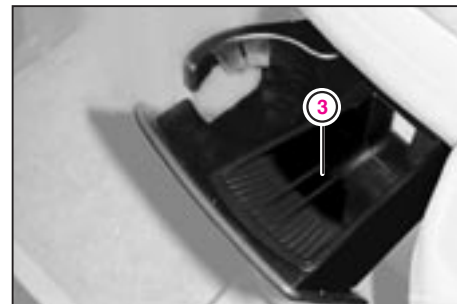
灰皿を閉じる

▶ カバー①を押し込みます。

知　識

灰皿カバー②を開いたままカバー①を閉じると、灰皿カバー②も閉じます。

注　意　!

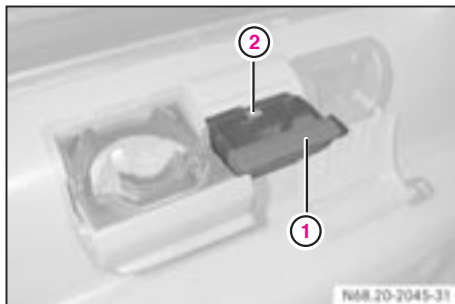
- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

③ ノブ

灰皿を取り外す

▶ ノブ③を持って抜き取ります。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を押し込みます。

灰皿（サードシート左右）

① カバー
② ノブ

灰皿を開く

▶ カバー①を手前に引きます。

灰皿を閉じる

▶ カバー①を閉じます。

注　意　！

- 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。
- 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。
- 使用後は確実にカバーを閉じてください。

灰皿を取り外す

▶ ノブ②を押しながら抜き取ります。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を押し込みます。

ライター

① ライター

エンジンスイッチが1か2の位置のときに使用できます。

ライターを使用する

▶ ライター①を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

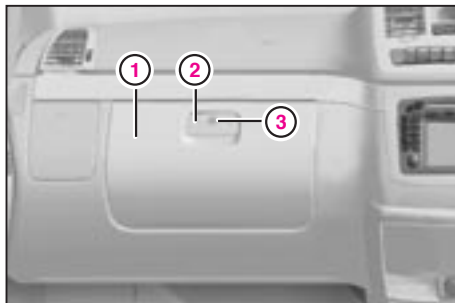
警　告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

注　意！

- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。
- ライターを押さえつづけないでください。ライターを損傷するおそれがあります。
- 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。
- ライターが押し込まれたまま戻らなくなったときは、エンジンスイッチを0の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。
- アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーのみを使用してください。

グローブボックス

グローブボックス

① カバー
② ハンドル
③ キーシリンダー

グローブボックスを開く

▶ ハンドル②を引きます。

エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のときは、グローブボックス内のランプが点灯します。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー①を押して閉じます。

注　意　！

走行中は、グローブボックスのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や衝突時などに収納物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

知　識

- グローブボックス内には、ドリンクホルダー、コインホルダーなどが装備されています。
- グローブボックス内には外部音声入力端子があります。詳しくは別冊「マルチファンクションコントローラー取扱説明書」をご覧ください。

グローブボックス

グローブボックスを施錠する

▶ エマージェンシーキー（3-9）をキーシリンダー③に差して、時計回りにまわします。

グローブボックスを解錠する

▶ エマージェンシーキー（3-9）をキーシリンダー③に差して、反時計回りにまわします

注　意　！

- 貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。
- 施錠したときは、グローブボックスが開かないことを確認してください。

知　識

駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠し、エマージェンシーキーを携帯してください。

携帯電話の接続

グローブボックス内には携帯電話用のコネクターが装備されています。

コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信ができます。

携帯電話を取り付ける

▶ 携帯電話の外部端子をコネクターに接続します。

携帯電話を取り外す

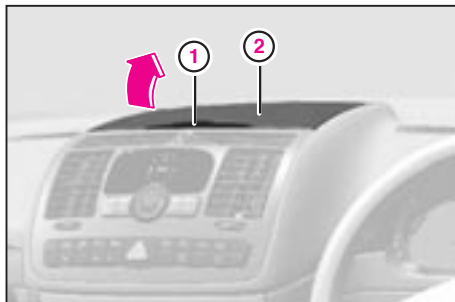
▶ コネクター左右のロック解除ボタンを押しながら、携帯電話をコネクターから取り外します。

注　意　！

携帯電話がコネクターに接続できないときは、無理に取り付けないでください。

※ 電話の操作については、別冊「マルチファンクションコントローラー取扱説明書」をお読みください。

小物入れ

センターコンソール上部の小物入れ

① 凹部
② カバー

小物入れを開く

▶ 凹部①に手をかけて、上方に開きます。

小物入れを閉じる

▶ カバー②を閉じます。

注 意 !

走行中は、必ずセンターコンソール上部の小物入れのカバーを閉じてください。前方の視界がさえぎられ、事故につながるおそれがあります。

また、急ブレーキ時や衝突時などに内部の収納物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

知 識

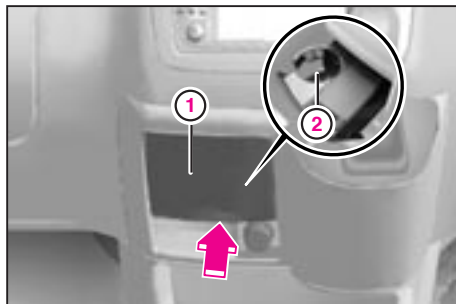
- このほかに、セレクターレバー下や左右フロントドア下部、サードシート足元左右に小物入れがあります。また、フロントシートのバックレスト背面に収納ポケットがあります。
- フロントルームランプの前方にサングラスケースがあります。

カップホルダー

センターコンソール、グローブボックス横、サードシート左右にカップホルダーを装備しています。

注 意 ！

カップホルダーを使用するときは、以下の点に注意してください。

- 火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。
- サイズに合った容器を置いてください。
- 走行中は使用しないでください。

① カバー
② カップホルダー（センターコンソール）

カップホルダー（センターコンソール）を使用する

▶ カバー①の矢印の部分を持って、手前に引きます。

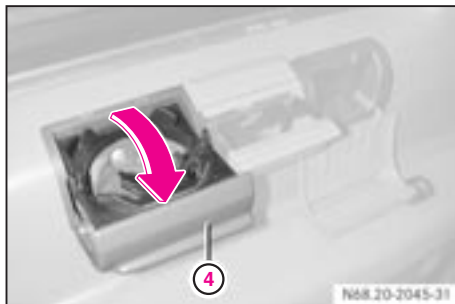
閉じるときは、カバー①を押し込みます。

③ カップホルダー（グローブボックス横）のカバー

カップホルダー（グローブボックス横）を使用する

▶ カバー③を押します。

カバーが開きます。

閉じるときは、カバー③を押し込みます。

④ カップホルダー（サードシート左右）のカバー

カップホルダー（サードシート左右）を使用する

▶ カバー④を矢印の方向に引きます。

カバーが開きます。

閉じるときは、カバー④を押し込みます。

コートフック

ベンチレーションウインドウ前方のピラーにコートフックが装備されています。

注 意 !

- コートフックには軽くて柔らかい衣類以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときはハンガーなどを使用せず、衣類を直接かけてください。
- コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないようにしてください。

アシストグリップ

左右ドアウインドウの上方、セカンドシート / サードシートの左右上方にアシストグリップが装備されています。

コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

注 意 !

- アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。
- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなどをかけないでください。
- 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

事故・故障のとき

警　告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近づけないでください。火災や爆発のおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに以下の処置をとってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は、負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車し、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

セレクターレバーをNに入れ、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。

注　意　！

踏切内で動かなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

運転席ドアのドアポケットに懐中電灯を備えています。

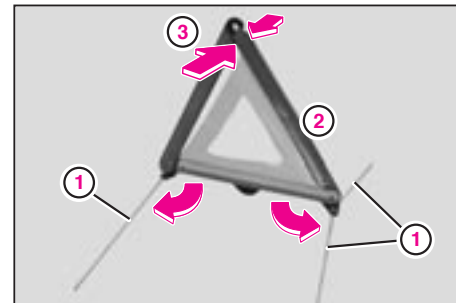
知　識

- 新車時は電池の自然放電を防止するため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。
- 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

救急セット

運転席ドアのドアポケットに救急セットを備えています。

救急セットの備品が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

※ 救急セットの収納されている場所が異なることがあります。

停止表示板

① スタンド
② 反射板
③ フック

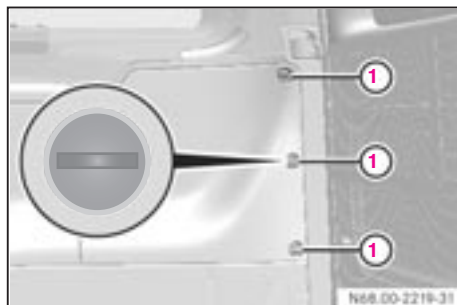
助手席ドアのドアポケットに停止表示板を備えています。

停止表示板を組み立てる

▶ 左右のスタンド①を拡げて地面に立てます。

▶ 反射板②を引き出し、頂点のフック③を合わせて固定します。

※ 停止表示板の形状や収納されている場所が一部異なることがあります。

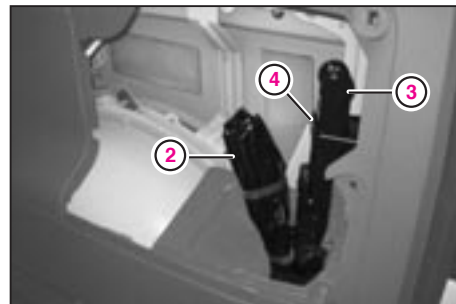
車載工具 / ジャッキ

① クリップ

車載工具などは、ラゲッジルーム右側の小物入れに収納されています。

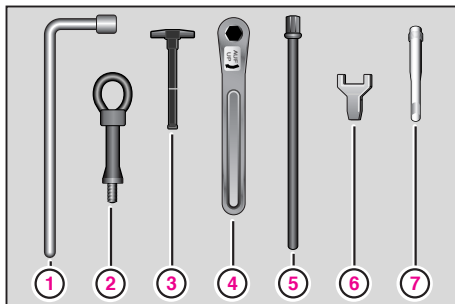
小物入れのカバーを取り外す

▶ TREND、AMBIENTEは、サードシートを折りたたみます **(3-41)**。

AMBIENTE longはサードシートを前方に移動し、バックレストをを前方に倒します **(3-39)**。

▶ 3ヶ所あるクリップ①を、コインなどで反時計回りにまわし、小物入れのカバーを取り外します。

TREND、AMBIENTE
ラゲッジルーム右側の小物入れカバーを取り外した状態

② 車載工具
③ ジャッキ
④ ストッパー

車載工具

主な車載工具

①	ホイールレンチ	6-19
②	けん引フック	6-28
③	スライディングルーフ 手動操作時専用レンチ*	3-88 3-89
④	ジャッキハンドル	6-20
⑤	スペアタイヤ取り外し / 収納用アダプター	6-17 6-26
⑥	ヒューズリムーバー	6-38
⑦	ガイドボルト	6-22

*オプションまたは仕様により装備が異なります。

車載工具を取り出す

▶ ラゲッジルーム右側の小物入れのカバーを取り外します（6-4）。

▶ 車載工具（6-4）を取り出します。

車載工具の中には、ホイールレンチ、けん引フック、スライディングルーフ手動操作時専用レンチ*、ジャッキハンドル、スペアタイヤ取り外し / 収納用アダプター、ヒューズリムーバー、ガイドボルトなどが収納されています。

車載工具を収納する

▶ 元の位置に車載工具を戻します。

車載工具が確実に収納されたことを確認してください。

▶ 小物入れのカバーを取り付けます。

ジャッキ

TREND、AMBIENTE
ラゲッジルーム右側の小物入れカバーを取り外した状態

② 車載工具
③ ジャッキ
④ ストッパー

ジャッキを取り出す

▶ ラゲッジルーム右側の小物入れのカバーを取り外します（6-4）。

▶ TREND、AMBIENTEは車載工具②を取り出します。

▶ ストッパー④を外してジャッキ③を取り出します。

ジャッキを収納する

▶ ジャッキ③をいっぱいに縮めます。

▶ 元の位置にジャッキ③を戻します。

▶ ストッパー④でジャッキ③を固定します。

▶ TREND、AMBIENTEは元の位置に車載工具②を押し込んで戻します。

ジャッキ③と車載工具②が確実に収納されたことを確認してください。

▶ 小物入れのカバーを取り付けます。

警　告

ジャッキアップしているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。車載のジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

注　意　！

- 車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。
  - ◇ 安全を確保できる、固くてすべりにくい、水平な場所で使用してください。
  - ◇ この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
  - ◇ 不具合や損傷があるときは使用しないでください。
  - ◇ ジャッキサポート以外の場所に設置しないでください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろし、スペアタイヤ＊を取り外してください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

パンクしたとき（TREND / AMBIENTE）

パンクしたタイヤをタイヤリペアキットで修理すると、一時的に走行することができます。

警　告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱し、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点灯させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

注　意　！

- パンク修理をする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- 以下の状況のときはタイヤリペアキットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を運搬してください。
  - ◇ タイヤの接地面以外に傷があるとき
  - ◇ 傷の大きさが約4mm以上のとき
  - ◇ リムに損傷があるとき
  - ◇ タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が抜けた状態のタイヤで走行したとき

パンクしたとき（TREND / AMBIENTE）

▶ 安全を確保できる、固くてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

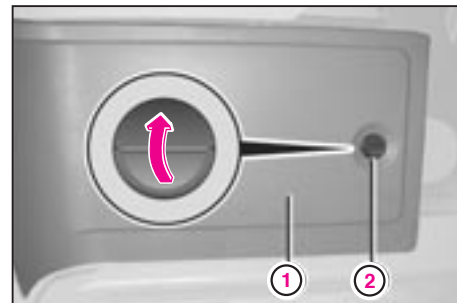
▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを効かせ、セレクターレバーを P に入れます。

▶ エンジンを停止します。

▶ 乗員を車から降ろし、安全な場所に避難させます。

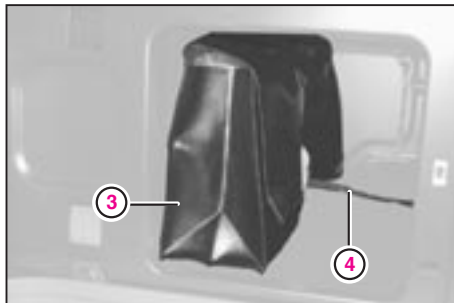
タイヤリペアキットを取り出す

タイヤリペアキットは運転席シート下部にあります。

※ タイヤリペアキットの収納されている場所が異なることがあります。

運転席シート下部の収納部

① カバー
② クリップ

▶ クリップ②のツメを立てて、反時計回りにまわします。

▶ カバー①を取り外します。

③ タイヤリペアキット収納バッグ
④ ストラップ

▶ ストラップ④をゆるめます。

▶ タイヤリペアキット収納バッグ③を取り出します。

タイヤリペアキット収納バッグの中には、タイヤフィット（タイヤ修理剤）、電動エアポンプ、バルブレース、予備のバルブコアが入っています。

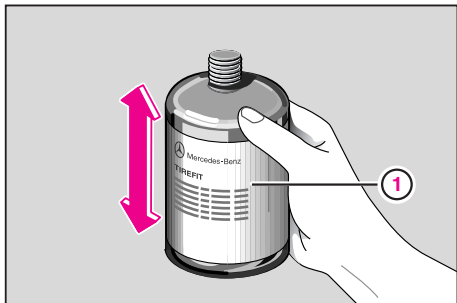
警　告

- タイヤフィットでパンクを修理したときは、必ず80km/h以下で走行してください。

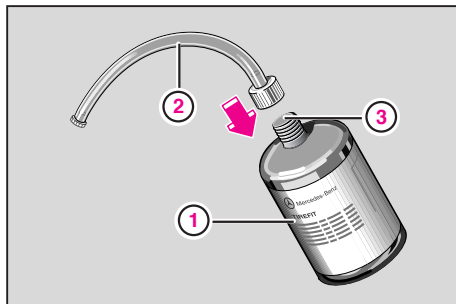
  また、短い時間の走行にとどめ、できるだけ早くタイヤを交換してください。

- 空気圧不足で走行したためにタイヤに凹み、亀裂、ひびなどがある場合、タイヤから空気が完全に抜けている場合、ホイールに著しい損傷がある場合などは、タイヤフィットを使用しないでください。
- 火気は近づけないでください。タバコの火などが原因となり、火災が発生するおそれがあります。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。
- タイヤフィットは、決して身体や衣服につかないように注意してください。眼や皮膚についた場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。衣服についた場合は、付着した衣服を着替えてください。また、アレルギー症状が出た場合は、医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットは車室内などに放置せず、タイヤリペアキット収納バッグに入れ、運転席シート下部の収納部に保管してください。
- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、絶対に吐かせないでください。ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませます。そして、ただちに医師の診断を受けてください。

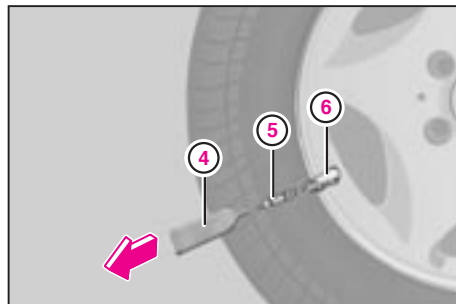
パンクしたとき（TREND / AMBIENTE）

パンクしたタイヤを修理する

① タイヤフィット

▶ タイヤリペアキット収納バッグ **(6-9)** からタイヤフィット①を取り出します。

▶ タイヤフィット①の容器をよく振ります。

② 注入ホース
③ アルミキャップ

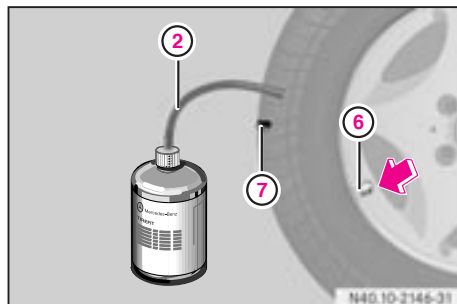
▶ 注入ホース②のスクリュー部分をタイヤフィット①の容器に取り付けます（その際、アルミキャップ③を突き刺します）。

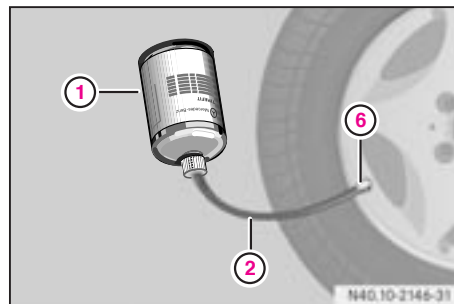
▶ タイヤリペアキット収納バッグからバルブレースを取り出します。

④ バルブレース
⑤ バルブコア
⑥ バルブ

▶ バルブキャップを取り外し、取り付けたバルブレース④を反時計回りにまわして、バルブ⑥からバルブコア⑤を取り外します。

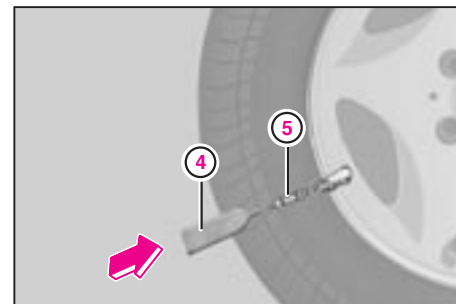
注　意　！

取り外したバルブコアを汚したり、濡らしたり、または損傷しないようにしてください。

※ 車載されているバルブレースやバルブコアの種類が異なることがあります。

⑦ プラグ

▶ 注入ホース②からプラグ⑦を外し、注入ホースの先端をバルブ⑥に差し込みます。

▶ タイヤフィット①の容器を逆さにします。このとき、タイヤフィットの容器の高さがバルブ⑥より上になるようにします。

▶ タイヤフィット①の容器を数回絞って、タイヤフィットの内容物をすべてタイヤのなかに流し込みます。

▶ 注入ホース②をバルブ⑥から外します。

▶ バルブレース④を使い、バルブコア⑤を元通りに取り付けます。

知　識

タイヤについているバルブコアが汚れていたり、損傷しているときは、予備のバルブコアと交換してください。

パンクしたとき（TREND / AMBIENTE）

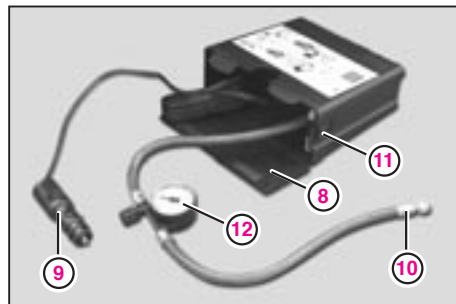
▶ プラグ⑦を注入ホース②に取り付けます。

知　識

タイヤフィットがバルブやリム、タイヤなどに付着したときは、乾燥させてから剥がし取ってください。

▶ 10mほど車を前後進させます。

注入したタイヤフィットがタイヤ全体に行きわたります。

電動エアポンプで空気を入れる

⑧ フラップ
⑨ 電源プラグ
⑩ エアホース
⑪ 電源スイッチ
⑫ 空気圧ゲージ

注　意　！

電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに貼付されている取扱方法を守ってください。

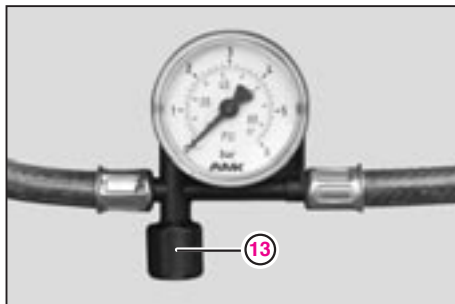
※車載されている電動エアポンプの種類が異なることがあります。

タイヤリペアキット収納バッグ（6-9）から電動エアポンプを取り出します。

▶ フラップ⑧を開きます。

▶ 電源プラグ⑨、およびエアホース⑩を取り出します。

▶ エアホース⑩の先端に付いているナットをまわして、エアホースをタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ⑪が**O**（OFFの位置）になっていることを確認します。

⑬ 空気圧調整バルブ

▶ 空気圧ゲージ⑫の空気圧調整バルブ⑬が完全に閉じていることを確認します。

▶ 電源プラグ⑨を灰皿のライターソケット（5-24）か、サードシート左右またはラゲッジルーム内の12V電源ソケット（3-73）に差し込みます。

▶ 電源プラグをライターソケットに差し込んでいるときはエンジンスイッチを**1**の位置に、12V電源ソケットに差し込んでいるときはエンジンスイッチを**0**の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ⑪を **I**（ONの位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤに空気を送り込みます。

注 意 ！

- 電動エアポンプを連続して8分以上作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。
- 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。
- 電動エアポンプは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。
- 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

パンクしたとき（TREND / AMBIENTE）

▶ 空気圧が1.8バールになったら（約5分後）、電動エアポンプの電源スイッチ⑪を**0**（OFFの位置）にします。

注 意 ！

空気圧が1.8バールに達しない場合は、電動エアポンプを外し、低速で車を10m前進または後退させ、タイヤフィットをタイヤ内に行きわたらせます。

その後、タイヤに空気を入れ直します。それでも空気圧が1.8バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、指定サービス工場に連絡してください。

▶ 電源プラグをライターソケットに差し込んでいるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にします。

▶ 電動エアポンプの電源プラグをライターソケット、または12V電源ソケットから抜き、タイヤのバルブからエアホースを取り外します。

▶ バルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットがタイヤ内に行きわたるように、ただちに走行してください。

警 告

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は80km/hです。カーブ走行時やブレーキ時には特に慎重に運転してください。また、操縦性に変化が現れることがあります。

注 意 ！

- 安全のため、付属のステッカー "max. 80km/h" を運転者の見やすい場所に貼付してください。
- タイヤフィットが付着したときは、乾燥させてから剥がし取ってください。

▶ 約10分間走行した後、電動エアポンプのエアホース（6-12）をバルブに取り付けて、空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検します。

1.3バール以上の場合は、電動エアポンプで規定空気圧（7-16）になるまでタイヤに空気を入れてください。

注　意　！

空気圧が1.3バールに達しない場合は、タイヤフィットで修理することができません。それ以上走行せず、指定サービス工場に連絡してください。

▶ 電動エアポンプを元の場所に戻します。

警　告

タイヤフィットでタイヤを修理したときには、重い荷物を載せないでください。タイヤの損傷やパンクにつながるおそれがあります。

知　識

タイヤフィットは4年ごとに交換してください。

環　境

タイヤフィットの廃棄は、指定サービス工場に依頼してください。

パンクしたとき（AMBIENTE long）

パンクしたタイヤを応急用スペアタイヤに交換すると、一時的に走行することができます。

知　識

- TREND / AMBIENTEには応急用スペアタイヤは装備されていません。タイヤリペアキットでパンクしたタイヤを修理してください **(6-7)**。
- AMBIENTE longには応急用スペアタイヤとタイヤリペアキット **(6-7)** が装備されています。

警　告

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱し、火災が発生するおそれがあります。
- 停車したときは、非常点滅灯を点灯させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。

▶ 安全を確保できる、固くてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させせます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを効かせ、セレクターレバーをPに入れます。

▶ エンジンを停止します。

▶ 乗員を車から降ろし、安全な場所に避難させます。

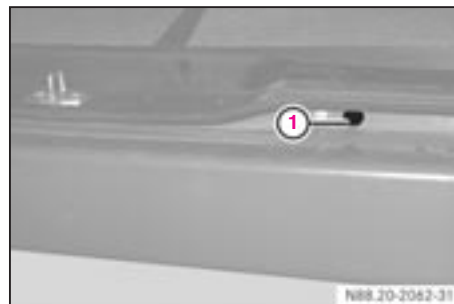
▶ スペアタイヤ取り外し / 収納用アダプター、ジャッキハンドル、ホイールレンチ、ジャッキ、ガイドボルトを車載工具 **(6-4)** から取り出します。

応急用スペアタイヤを取り出す

応急用スペアタイヤは車体後部フロア下に収納されています。

警　告

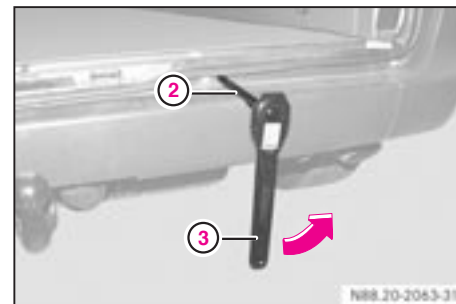
- 応急用スペアタイヤを取り外したり、収納する作業には大きな力が必要になります。作業は必ず、大人2人以上で行なってください。
- 作業を行なうときは、身体を挟まれてけがをしないよう、十分に注意してください。
- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。

  また、短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。

① アダプター挿入口

▶ テールゲートを開きます。

▶ アダプター挿入口①にスペアタイヤ取り外し / 収納用アダプター②（6-5）を差し込みます。

注　意 ！

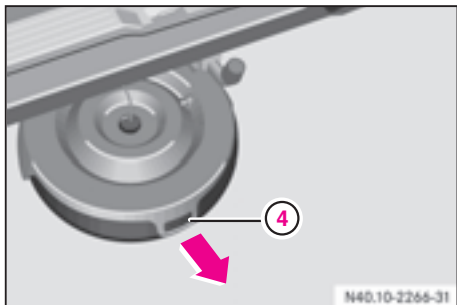
作業をするときは必ず手袋をしてください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

② スペアタイヤ取り外し / 収納用アダプター
③ ジャッキハンドル

▶ アダプター②に、"AB DOWN" の文字が見える方向でジャッキハンドル③を取り付けます。

▶ ジャッキハンドル③を反時計回りに止まるまでまわします。

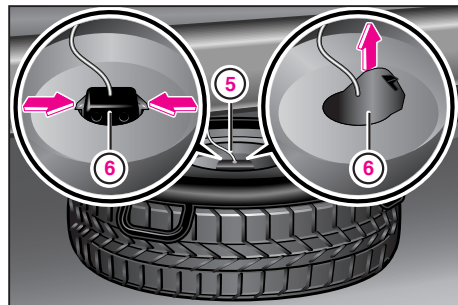
スペアタイヤが下がります。

▶ ジャッキハンドルとスペアタイヤ取り外し / 収納用アダプターを取り外します。

パンクしたとき（AMBIENTE long）

④ グリップ

▶ タイヤカバーのグリップ④を持って、応急用スペアタイヤを少し引き出します。

注 意 ！

応急用スペアタイヤを、下ろしきっていないときに引き出さないでください。応急用スペアタイヤが落下するおそれがあります。

⑤ ワイヤー
⑥ タイヤホルダー

▶ タイヤホルダー⑥の2ヶ所のツメを押して、タイヤホルダー⑥を下方に落とします（図 左円内）。

▶ ワイヤー⑤を引き上げ、タイヤホルダー⑥を斜めにしながら抜き取ります（図 右円内）。

注 意 ！

応急用スペアタイヤを手前まで引き出しすぎていたり、タイヤホルダー⑥を下ろしきっていないと、ワイヤー⑤が張ってしまいタイヤホルダー⑥を取り外すことができません。

▶ 応急用スペアタイヤを引き出します。

▶ タイヤカバーを取り外します。

タイヤを交換する

注　意　！

- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろし、応急用スペアタイヤを取り外してください。
- 車速感応ドアロックを設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などでジャッキアップするときは、エンジンスイッチを0の位置にしてください。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

▶ ENR（3-75）を自動調整停止モードにします。

▶ 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

やむを得ず傾斜地でタイヤを交換するときは、以下のように輪止めをしてください。

- 前輪のいずれかを交換するときは、左右の後輪の下り側に輪止めをします。
- 後輪のいずれかを交換するときは、左右の前輪の下り側に輪止めをします。

知　識

輪止めは車載されていません。適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

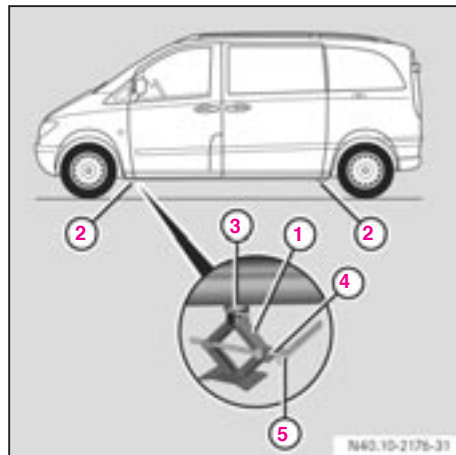
▶ ホイールレンチで、交換するタイヤのホイールボルト（5本）をそれぞれ約1回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトは取り外しません。

パンクしたとき（AMBIENTE long）

注　意　！

ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ボルトを損傷することがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

① ジャッキ
② ジャッキサポート
③ ジャッキのプレート部
④ ダイヤル
⑤ ジャッキハンドル

▶ ダイヤル④を手でまわしてジャッキを伸ばしながら、交換するタイヤに近いジャッキサポート②にジャッキのプレート部③をあてます。

このとき、ジャッキのプレート部③がジャッキサポート②に接して、ジャッキがぐらつかない程度までジャッキを伸ばします。

知　識

ジャッキサポート②は左右前輪の後方、左右後輪の前方のボディ下部に計4ヶ所設けられています。

注　意　！

- 車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。
  - ◇ 安全を確保できる、固くてすべりにくい、水平な場所で使用してください。
  - ◇ この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
  - ◇ 不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- ジャッキのプレート部③は必ずジャッキサポート②の中心部に当て、ジャッキのプレート部③がジャッキサポート②を完全に支えるようにしてください。

▶ "AUF UP" の文字が見える方向でジャッキハンドル⑤を取り付けます。

注　意　！

"AUF UP" の文字が見える方向でジャッキハンドル⑤を取り付けないと、ジャッキハンドルを操作したときに車がジャッキアップしません。

警　告

車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。

注　意　！

ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。

パンクしたとき（AMBIENTE long）

⑤ ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル⑤を矢印の方向に繰り返し操作して、タイヤが地面から離れるまでジャッキアップします。

⑥ ガイドボルト

▶ 上側のホイールボルトを1本外します。

▶ ホイールボルトを外したネジ穴に車載工具（**6-5**）のガイドボルト⑥を取り付けます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

注 意 ！

- ホイールボルトに砂や泥を付けないように注意してください。
- タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。
- ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤの取り付け

⑥ ガイドボルト

▶ ガイドボルト⑥に合わせて、応急用スペアタイヤを取り付けます。

▶ 残りの4つのネジ穴にホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

▶ ガイドボルト⑥を取り外し、5本目のホイールボルトを軽く締め付けます。

注　意！

- ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。
- ホイールハブのネジ山に傷が付いたときは、すぐに修理してください。また、ネジ山には、決してオイルやグリスを塗布しないでください。ボルトがゆるむおそれがあります。

警　告

ジャッキアップした状態で、ホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いで、ジャッキが外れるおそれがあります。

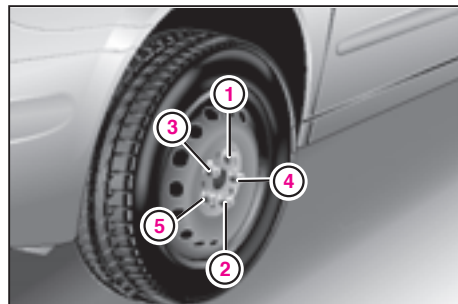
▶ "AB DOWN" の文字が見える方向でジャッキハンドルを取り付けます。

注　意！

"AB DOWN" の文字が見える方向でジャッキハンドルを取り付けないと、ジャッキハンドルを操作したときに車が下がりません。

パンクしたとき（AMBIENTE long）

⑤ ジャッキハンドル

▶ ジャッキハンドル⑤を矢印の方向に繰り返し操作して、ジャッキを下げて外します。

① - ⑤ ホイールボルトの締め付け順序

▶ ホイールボルトを図の順序で何度かに分けて締め付けます。

ホイール（スチール）ボルトの締め付けトルクは、約18kg-m（180Nm）です。

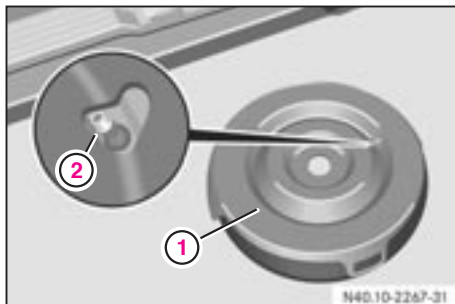
タイヤ交換後は、指定サービス工場などでホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

知　識

軽合金ホイールの締め付けトルクは、約15kg-m（150Nm）です。

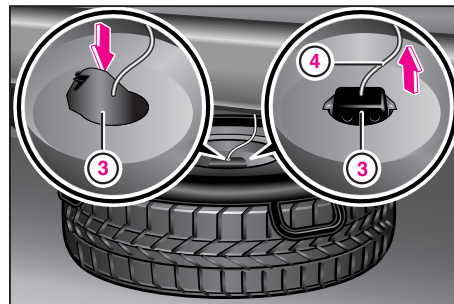
注　意　！

- ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ボルトを損傷することがあります。以下の点に注意してください。
  - ◇ ホイールレンチを確実に差し込んでください。
  - ◇ 足で踏んでまわさないでください。
  - ◇ 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。
  - ◇ パイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。
- ホイールボルトは必ず規定の締め付けトルクで締め付けてください。締め付けトルクが不足しているとボルトがゆるみ、車のコントロールを失って事故につながるおそれがあります。

スペアタイヤの収納

① タイヤカバー
② バルブ位置

▶ 応急用スペアタイヤにタイヤカバー①を取り付けます。

注 意 ！

ホイールのバルブがタイヤカバーのバルブ位置②に合うように、タイヤカバーを取り付けてください。正しく取り付けないとバルブやタイヤカバーを損傷するおそれがあります。

③ タイヤホルダー
④ ワイヤー

▶ 応急用スペアタイヤを車体後部の下に置きます。

▶ タイヤホルダー③を斜めにしながら、ホイール中央の穴に入れて、下に落とします。

▶ ワイヤー④を上に引き、タイヤホルダー③をホイールに装着します。

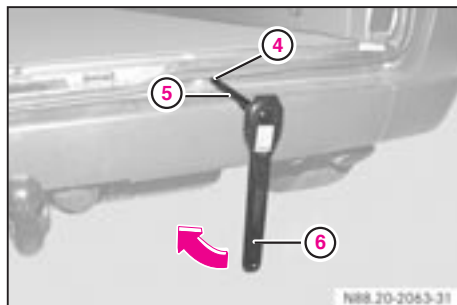
注 意 ！

応急用スペアタイヤを置く位置が手前すぎたり、タイヤホルダーを完全に下ろしきっていないと、タイヤホルダーをホイールに装着することができません。

警 告

タイヤホルダーがホイールに確実に装着されていることを確認してください。

確実に装着されていないと応急用スペアタイヤが落下し、事故を起こすおそれがあります。

パンクしたとき（AMBIENTE long）

④ アダプター挿入口
⑤ スペアタイヤ取り外し / 収納用アダプター
⑥ ジャッキハンドル

▶ アダプター挿入口④にスペアタイヤ取り外し / 収納用アダプター⑤を差し込みます。

▶ スペアタイヤ取り外し / 収納用アダプター⑤に、" AUF UP " の文字が見える方向でジャッキハンドル⑥を取り付けます。

▶ ジャッキハンドル⑥を時計回りに止まるまでまわします。

応急用スペアタイヤが上がります。

▶ ジャッキハンドル、スペアタイヤ取り外し / 収納用アダプターを取り外します。

▶ 使用した工具などを収納します。

警　告

応急用スペアタイヤを収納したときは、確実に装着されていることを確認してください。

確実に装着されていないと応急用スペアタイヤが落下し、事故を起こすおそれがあります。

警　告

- ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故につながるおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂するおそれがあります。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。
- どのような場合でも、タイヤの許容速度を超えるような速度を出さないでください。許容速度を超えた速度で走ると、タイヤがパンクして事故につながるおそれがあります。

注　意　！

- タイヤの空気圧を点検するときは、応急用スペアタイヤの空気圧も点検してください。
- タイヤに空気を入れても空気圧が低下するようなときは、タイヤのパンク、ホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどを点検してください。
- ジャッキ、工具を使用した後は、必ず元の位置に収納してください。

知　識

タイヤが温まっているときは、空気圧は約0.3kg/cm^{2}ほど高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに調整してください。規定の空気圧を記載したラベルは燃料給油口フラップを開いた車体側に貼付してあります。空気圧ラベルの見かたについては（7-16）をご覧ください。

けん引

注　意　!

- けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。
- やむを得ず他車にけん引してもらうときは、以降に記載する説明に従ってください。

フロントの取り付け位置

① カバー

けん引フックを取り付ける

▶ フロントバンパー下部の向かって左側にあるカバー①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 車載工具（6-4）から、けん引フックとホイールレンチを取り出します。

▶ けん引フックを内部のネジ穴にねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチの柄の部分をけん引フックのリング部分に差し込み、確実に締め付けます。

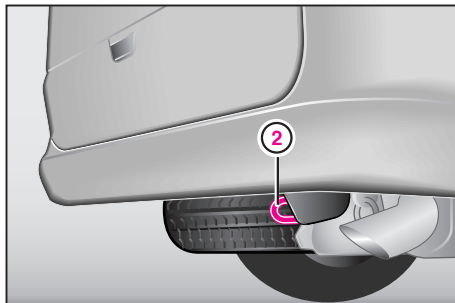
けん引フックを取り外す

▶ ホイールレンチを車載工具から取り出し、ホイールレンチの柄の部分をフックのリング部分に入れて半時計回りにまわし、けん引フックをゆるめます。

▶ けん引フックを取り外します。

▶ カバー①を取り付けます。

▶ けん引フックとホイールレンチを車載工具に収納します。

リアの取り付け位置

AMBIENTE long
② リアけん引フック

車体後部右下にけん引フックがあります。

けん引されるとき

▶ エンジンを始動し、セレクターレバーを N に入れます。

▶ エンジンを始動できないときは、エンジンスイッチを2の位置にして、ブレーキペダルを踏みながらセレクターレバーを N に入れます。

セレクターレバーを P から動かせないときは、**(4-14)**をご覧ください。

注 意 !

- フロントまたはリアをつり上げてけん引するときは、必ずエンジンスイッチを0の位置にしてください。ESPが作動して接地しているタイヤにブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。
- 一般道では30km/h以下の速度で、距離は50km以内に限り、けん引走行することができます。距離が50kmを超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- エンジンを停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。

注　意　!

- エンジンがかかっていないときは、ブレーキやステアリングの操作に、非常に大きな力が必要になります。
- 長い坂道、急な坂道を下るときはけん引を避け、車両運搬車を使用してください。
- トランスミッションを損傷しているときは、専門業者に作業を依頼して、ドライブシャフトを取り外してから、けん引を行なってください。
- けん引フックに大きな衝撃が加わるようなけん引をしないでください。取り付け部が変形し、損傷するおそれがあります。
- けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください。ホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
- 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをけん引フックかホイール、またはホイールリムにかけてください。サスペンションなどのメンバー部にかけると車体を損傷するおそれがあります。
- けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。
  - ◇ ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
  - ◇ ロープの長さは5m以内とし、ロープの中央に白布（30cm×30cm以上）を付けて2台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
  - ◇ ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
  - ◇ けん引フック以外にはロープをかけないでください。
  - ◇ ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
  - ◇ 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

オーバーヒートしたとき

走行中、冷却水量 / 冷却水温度警告灯 が赤く点灯したときは、オーバーヒートしているか、冷却水が減少しています。

警　告

- エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。
  エンジンルームの中に漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。
- 水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

注　意　！

- オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。
- オーバーヒートしたときは指定サービス工場で必ず点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの処置

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、冷却水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足していたら補給します（7-6）。

注　意　！

冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

バッテリーがあがったとき

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。容量の大きい太めのブースターケーブルを使用してください。

他車のバッテリーとブースターケーブルを接続するときは、エンジンルーム内の向かって右側にある⊖端子と、メインヒューズボックス内にある⊕端子にブースターケーブルを接続します。

知 識

バッテリーあがりなどでリモコン操作で解錠できないときは、エマージェンシーキーで助手席ドアを解錠します（3-55）。

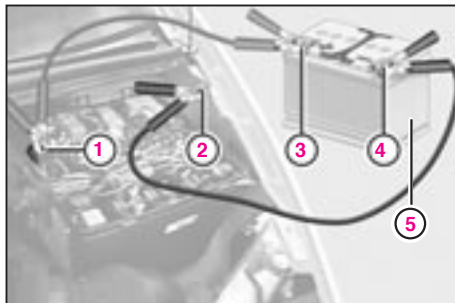
警 告

- 作業を始める前に必ず次のページの説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 助手席シート下部にあるバッテリーに、直接ブースターケーブルを接続しないでください。ショートして火災が発生するおそれがあります。
- ブースターケーブルを使用して始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。爆発したときに、けがをするおそれがあります。
- ブースターケーブルを使用して始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

充電警告灯

エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

消灯しなかったり、走行中に点灯したときは、発電または充電系部品の異常か、Vベルトが損傷しているおそれがあります。ただちに安全な場所に停車して点検してください。

エンジン始動の方法

① 自車の⊕端子
② 自車の⊖端子
③ 救援車の⊕端子
④ 救援車の⊖端子
⑤ 救援車のバッテリー

ブースターケーブルを接続し、エンジンを始動する

- ▶ バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。
- ▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。
- ▶ 救援車のエンジンを停止して、パーキングブレーキを確実に効かせます。
- ▶ 両車の電気装備をすべてオフにします（エンジンスイッチを**0**の位置にします）。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ メインヒューズボックスのカバーを取り外します **(6-36)**。
- ▶ 自車の⊕端子①のカバーを外します。
- ▶ 救援車のバッテリー⑤の⊕端子③に赤色ブースターケーブルを接続します。
- ▶ 赤色ブースターケーブルの反対側を自車の⊕端子①に接続します。
- ▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
- ▶ 救援車のバッテリー⑤の⊖端子④に黒色ブースターケーブルを接続します。
- ▶ 黒色ブースターケーブルの反対側を自車の⊖端子②に接続します。
- ▶ 自車のエンジンを始動します。

6

警　告

メインヒューズボックスの中に工具を置いたり、工具を落とさないでください。メインヒューズボックスの中にはバッテリーの⊕端子があり、ショートして火災が発生するおそれがあります。

注　意　！

電気回路を守るため、エンジンが始動したら、ただちにシートヒーターやリアデフォッガーなどの電気装備を作動させてください。ただし、ライトは点灯させないでください。

ブースターケーブルを取り外す

- ▶ 自車の⊖端子②から黒色ブースターケーブルを取り外します。
- ▶ 救援車のバッテリー⑤の⊖端子④から黒色ブースターケーブルを取り外します。
- ▶ 自車の⊕端子①から赤色ブースターケーブルを取り外します。
- ▶ 救援車のバッテリー⑤の⊕端子③から赤色ブースターケーブルを取り外します。
- ▶ 自車の⊕端子①にカバーを取り付けます。
- ▶ メインヒューズボックスのカバーを取り付けます。

知　識

放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近づけずにバッテリー全体を暖め（50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

注 意 !

- 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。
- 急速充電器などを接続してエンジンを始動しないでください。車の電気装備を損傷します。
- エンジンや触媒装置の損傷を避けるため、以下の点に注意してください。
  - ◇「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
  - ◇エンジンが暖まっているときは、ブースターケーブルでエンジンを始動しないでください。
  - ◇エンジン始動を2～3回試みても始動できないときは、時間をおいてから、再度始動してください。それでも始動しないときは指定サービス工場に連絡してください。
- ブースターケーブルは、十分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。
  - ◇ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。
  - ◇ケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。
- ブースターケーブルを使用して始動できたときも、安全のため指定サービス工場で点検を受けてください。

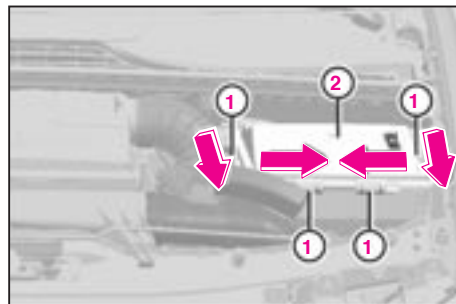
ヒューズの交換

ランプ類が点灯しなかったり、電気装備が作動しないときは、ヒューズが切れている可能性があります。

注 意 !

ヒューズを点検したり、交換するときは、すべての電装品をオフにして、セレクターレバーを P に入れ、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

ヒューズの配置と種類については**(8-7)**をご覧ください。

メインヒューズボックス

メインヒューズボックス
① ノブ
② カバー

メインヒューズボックスはエンジンルーム内の向かって右側にあります**(7-3)**。

メインヒューズボックスを開く

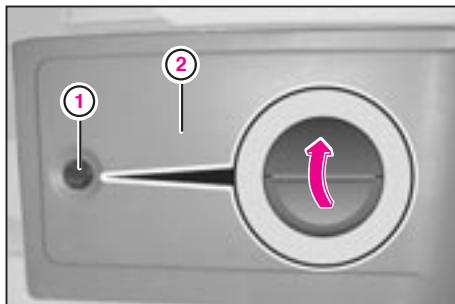
▶ ボンネットを開きます。

▶ メインヒューズボックスの4ヶ所のノブ①をそれぞれ矢印の方向にスライドします。

▶ カバー②を手前に引きながら取り外します。

警 告

メインヒューズボックスの中に工具を置いたり、工具を落とさないでください。メインヒューズボックスの中にはバッテリーの⊕端子があり、ショートして火災が発生するおそれがあります。

補助ヒューズボックス

① クリップ
② カバー

③ 補助ヒューズボックス

補助ヒューズボックスは助手席シート下部にあります。

補助ヒューズボックスを開く

▶ クリップ①のツメを立てて、反時計回りにまわします。

▶ カバー②を開きます。

ヒューズの交換

ヒューズを交換する

▶ キーを抜くか、エンジンスイッチを0の位置にします。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ ヒューズ一覧（8-6）を参考に点灯しないランプや作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ ヒューズリムーバーを使用して、該当するヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検して、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

注　意　！

- 規格や容量の異なるヒューズを使用したり、ヒューズの改造しないでください。
- 切れたヒューズを修理して使用したり、針金などで代用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
- 自動車電話やテレビなど、電気を使用するアクセサリーを使用するときは、指定サービス工場に相談してください。
- 以下のようなときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
  - ◇ ヒューズを交換してもすぐに切れたり、装備が作動しないとき
  - ◇ ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

※ ヒューズリムーバーは装備されないことがあります。

電球の交換

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。

方向指示灯（ドアミラー）、ハイマウントブレーキランプはLEDの交換になるため、必ず指定サービス工場で交換作業を行なってください。その他の電球の交換も、指定サービス工場で交換作業を行なうことをおすすめします。

やむを得ずユーザー自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

電球一覧は**（8-5）**をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ

マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは**（9-18）**をご覧ください。

すみやかに電球を交換してください。

注 意 ！

- 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になることがあります。
- ランプが熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。ランプには圧力のかかったガスが封入されているので、破裂するおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破損するおそれがあります。
- ランプを交換するときは、手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

  ランプは高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。電球に触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

知 識

ハイマウントブレーキランプは、すべてのLEDが切れたときにマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転していただくためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

- ダイムラー・クライスラー社指定の点検整備

  ダイムラー・クライスラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

- 1年および2年点検整備

  1年、2年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーター（3-110）が装備されています。

整備手帳

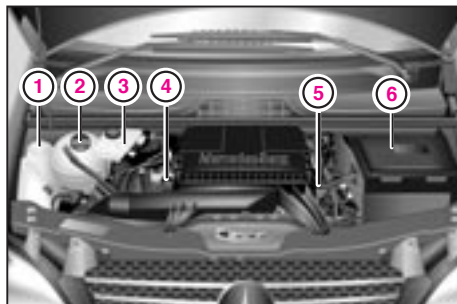
車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、お客様が日常、車をご使用される中で、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンルーム

	名称	ページ
①	ウォッシャー液 リザーブタンク	7-12
②	冷却水リザーブタンク	7-5
③	ブレーキ液 リザーブタンク	7-10
④	エンジンオイル レベルゲージ	7-8
⑤	エンジンオイル フィラーキャップ	7-8
⑥	メインヒューズボックス	8-6

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各部を点検をするときは以下の事項を厳守してください。

警　告

- イグニッションシステムに手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いても、冷却水の温度が高いときはエンジンファンが自動的に回転することがあります。エンジンファンの回転部には身体や物を近づけないでください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

環　境

環境保護のため、オイル・液類を廃棄するときは、指定サービス工場に相談してください。

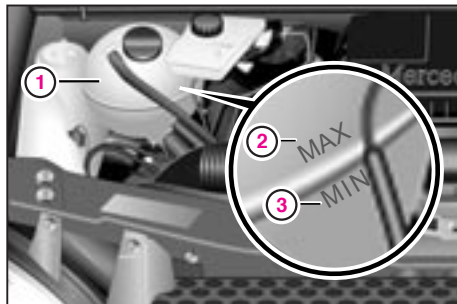
注　意　！

- エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
- ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
- 作業は安全な場所を選んで行なってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 部品や工具をエンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。
- 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一、目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い、医師の診断を受けてください。
- 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんを使用して洗い流してください。放置すると皮膚障害を起こすおそれがあります。
- 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

Vベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。

亀裂や損傷がないか点検してください。

冷却水

① 冷却水リザーブタンク
② レベルインジケーター上限（MAX）
③ レベルインジケーター下限（MIN）

冷却水はリザーブタンク①で点検と補給を行ないます。

冷却水量表示灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

エンジン始動後に点灯したときは、冷却水量が減少しています。冷却水を補給してください。詳しくは**（9-13）**をご覧ください。

冷却水量 / 冷却水温度警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

走行中、赤色に点灯したときは、オーバーヒートしているか、冷却水量が減少しています。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して冷却水が冷えてから冷却水量を確認してください。冷却水が不足している場合はリザーブタンクに補給してください。詳しくは**（7-6）**をご覧ください。

冷却水の量を点検する

▶ 水平な場所に停車します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ 冷却水の液面がレベルインジケーターの上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば適量です。

水温が高いときは約15mmほど高くなります。

警　告

- 冷却水の水温が高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が噴き出して、火傷をするおそれがあります。
- 不凍液をエンジンルーム内にこぼさないでください。不凍液が熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給します。

▶ リザーブタンク①のキャップを反時計回りにゆっくりと約2回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は軟水（水道水）に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます。

不凍液の濃度

凍結温度	不凍液混合率
−37℃	約50%
−45℃	約55%

注　意　!

- 冷却水の補給は、冷却水が冷えてから行なってください。
- 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
- 不凍液の濃度は50%から55%の間にしてください。濃度を55%以上にすると、冷却性能が低下します。
- 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
- 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- 冷却水の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- マルチファンクションディプレイに冷却水に関する警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

エンジンオイル

運転する前に必ずエンジンオイルの量を点検してください。

エンジンオイル量警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。消灯しなかったり走行中に点滅または点灯したときは、エンジンオイル量が規定以下になっています。すみやかに点検し、不足しているときは補給してください。

知　識

エンジンオイル量の警告は、はじめにエンジンオイル量警告灯が点滅します。その後さらにオイル量が不足すると警告灯が点灯に変わり、警告音が鳴ります。

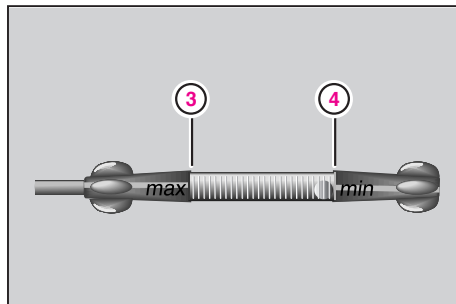
マルチファンクションディスプレイでエンジンオイルの量を点検する

マルチファンクションディスプレイでエンジンオイルの量を点検することができます。

詳しくは**（3-113）**をご覧ください。

エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイルの量を点検する

① エンジンオイルレベルゲージ
② エンジンオイルフィラーキャップ

- ▶ 水平な場所に停車します。
- ▶ エンジンを始動して、エンジンオイルを温めます。
- ▶ エンジンを停止して、約5分待ちます。
- ▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いて差し込みます。

エンジンオイルレベルゲージ先端
③ エンジンオイルレベル上限 (max)
④ エンジンオイルレベル下限 (min)

- ▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイルでエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限(max)③と下限(min)④の間にあれば正常です。
- ▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルを補給します。

エンジンオイルを補給する

- ▶ エンジンオイルフィラーキャップ②を取り外します。
- ▶ 指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。
- ▶ エンジンオイルフィラーキャップ②を取り付けます。

警 告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンオイルが熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

知 識

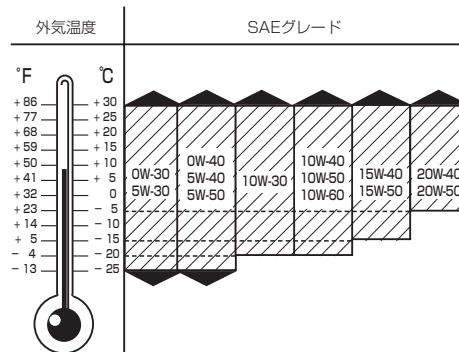
エンジンオイルレベル上限③と下限④の間は約2リットルです。

注 意 !

- 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
- 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
- エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。
- エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。
- エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
- エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

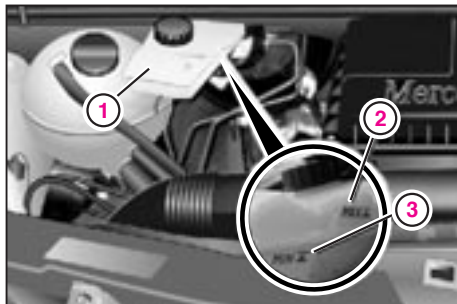
グレードと粘度は下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびフィルターは定期的に交換することをおすすめします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は車の使用状況によって異なりますので、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

知 識

慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

ブレーキ液

① ブレーキ液リザーブタンク
② レベルインジケーター上限（MAX）
③ レベルインジケーター下限（M I N）

ブレーキ液の量を点検する

▶ ブレーキ液リザーブタンク①のレベルインジケーターで点検します。

ブレーキ液の液面がレベルインジケーターの上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

ブレーキ液の交換

定期的に指定サービス工場で交換をしてください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

(!)BRAKE ブレーキ警告灯

エンジンスイッチを**2**の位置にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、数秒後に消灯します。

走行中に点灯する場合は、ブレーキ液の量が不足しています。

すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

警　告

- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。

  あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンや排気管などに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。
- マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する警告メッセージが表示されたり、ブレーキ警告灯（7-10）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

  安全な場所に停車して、指定サービス工場に連絡してください。

注　意　！

- ブレーキ液の減りかたが著しいときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
- ブレーキ液の補給や交換は、指定サービス工場で行なってください。
- 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- 補給はエンジンが冷えてから行なってください。排気系部品などにブレーキ液が付着すると、火災が発生するおそれがあります。
- レベルインジケーターの上限（MAX）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。
- ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で長期間使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロック：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでもブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

① ウォッシャー液リザーブタンク

警　告

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近づけたり、近くで喫煙をしないでください。
また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

ウォッシャー液を補給する

▶ リザーブタンク①のキャップを開きます。

▶ ウォッシャー液を補給します。

使用するウォッシャー液

純正の専用ウォッシャー液を水に混ぜて使用します（8-12）。

知　識

- ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。
- フロントウインドウとテールゲートウインドウのウォッシャー液は兼用です。

注　意！

- ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適切な混合比に混ぜてください。
- 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適当であるか点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないか、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないか点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり極端にすり減っていないか点検します。

スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換してください。

警　告

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すぐに交換してください。タイヤの溝の深さが3mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップを開いた車体側に、タイヤ空気圧ラベル **(7-16)** が貼付されています。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

タイヤとホイール

注　意　！

- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちに点検を受けてください。
- タイヤのトレッドがひどくすり減ったり、傷がついているときは交換してください。
- ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。
- 回転方向が指定されているタイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。
- 装着するタイヤは、指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のものにしてください。

  サイズや銘柄が異なるタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性や安定性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。
- 純正品または指定品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。
- 1本だけ新品のタイヤを装着するときは、前輪に装着してください。
- タイヤの空気圧を点検するときは、応急用スペアタイヤ＊の空気圧も点検してください。
- 摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

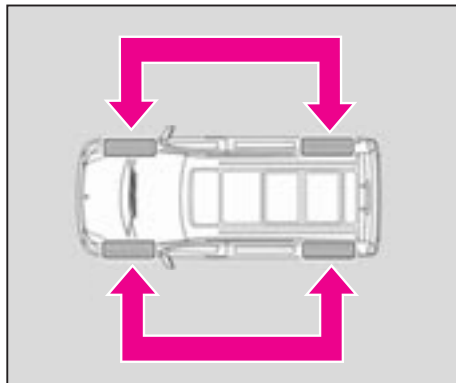
  応急用スペアタイヤ＊も同様に交換してください。

知　識

- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを超えるまでは速度を控えて運転することをおすすめします。
- タイヤが温まっているとき、空気圧は約0.3kg/cm²ほど高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに調整してください。

環　境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料消費量が増加します。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

タイヤローテーション

タイヤローテーションの方法

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000〜10,000kmを目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

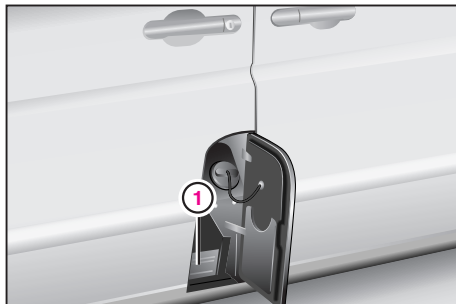
タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

知　識

- タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。この結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。
- タイヤを入れ替えた後に空気圧を調整してください。

  空気圧は、燃料給油口フラップを開いた車体側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

タイヤ空気圧ラベル

①タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベル①は燃料給油口フラップを開いた車体側に貼付してあります。

知　識

タイヤ空気圧、および車両に貼付されるタイヤ空気圧ラベルは予告なく変更されることがあります。必ずタイヤ空気圧ラベルを確認して、空気圧を調整してください。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

PRESSURE　COLD TIRES

Warm tires up to + 0,3 bar + 4 psi

3,5 | 51

		bar	psi	bar	psi
195/65R16C		2,9	42	2,9	42
		3,3	48	3,5	51
205/65R16C		2,7	39	2,7	39
		3,0	44	3,5	51
225/65R16C		2,7	39	2,7	39
		3,3	48	3,5	51
225/65R16RF 225/55R17RF 101 H		2,3	33	2,3	33
		2,6	38	3,0	44
225/55R17RF 101 V		2,5	36	2,5	36
		2,9	42	3,3	48

A 639 584 14 17

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルはシンボル表記になっています。

タイヤサイズや乗車人数、荷物の量に応じて、前輪と後輪、応急用スペアタイヤ＊の空気圧を調整してください。

単位は「bar（≒kg/cm²）」と「psi」で表示しています。

LUFTDRUCK FUR KALTE REIFEN　PRESSURE FOR COLD TIRES　PRESION NEUMATICOS FRIOS
PRESSION DES PNEUS FROIDS　PRESAO PNEUS FRIOS

Warme Reifen bis
Warm tire up to
Neum□ticos calientes hasla
Pneus echauffes jusqu'a
Pneus quentes ate
+ 0,3 bar　+ 4 psi

A 639 584 17 17

3,0 bar 44 psi

225/60 R16 Rf 225/55 R17 Rf	2,3bar 33psi	2,6bar 38psi	2,3bar 33psi	3,0bar 44psi

タイヤ空気圧ラベル（耐荷重102Hのタイヤが装着されている車両）

耐荷重102H以上のタイヤを装着したときは、上記の空気圧ラベルの空気圧に調整してください。

また、耐荷重101H以下のタイヤを装着したときは、左記のラベルを参照してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーを取り扱うときは以下の点に十分注意してください。

警　告

- バッテリーを取り扱うときは、傾けたり横倒しにしないでください。バッテリー液が漏れるおそれがあります。
- バッテリー液が目に入ると失明する恐れがあります。バッテリーを取り扱うときは、保護眼鏡を着用してください。
- バッテリー液が皮膚に付着すると火傷を起こします。ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。
- バッテリー液が衣服や塗装面などに付着すると、腐食が起こります。ただちに多量の流水で洗い流してください。
- 火気を近づけないでください。
- バッテリーケース側面部の液量表示が「min」以下のときは、エンジンを始動したりバッテリーを充電しないでください。液量不足のまま充電すると、劣化を早めたり爆発するおそれがあります。ただちに点検を受けてください。
- 接続するときは、極性(プラス⊕、マイナス⊖)を間違えないように注意してください。バッテリー端子をショートさせると、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- バッテリーの上に金属製の物を載せないでください。バッテリーがショートし、可燃性のガスに発火して爆発するおそれがあります。
- 静電気の発生しやすいところにバッテリーを近づけないでください。発火して爆発するおそれがあります。

注　意 ！

- エンジンがかかっているときは、バッテリー端子をゆるめたり、外さないでください。
- 定期的にバッテリーの点検を行なってください。バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。
- 車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。
- バッテリー端子の接続をゆるめたり、外すときは、エンジンスイッチからキーを抜き、すべての電気装置をオフにしてください。
- 充電機を使用してバッテリーを充電するときは車から取り外してください。
- バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。
- バッテリー端子を取り外すと、ラジオのプリセットメモリーなど、記憶（メモリー）が消去されます。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であること、バッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です (7-21､22)。

スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。

凍結防止用の塩類をまく地方の場合、少なくとも1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをおすすめします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは、以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のヘラなどを使用し、ボディやウインドウを傷つけないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下部の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、凍結していると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。

  また、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着します。休憩時もこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ウインドウ、スライディングルーフ＊などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などについた雪や氷を取り除いてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道を走行するとき

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。
- シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは効かせないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。

  このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、マフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

警　告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地帯での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、セレクターレバーを P に入れ、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤの装着をおすすめします。

装着するウィンタータイヤは、指定のサイズで4輪とも同じ銘柄のものにしてください（8-13）。

注　意　！

- 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。
- ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、車両安定性や制動力が大きく低下するので注意してください。

  スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。
- ウィンタータイヤの溝の深さが4mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、ウィンタータイヤをすぐに交換してください。
- ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールを乾燥した冷暗所で保管してください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

- スノーチェーンは、ダイムラー・クライスラー社の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。
- スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。
- スノーチェーン装着時は約30km/h以下の速度で走行してください。
- スノーチェーン装着時はASRの機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。
- 必要のなくなったときは、すみやかにスノーチェーンを外してください。

※ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくは指定サービス工場におたずねください。

注　意　！

- スノーチェーンは必ず指定品を装着してください。指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、ダイムラー・クライスラー社が指定する用品のみを使用してください。

詳しくは指定サービス工場におたずねください。

警　告

- 一部の合成クリーナーなどには、揮発性有機溶剤や可燃性物質が含まれているおそれがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に1度は洗車してください。
- 飛び石により塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、およびガソリンなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。

- 直射日光が強く当たる場所や走行直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めに指定サービス工場で補修することをおすすめします。

車内

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。
- 遮光フィルムなどを貼り付けるとラジオなどの電波の受信性能が低下するおそれがあります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 走行直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。
- ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、強くこすると細かい傷を付けるおそれがあります。

- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。

高圧式スプレーガンの使用

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをウインドウガラス接合面やボディパネルの継ぎ目部分などに近づけないでください。水圧が高いため、車内に水が侵入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 回転ブラシの硬さによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

ダイムラー・クライスラー社では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、ダイムラー・クライスラー社またはダイムラー・クライスラー日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

警　告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品に、純正部品以外の部品を使用しないでください。事故や故障の原因になります。

知　識

純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連個所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

注　意　!

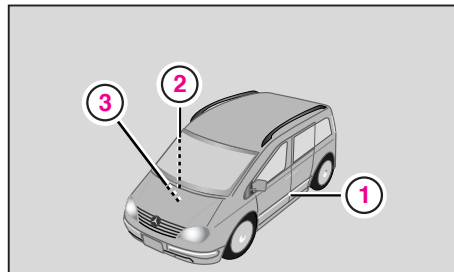
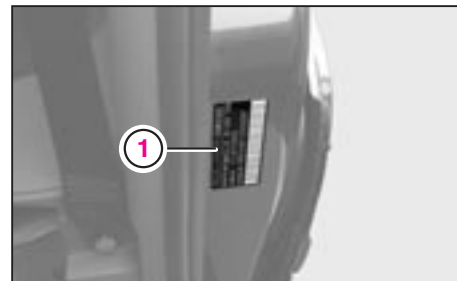
- エアバッグ、シートベルトテンショナー、インストルメントパネル、センターコンソール、Bピラーのフロアパネル付近の周囲には、エアバッグやシートベルトテンショナーのセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や板金などを行なうと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えることがあります。 詳しくは指定サービス工場におたずねください。
- 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは指定サービス工場に相談してください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えることがあります。また電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。
- ウインドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。透明な吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

環　境

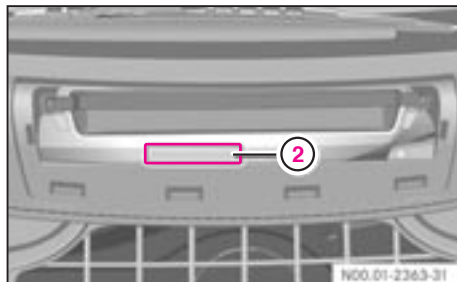
ダイムラー・クライスラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

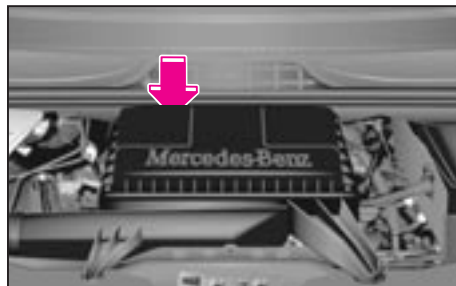
ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号あるいはエンジン番号が必要になることがあります。車台番号やエンジン番号は図の箇所に記されています。

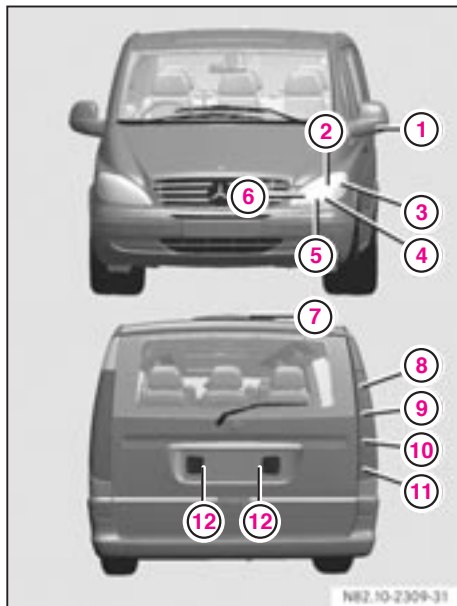
ビークルプレートの位置

① ニューカープレート
② 車台番号
③ エンジン番号

① ニューカープレート

助手席側のBピラー下部に、車の車台番号を記載したニューカープレート①が貼付してあります。

ビークルプレート

② 車台番号

エンジンルーム上部にあるフィルターカバーの下に、車の車台番号②が打刻してあります。

③ エンジン番号

エンジン番号③はエンジン右側後部に打刻してあります。

電球一覧

	ランプ	ワット数（規格）
①	方向指示灯（ドアミラー）	LED
②	ヘッドランプ（下向き）	55W（H7）
③	方向指示灯（フロント）	21W（黄色）
④	ヘッドランプ（上向き）	55W（H7）
⑤	車幅灯	5W
⑥	フォグランプ	55W（H7）
⑦	ハイマウントブレーキランプ	LED
⑧	ブレーキランプ / テールランプ、パーキングランプ	21 / 5W
⑨	方向指示灯（リア）	21W（黄色）
⑩	バックランプ	21W
⑪	リアフォグランプ	21W
⑫	ライセンスランプ	5W

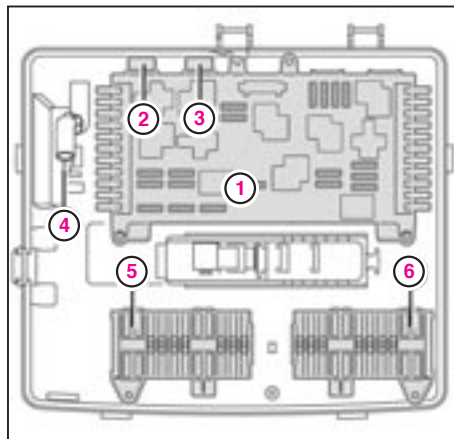
※ 車種や仕様によりライセンスランプの位置が異なる場合があります。

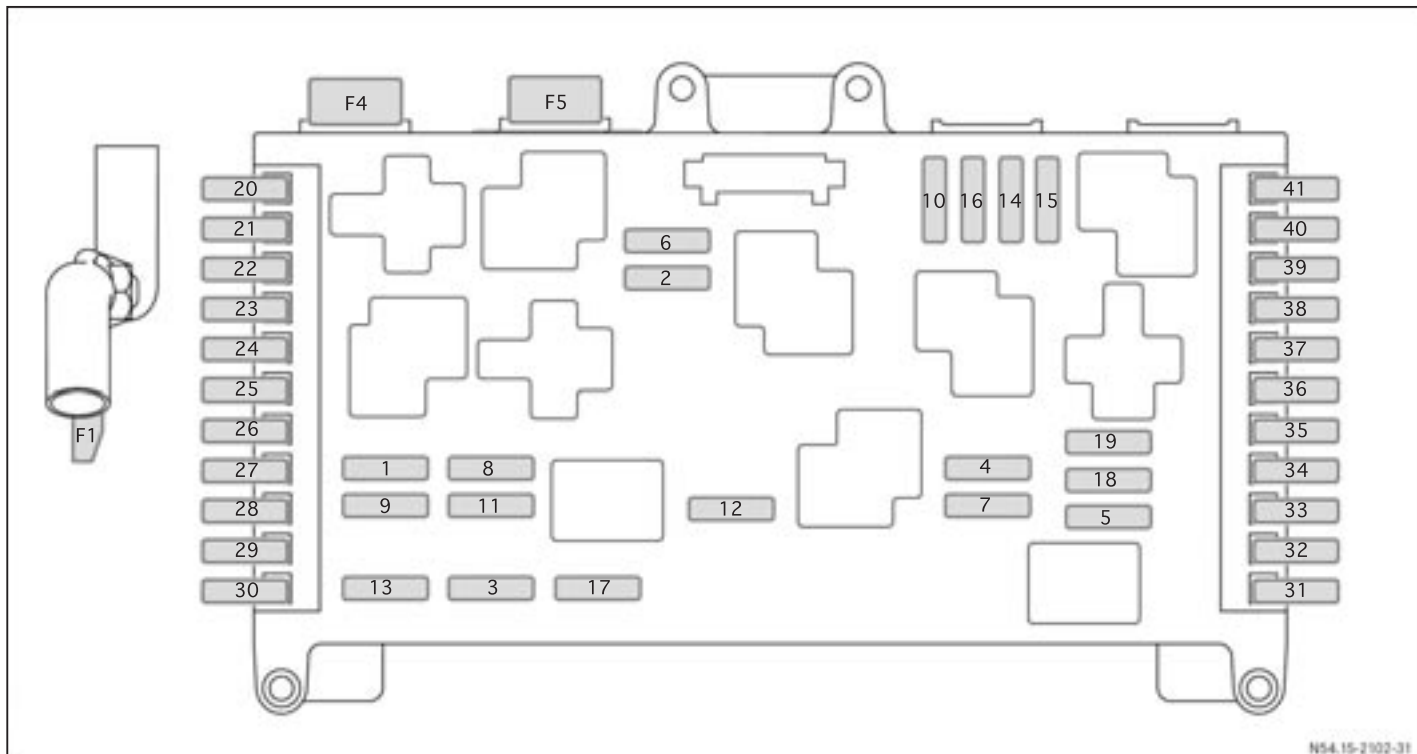
ヒューズ一覧

メインヒューズボックスはエンジンルームの助手席側に、補助ヒューズボックスは助手席シートの下部にあります。詳しくは（6-36）をご覧ください。

警　告

メインヒューズボックスの中に工具を置いたり、工具を落とさないでください。メインヒューズボックスの中にはバッテリーの⊕端子があり、ショートして火災が発生するおそれがあります。

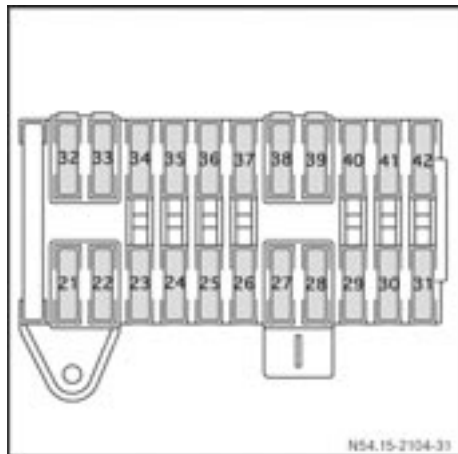
メインヒューズボックス

① メインヒューズブロック
② ヒューズF4
③ ヒューズF5
④ ヒューズF1
⑤ ヒューズブロックF34
⑥ ヒューズブロックF35

メインヒューズブロック、ヒューズF1、ヒューズF4、ヒューズF5

ヒューズ一覧

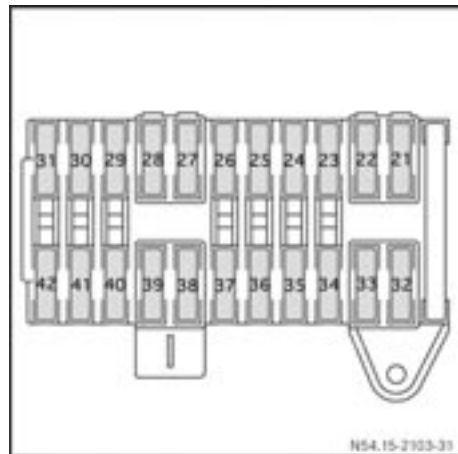
ヒューズ番号 / アンペア数 / 装置名

1 30A ：ワイパーモーター
2 15A ：ホーン
3 5A ：ブレーキランプ
4 7.5A：シートヒーター
5 5A ：診断用ソケット、ヘッドランプスイッチ、インストルメントパネル(表示灯、ランプ、方向指示灯)
6 5A ：エンジンコントロールユニット
7 30A ：リアワイパー
8 10A ：ターミナル87(1)
9 15A ：ターミナル87(2)
10 10A ：ターミナル87(3)
11 7.5A：ターミナル30Zエンジン
12 30A ：リアデフォッガー
13 7.5A：イグニッションロック / インストルメントパネル
14 7.5A：ブレーキシステム
15 5A ：ヘッドランプ照射角度調整＊
16 25A ：スターター
17 15A ：燃料ポンプ
18 15A ：ライター / グローブボックスライト
19 5A ：ラジオ
20 15A ：イグニッションコイル
21 7.5A：オートマチックトランスミッションコントロールモジュール
22 ：未使用
23 10A ：エアバッグコントロールモジュール
24 ：未使用
25 ：未使用
26 ：未使用
27 ：未使用
28 10A ：トランスミッションコントロールモジュール
29 ：未使用
30 ：未使用
31 ：未使用
32 5A ：携帯電話接続 / VICSソケット
33 10A ：エアバッグコントロールモジュール、チャイルドセーフティシート検知センサー
34 ：未使用
35 ：未使用
36 10A ：ランバーサポート＊
37 7.5A：バニティミラー
38 ：未使用
39 ：未使用
40 ：未使用
41 ：未使用
F1 225A：ターミナル30エレクトリカルシステム、オルタネーター
F4 60A ：エアコンディショナーファン
F5 40A ：セカンドエアポンプ

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ヒューズブロックF34

ヒューズ番号 / アンペア数 / 装置名

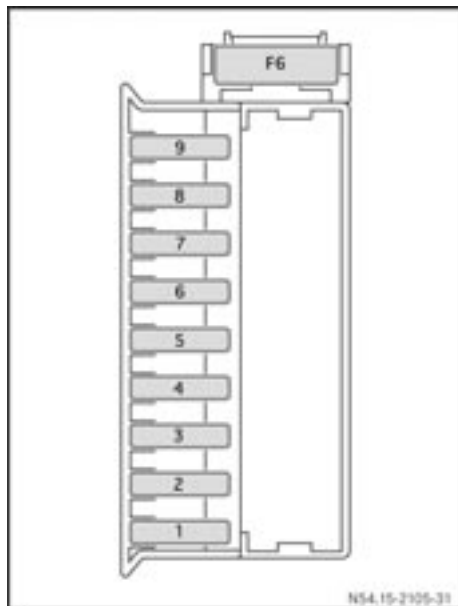
21 5A ：ヘッドランプスイッチ、コントロールパネル上部
22 ：未使用
23 10A ：ルームランプ
24 7.5A または 25A ：オーバーヘッドコントロールパネル スライディング / チルティングサンルーフ＊
25 25A ：スライディングルーフ＊
26 ：未使用
27 7.5A ：リアエアコンディショナー
28 ：未使用
29 ：未使用
30 30A ：シートヒーターコントロール＊
31 ：未使用
32 ：未使用
33 10A ：診断用ソケット
34 ：未使用
35 ：未使用
36 ：未使用
37 ：未使用
38 20A ：ステアリングコラムロック
39 40A ：フロント送風ファン
40 25A ：ABSコントロールモジュール
41 40A ：ABSコントロールモジュール
42 15A ：ラジオ / マルチファンクションコントローラー

ヒューズブロックF35

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

ヒューズ一覧

ヒューズ番号 / アンペア数 / 装置名

21 15A ：サードシート左12V電源ソケット
22 15A ：サードシート右12V電源ソケット
23 ：未使用
24 ：未使用
25 30A ：フロントパワーシート(運転席)＊
26 30A ：フロントパワーシート(助手席)＊
27 ：未使用
28 ：未使用
29 30A ：リア送風ファン
30 40A ：エアサスペンションシステム＊
31 ：未使用
32 ：未使用
33 7.5A：オプション
34 5A：携帯電話コントロールモジュール / VICS+TVブースター
35 ：未使用
36 ：未使用
37 5A：リアエアコンディショナー
38 ：未使用
39 ：未使用
40 15A ：ラゲッジルーム内12V電源ソケット、リアライト
41 ：未使用
42 ：未使用

補助ヒューズボックス

ヒューズ番号 / アンペア数 / 装置名

1 25A ：ドアコントロールユニット(左)
2 25A ：ドアコントロールユニット(右)
3 ：未使用
4 ：未使用
5 ：未使用
6 ：未使用
7 ：未使用
8 ：未使用
9 ：未使用
F6 80A ：SAM-SRB

＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

オイル・液類

必ずダイムラー・クライスラー社の純正品または指定品のみを使用してください。

注 意 !

オイル・液類の漏れを見つけたり、何らかの異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

	容量(ℓ)	指定品目	備考
エンジンオイル	約10.0	承認オイル	オイルフィルター分を含む
オートマチック トランスミッションオイル	約7.8	承認オイル	工場注入時
パワーステアリングオイル	–	純正パワーステアリングオイル	専用オイル
ブレーキ液	–	純正ブレーキ液	DOT 4規格

※ 記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。

オイル・液類

	容量(ℓ)	指定品目	備考
燃料	約75.0	無鉛プレミアムガソリン	警告灯点灯時の残量 約9.0ℓ
冷却水	約10.0	純正不凍液	水に純正不凍液を混ぜて使用 濃度に注意 **(7-6)**
ウォッシャー液	約4.0	純正ウインドウウォッシャー液 冬用、夏用	水と純正ウォッシャー液を 混ぜて使用
バッテリー	–	12V/95Ah、100Ah	助手席シート下
エアコン冷媒	–	R134a	R-12を使用しないこと

注　意　！

- 必ず取扱説明書に記載の指定燃料を使用してください。指定燃料は無鉛プレミアムガソリンです。
- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。
- 指定以外の燃料(高濃度アルコール含有燃料など)を使用して故障が発生した場合は、保証の適用外となりますので、ご了承ください。

タイヤとホイール

標準タイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	ホイール材質	オフセット
225 / 60R16	6.5J × 16	軽合金 / スチール	60mm

応急用スペアタイヤ＊

タイヤサイズ	ホイールサイズ	ホイール材質	オフセット
205 / 65R16	6.5J × 16	スチール	60mm

ウィンタータイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	ホイール材質	オフセット
205 / 65R16 M+S	6.5J × 16	軽合金	60mm

必ず純正品または承認されているタイヤを使用してください。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

※記載の内容は、取扱説明書作成時のもので、予告なく変更されることがあります。
＊オプションまたは仕様により装備が異なります。

積載荷物の制限重量

積載荷物の制限重量

	TREND	AMBIENTE	AMBIENTE long
ルーフレール積載荷物の制限重量	150kg	100kg	100kg

※ルーフキャリアなどの重量も含まれます。
※TRENDにはルーフレールは装備されていません。

トラブルの原因と対応

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状	対応
リモコンの施錠ボタンを押しても方向指示灯が点滅しない。 リモコン操作で施錠できない。	ドアまたはテールゲートが完全に閉じていない。	▶ ドアまたはテールゲートを完全に閉じてから施錠してください。
	セントラルロッキングシステムが故障している。	▶ 車内からロックノブを押し、最後にエマージェンシーキーで助手席ドアを施錠してください。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。	バッテリーの電圧が低下しているため、自動的にシートヒーターが停止している。	▶ 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。	バッテリーの電圧が低下しているため、自動的にリアデフォッガーが停止している。	▶ 電圧が回復すると、リアデフォッガーのスイッチを入れることができます。
助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグの機能が解除されている。	
	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。	▶ チャイルドセーフティシートをセカンドシートまたはサードシート（左側席を除く）に装着してください。 ▶ 指定サービス工場でチャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。

警告音

トラブル	考えられる原因および症状	対応
盗難防止警報が突然作動した。	盗難防止警報システム＊が待機状態のときに、助手席ドアをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システム＊が待機状態のときに、車内からドア、またはテールゲートを開いたか、ボンネットのロックを解除した。	▶ キーの🔓または🔒を押してください。 または、 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
	車外ランプを点灯したままドアを開いた。	▶ ランプスイッチを0の位置にしてください。

＊オプションまたは仕様により装備が異なります

トラブルの原因と対応

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状	対応
事故を起こした。	車から燃料が漏れている。	▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。
	損傷の程度が分からない。	▶ 最寄りの指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンが始動しない。	バッテリー電圧が低下している。 エンジンの制御システムに異常がある。 燃料供給に異常がある。	▶ エンジンを始動する前に、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。 ▶ 始動操作を繰り返してください。ただしエンジン始動を長時間続けると、バッテリーがあがるおそれがあります。 ▶ ブースターケーブルを使用して始動してください(**6-32**)。 ▶ 何度始動を試みてもエンジンが始動しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	未燃焼の燃料が触媒に流れ込み、触媒が損傷している。 イグニッションコイルが損傷している。 エンジンの電気システムに異常がある可能性がある。 指定以外の燃料を使用している。	▶ アクセルペダルを踏み過ぎないように走行し、最寄りの指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブルの原因と対応

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
ワイパーの動きが妨害されている。	ウインドウに障害になる物が付着しているため、ワイパーモーターが停止している。	▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜きます。 ▶ 障害物を取り除きます。 ▶ ワイパーを再び作動させます。
ワイパーが作動しない。		▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください(4-23)。 ▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

キー

トラブル	考えられる原因および症状	対応
エンジンスイッチがまわせない。	キーを長時間0の位置に差し込んでいた。	▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。
	バッテリー電圧が低下している。	▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 ▶ 場合によっては、ブースターケーブルを使用して始動してください。

トラブル	考えられる原因および症状	対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください(3-12)。
	キーが故障している。	▶ エマージェンシーキーで助手席ドアを解錠 / 施錠してください。 ▶ 指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーを紛失した。		▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 新しいキーの入手については、指定サービス工場におたずねください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
キーのボタンを押しても表示灯が点灯しない。	キーの電池が消耗している。	▶ キーの電池を交換してください(3-12)。 電池は指定サービス工場で入手できます。

表示灯 / 警告灯

表示灯 / 警告灯	考えられる原因および症状	対応
走行中に黄色のESP表示灯が点灯する。	ASRの機能が解除されている。	▶ ASRオフスイッチを押して、ASRを待機状態にしてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。
走行中に黄色のESP表示灯が点滅する。	タイヤがグリップを失いかけているか車が横滑りしているため、ASR、ESPなどが作動している。	▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ 発進するときにアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ ASRの機能を解除しないでください(雪道などでの走行を除く)。
エンジンがかかっているときに黄色のABS警告灯が点灯する。	ABSが故障して解除されている。 ABSとともにBAS、ASR、ESPも解除されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
	バッテリーの電圧が低下しているため、ABSの機能が解除され、ブレーキ特性が変化する可能性がある。	▶ 必要であれば、オルタネーターとバッテリーを点検してください。 バッテリー電圧が回復するとABSは作動します。

表示灯 / 警告灯	考えられる原因および症状	対応
エンジンがかかっているときに黄色のBAS / ESP警告灯が点灯する。	バッテリー電圧が低下しているため、BASやESPの機能が解除されている。 ブレーキペダルを踏むのに大きな力が必要になり、通常時よりも深く（奥に）強く踏み込まなければならなくなる。	▶ 必要であれば、オルタネーターとバッテリーを点検してください。 バッテリー電圧が回復するとBASやESPは作動します。
	BAS、ASR、ESPに異常がある。	▶ 指定サービス工場でBASやESPの点検を受けてください。
SRS 走行中に赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯または点滅する。	乗員保護システムに異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶ 十分注意して走行し、最寄りの指定サービス工場で点検を受けてください。
(P)PARK 走行中に赤色のパーキングブレーキ表示灯が点灯する。	パーキングブレーキを解除せずに走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。

表示灯 / 警告灯	考えられる原因および症状	対応
(!)BRAKE エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	制動力を前後輪に配分するシステムが故障している。	▶ 走行しないでください。 ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	バッテリーの電圧が低下しているため、制動力を前後輪に配分するシステムが作動していない。	
	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	
	ブレーキシステムに異常がある。	
エンジンの始動後、または走行中に黄色のブレーキパッド摩耗警告灯が点灯する。	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。ブレーキ特性が変化する可能性がある。	▶ すみやかに指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水量 / 冷却水温度警告灯が点灯する。	冷却水量が不足している。	▶ エンジンを停止してください。 ▶ エンジンが冷えてから冷却水を補給してください。
	この警告灯が頻繁に点灯する場合は、冷却システムに漏れがある可能性がある。	▶ 指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。
	冷却水量が適切な場合、冷却ファンが故障している可能性がある。	▶ エンジンなどに大きな負担をかけたり(山間部の走行など)、停止 / 発進を繰り返さないでください。

表示灯 / 警告灯	考えられる原因および症状	対応
エンジンの始動後、または走行中に黄色のエンジンオイル量警告灯が点滅する。	エンジンオイル量が不足している。	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください。 ▶ エンジンオイルが漏れている場合は、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンの始動後、または走行中に黄色のエンジンオイル量警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに "ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ 2.0ﾘｯﾀｰ ﾂｲｶ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ" と表示され、警告音も鳴る。	エンジンオイル量が限界まで下がっている。	▶ ただちに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ エンジンオイルが漏れている場合は、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ エンジンオイルが漏れていない場合は、オイル量を点検し、エンジンオイルを約2リットル補給してください。
	エンジンオイル量が正常の場合は、エンジンオイル量計測システムのセンサーが故障している。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に赤色の冷却水量 / 冷却水温度警告灯が点灯する。	冷却水温度が約125℃を超えている。	▶ すみやかに停車し、エンジンを停止して冷やしてください。

表示灯 / 警告灯

表示灯 / 警告灯	考えられる原因および症状	対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	燃料タンクが空になっているため、エンジンがエマージェンシーモードになっている。	▶ 燃料を補給した後にエンジン始動操作を3～4回繰り返してください。 エマージェンシーモードが解除されます。
	以下が故障している可能性がある。 • 燃料噴射システム • イグニッションシステム • 排気システム	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンの始動後、マルチファンクションディスプレイに故障表示(例：LA:16)が点灯する。	メーターパネルの表示灯や警告灯の電球が切れている。またはシステムが故障している。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。
方向指示灯が通常より早く点滅する。	方向指示灯のランプが切れている。	▶ ランプを交換してください。
ハイビーム表示灯が点灯する。	ハイビームが点灯している。	▶ 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを下向きにしてください。
エンジンの始動後、電装品ボックス冷却用ファン警告灯が点灯する。	電装品ボックス内の冷却ファンが故障している。	▶ エンジンスイッチを0の位置に戻した後、エンジンを再始動してください。 ▶ 警告灯が消灯しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

表示灯 / 警告灯	考えられる原因および症状	対応
エンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	シートベルトの装着を促している。	▶ シートベルトを着用してください。
エンジンがかかっているときに赤色の充電警告灯が点灯する。	Vベルトが損傷している。	▶ Vベルトを交換してください。
	電気系統が故障している。	▶ 走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで燃料補給してください。
走行中に赤色のENR表示灯が点灯する。	ENRが故障している。	▶ 指定サービス工場でENRの点検を受けてください。
走行中に赤色のENR表示灯が点滅する。	走行中の車高が高すぎるか低すぎる状態になっている。	▶ ENRにより車高が調整されると、表示灯は消灯します。
エンジンの始動後、冷却水量警告灯が点灯する。	冷却水量が不足している。	▶ 冷却水を補給してください。 ▶ 冷却水を通常よりも頻繁に補給している場合は、指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。

故障 / 警告メッセージ

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
ABS	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ! ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ：	ABSまたはABS表示が故障している。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
ESP	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	故障によりESPの機能が解除されている。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ! ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ：	ESPまたはESP表示が故障している。	
	ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ!	システムの故障または電圧が低下したり、バッテリーの接続が断たれたため、ESPが作動していない。	
BAS	ﾌﾞﾚｰｷｱｼｽﾄ ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ!	システムの故障または電圧が低下したり、バッテリーの接続が断たれたため、BASが作動していない。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
	ﾌﾞﾚｰｷｱｼｽﾄ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	故障によりBASが解除されている。	
	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ! ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ：	BASまたはBAS表示が故障している。	
SRS	SRSｼｽﾃﾑ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	乗員保護システムに異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
LA:23		メーターパネルの表示灯や警告灯の電球が切れている。またはシステムが故障している。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場に連絡してください。
(ABS)	ABS ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ABSが故障して作動していない。	▶ 十分注意して走行してください。 ▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
[バッテリー]	ﾃﾞﾝｱﾂ ﾃｲｶ ｴﾝｼﾞﾝ ｽﾀｰﾄ!	バッテリーの電圧が低下している。	▶ エンジンを始動して、バッテリーを充電してください。
	ﾃﾞﾝｱﾂ ﾃｲｶ ﾃﾞﾝｿｳﾋﾝ ｦ ｵﾌ ﾆ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	バッテリーの電圧が低下しているため、電気装備への電力の供給が不足している。	▶ 必要のない電気装備を停止してください。 バッテリー電圧が回復すると、電気装備は使用できます。
	ﾊﾞｯﾃﾘｰ/ｵﾙﾀﾈｰﾀ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	以下の原因によりバッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • Vベルトの損傷	▶ ただちに停車して、Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが切れていないとき** ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
		電気系統に異常がある。	▶ ただちに最寄りの指定サービス工場で点検を受けてください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｯﾄﾞ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ブレーキ特性が変化する可能性がある。	▶ すみやかに指定サービス工場でブレーキパッドを交換してください。
	ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 安全を確認し、ただちに停車してください。 ▶ 走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	EBV	制動力を前後輪に配分するシステムが故障している。 ブレーキ特性が変化して、ブレーキ時に後輪が早めにロックすることがある。	▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｦ ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	パーキングブレーキを解除せずに走行している。	▶ パーキングブレーキを解除してください。
	ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ ｼｽﾃﾑ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	シートベルトが故障している。	▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
	ｳﾝﾃﾝｾｷ ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ ｦ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	運転席の乗員がシートベルトを着用していない。	▶ 運転席のシートベルトを着用してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状	対応
ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬｼﾃ､ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ!	冷却水の温度が高すぎる。	▶ 走行しないでください。 ▶ メッセージが消えない場合は、エンジンを始動しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
	Ｖベルトが損傷している可能性がある。	▶ ただちに停車して、Ｖベルトを点検してください。 **Ｖベルトが切れているとき** ▶ 走行しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。 **Ｖベルトが切れていないとき** ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾚｲｷｬｸｽｲ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ラジエターの冷却ファンが故障している。	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	冷却水量が不足している。	▶ 冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	キーが故障している。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ ﾗﾝﾌﾟ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ! 1)	左ヘッドランプ(ロービーム)の電球が切れている。	▶ すみやかに電球を交換してください。
	ﾗﾝﾌﾟ ｾﾝｻ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	ランプセンサーが故障している。自動的にランプが点灯する。	▶ 各種設定の "ﾗﾝﾌﾟ" のヘッドランプ点灯モード設定画面で、"ﾏﾆｭｱﾙ" に切り替えてください(3-124)。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。
	ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ! ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ ｺｼｮｳ :	マルチファンクションディスプレイに表示されないシステム故障がある。またはタコメーターが故障している可能性がある。	▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。
	ﾄﾞｱ ｶﾞ ｱｲﾃｲﾏｽ!	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。	▶ ドアを閉じてください。

1) この例以外のメッセージも表示されます。車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所と対応が表示されます。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
(エンジンオイル警告マーク)	ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃｲｼｬｼﾃ、ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ!	ディスプレイ表示が故障している。	▶ オイルレベルゲージを使用して、エンジンオイル量を点検してください。
		エンジンオイル量が不足しているか、エンジンオイルが漏れているため、エンジンを損傷するおそれがある。	▶ ただちに安全な場所に停車してください。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ 指定サービス工場まで車をけん引してください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	エンジンオイル量が限界まで不足している。	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給(7-7、8)してください。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、指定サービス工場で、エンジンからオイルが漏れていないか点検を受けてください。
		エンジンオイルに水が混じっている。	▶ エンジンオイルを点検してください。
	ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ 1.0ﾘｯﾀｰ ﾂｲｶ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	エンジンオイル量が不足している。	▶ エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給(7-7、8)してください。
	ｴﾝｼﾞﾝ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｵｲﾙ ｦ ﾇｲﾃｸﾀﾞｻｲ	エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや三元触媒コンバーターを損傷するおそれがある。	▶ エンジンオイルを抜いてください。 オイルを廃棄するときは規則に従ってください。

故障 / 警告メッセージ

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状	対応
(エンジンオイル表示灯)	ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ｼﾃｲﾉ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ!	エンジンオイル量計測システムが故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙｿｸﾃｲ ﾊ ｴﾝｼﾞﾝ ﾃｲｼﾁｭｳ ﾉﾐ ｶﾉｳ!	エンジンがかかっているときに、エンジンオイル量を点検しようとしている。	▶ エンジンを停止してから点検を行なってください。
(燃料表示灯)	ﾈﾝﾘｮｳ ﾎｷｭｳ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	燃料の残量が非常に少なくなっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで燃料補給してください。
(ウォッシャー液表示灯)	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾚﾍﾞﾙ ｦ ﾃﾝｹﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ!	ウォッシャー液量が不足している。	▶ ウォッシャー液を補給してください。

注 意 !

- メーターパネルやディスプレイが故障した場合はメッセージは表示されません。このときは指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や不具合は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。この故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

知 識

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。

※記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイに表示されるメッセージの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ラ

ワ

英字

“ESP® ” はダイムラー・クライスラー（株）の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2006年３月現在のものです。

対象モデル

VIANO 3.2 TREND
VIANO 3.2 AMBIENTE
VIANO 3.2 AMBIENTE long